



## **Cisco Unified Communications Manager リリース 11.0(1) のコール 詳細レコード管理ガイド**

初版：2015年06月22日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティングシステムの UCB（University of California, Berkeley）パブリック ドメイン バージョンの一部として、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco および Cisco ロゴは、シスコや米国および他の国の関連会社の商標です。シスコの商標の一覧は、<http://www.cisco.com/go/trademarks> で参照できます。本書に記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません（1110R）。

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

### はじめに vii

目的 vii

対象読者 viii

関連資料 viii

構成 viii

表記法 ix

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート xi

シスコ製品のセキュリティの概要 xi

### シスコのコール詳細レコード 1

#### シスコのコール詳細レコード 3

##### CDR 管理 3

CDR エージェント 4

CDR Repository Manager 5

CDR onDemand サービス 6

Cisco Unified Communications Manager のアップグレードと CDR データ 6

CDR データベースのバックアップと復元 6

CDR に関連するマニュアル 6

#### CDR 処理 9

レコード処理 9

#### コール情報レコードのタイプ 11

コール情報レコードのタイプ 11

グローバル通話 ID 12

番号トランスレーション 13

パーティションおよび番号 13

タイムスタンプ 15

コールクリア原因 16

符号付き 10 進数値を IP アドレスに変換	16
コール詳細レコード	19
CDR の例	21
AAC コール	23
放棄コール	26
アドホック会議リンク	27
参加を使用した会議リンク	28
転送または直接転送を使用した会議リンク	30
リンクされた会議からの参加者の削除	32
リンクされた会議からの参加者（コントローラ）の削除	34
リンクされた会議の削除	37
エージェントのグリーティング コール	40
割込み	41
コール モニタリング	45
コール パーク	46
コール パーク ピックアップ	47
コール パーク 復帰	48
コール ピックアップ	49
ピックアップ	50
自動ピックアップ	50
コール録音	52
コールのセキュリティ保護ステータス	54
発信側の正規化	56
使用中または無効な宛先を含むコール	57
C 割込み	59
クライアント識別コード（CMC）	60
会議コール	62
動作要因	65
開催中の会議コール	67
会議からの任意の通話者のドロップ	69
転送での元の発信側	70
DTMF 方式	71

エンドツーエンド コール トレース	73
強制承認コード (FAC)	77
転送またはリダイレクトされたコール	79
ハント リストのサポート	83
H.239	86
iLBC コール	88
Intercompany Media Engine	90
即時転送 (ボイスメッセージング システム宛て)	95
ISE アプリケーション サーバ	98
インターコム コール	99
IPv6 コール	101
レガシー コール ピックアップ	106
ローカル ルート グループおよび着信側変換	107
論理パーティショニング コール	109
迷惑コール	111
ミーティング会議	112
モビリティ	113
ネイティブ コール キューイング	128
通常のコール (Cisco Unified IP Phone から Cisco Unified IP Phone へ)	129
転送での元の発信側	131
パーソナル アシスタント コール	132
パーソナル アシスタント ダイレクト コール	132
メディア ポートに入ってコールを転送するパーソナル アシスタント 代行受信者	133
直接宛先に入るパーソナル アシスタント 代行受信者	134
ルールなしの宛先に直接入るパーソナル アシスタント 代行受信者の CDR の例	134
ルールありの宛先に直接入って別の宛先にコールを転送するパーソナル アシスタントの CDR の例	134
パーソナル アシスタント 代行受信者の複数の宛先へのアクセス	135
パーソナル アシスタント 会議	139
優先コール (MLPP)	140
リダイレクション (3xx) コール	141

リダイレクト番号の変換	143
Refer コール	143
Replace コール	144
RSVP	146
セキュアなミーティング会議	147
ショート コール	148
[CallingPartyNumber] フィールドに URL を含む SIP コール	149
成功したオン ネット コール	150
転送コール	150
ビデオ コール	154
ビデオ会議コール	155
シスコのコール詳細レコード フィールドの説明	159
CDR フィールドの説明	159
外部コール制御のルーティング原因値	199
シスコのコール詳細レコードのコード	201
コーデック タイプ	201
コール終了原因コード	204
リダイレクト理由コード	211
OnBehalfof コード	214
コール管理レコード	217
コール管理レコード	219
コール管理レコード	219
CMR 処理	219
CMR の設定	221
CPU 使用率	221
シスコのコール管理レコード フィールドの説明	223
CMR フィールドの説明	223
シスコのコール管理レコードの K-Factor データ	237
K-Factor データ	237
シスコのコール管理レコードの例	241
CMR の例	241



## はじめに

---

- 目的, vii ページ
- 対象読者, viii ページ
- 関連資料, viii ページ
- 構成, viii ページ
- 表記法, ix ページ
- マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート, xi ページ
- シスコ製品のセキュリティの概要, xi ページ

## 目的

この『Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide』では、コール詳細レコード (CDR) とコール管理レコード (CMR) を設定する方法と、これらのレコードの例について説明します。このマニュアルは、次のマニュアルと組み合わせてお使いください。

- 『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』 : このマニュアルでは、ユーザ、システム、デバイス、および課金のレポートの作成に使用するツールである Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting (CAR) を設定および使用方法について説明します。
- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』 : このマニュアルでは、Cisco Unified Serviceability を使用して、アラーム、トレース、SNMP などを設定することと、その手順について説明します。
- 『*Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』 : このマニュアルでは、システムのさまざまな面 (重要なサービス、アラート、パフォーマンスカウンタなど) を監視するためのツールである Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の使い方について説明します。
- 『*Cisco Unity Connection Serviceability Administration Guide*』 : このマニュアルでは、Cisco Unity Connection サービスアビリティでアラーム、トレース、レポートなどを使用する方法と、その手順について説明します。

## 対象読者

『Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide』には、CDR の管理とサポートを担当する管理者のための情報が記載されています。このガイドは、ネットワークエンジニア、システム管理者、または電気通信技術者が、課金プログラムやその他のサードパーティのプログラムに CDR レコードや CMR レコードをインポートするために、これらの内容や構造を学習するために使用することを想定しています。また、CAR 管理者、マネージャ、およびエンドユーザが、特定の CAR レポートで作成される情報を分析するためにこのガイドを使用することも想定しています。

## 関連資料

その他の Cisco Unified Communications Manager マニュアルについては、『Cisco Unified Communications Manager Documentation Guide』を参照してください。次の URL は、マニュアルへのパスの例です。

[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/cucm/docguide/8\\_0\\_1/dg801.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/docguide/8_0_1/dg801.html)

その他の Cisco Unity Connection マニュアルについては、『Cisco Unity Connection Documentation Guide』 ([http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products\\_documentation\\_roadmaps\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_documentation_roadmaps_list.html).) を参照してください。

## 構成

次の表に、このマニュアルの構成を示します。

章	説明
概要	
<a href="#">シスコのコール詳細レコード, (3 ページ)</a>	コール詳細レコードの概要と CDR 管理の概要について説明します。
<a href="#">CDR 処理, (9 ページ)</a>	CDR の処理方法に関する手順について説明します。
<a href="#">コール情報レコードのタイプ, (11 ページ)</a>	コール情報レコードについて説明します。
コール詳細レコード	
<a href="#">CDR の例, (21 ページ)</a>	コール詳細レコードの例を示します。
<a href="#">シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, (159 ページ)</a>	コール詳細レコードのすべてのフィールドについて説明します。



章	説明
シスコのコール詳細レコードのコード、(201 ページ)	コール終了原因コード、コーデック タイプ コード、リダイレクト理由コード、および onbehalfof コードなど、すべての CDR コードについて説明します。
<b>コール管理レコード</b>	
コール管理レコード、(219 ページ)	コール管理レコード (CMR) の概要を説明します。
シスコのコール管理レコードフィールドの説明、(223 ページ)	CMR フィールドを説明します。
シスコのコール管理レコードの K-Factor データ、(237 ページ)	CMR レコードにある K-Factor データについて説明します。
シスコのコール管理レコードの例、(241 ページ)	CMR の例を示します。

## 表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
<b>太字</b> フォント	コマンドおよびキーワードは <b>太字</b> で示しています。
<i>italic</i> フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で表記されています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x   y   z }	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[ x   y   z ]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。 <b>string</b> の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて <b>string</b> とみなされません。

表記法	説明
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
^	^記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



ワンポイントアドバイス

「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

役立つ「ヒント」の意味です。

注意は、次のように表しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。

**警告**

この警告マークは「危険」を意味し、負傷する可能性があることを示しています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。

## マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート

マニュアルの入手方法、テクニカルサポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

## シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、[http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear\\_data.html](http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear_data.html) で参照できます。





## 第 **1** 部

# シスコのコール詳細レコード

- [シスコのコール詳細レコード, 3 ページ](#)
- [CDR 処理, 9 ページ](#)
- [コール情報レコードのタイプ, 11 ページ](#)





## 第 1 章

# シスコのコール詳細レコード

この章では、Cisco Unified Communications Manager システムが作成したコール詳細レコード (CDR) の形式および理論について説明します。この情報は、課金記録の生成やネットワーク分析などの後処理作業に使用できます。

システムをインストールすると、CDR はデフォルトで有効になります。コール管理レコード (CMR) もデフォルトでは無効のままです。CDR または CMR は、システムの動作中にいつでも有効または無効にできます。この変更を有効にするために、Cisco Unified Communications Manager を再起動する必要はありません。システムは、数秒以内にすべての変更に対応します。CMR または診断データは、CDR データとは別に有効にされます。

- [CDR 管理, 3 ページ](#)
- [Cisco Unified Communications Manager のアップグレードと CDR データ, 6 ページ](#)
- [CDR データベースのバックアップと復元, 6 ページ](#)
- [CDR に関連するマニュアル, 6 ページ](#)

## CDR 管理

バックグラウンドアプリケーションである CDR 管理 (CDRM) 機能は、次の機能をサポートしています。

- Cisco Unified Communications Manager サーバまたはノードから CDR リポジトリ サーバまたはノードに CDR/CMR ファイルを収集します。
- CAR が設定されているサーバ上で CDR/CMR ファイルを収集および保持します。
- CDR リポジトリ ノードまたは CDR サーバ上で CDR/CMR ファイルを保持します。
- サードパーティアプリケーションが SOAP インターフェイスによって CDR/CMR ファイルをオンデマンドで取得できるようにします。
- ファイル名を検索するためのオンデマンドでの要求を受け付けます。

- CDR/CMR ファイルを、クラスタ内の個別のノードから CDR リポジトリ サーバまたはノードにプッシュします。
- CDR/CMR ファイルを、最大3台のカスタマー課金サーバに、FTP/SFTP 経由で送信します。
- CAR を設定したサーバ上か、CDR リポジトリ サーバまたはノード上の CDR/CMR ファイルのディスク使用率をモニタします。
- 正常に配信された CDR/CMR ファイルを定期的に削除します。フラットファイルを格納するために使用されるストレージの量を設定できます。ストレージの制限は事前に定義されています。ストレージの制限を超えた場合、CDR Repository Manager は古いファイルを削除して、事前に設定されている下限までディスク使用率を下げます。後処理アプリケーションは、バッファに格納された履歴データを取得して、損失、破損、不足しているデータを再度取得できます。CDRM 機能はフラットファイルの形式に対応しておらず、ファイルの内容を操作しません。



(注) CDRM 機能は、CDR ファイルと CMR ファイルを同じ方法で処理します。

CDRM は、CDR Agent と CDR Repository Manager の2つのデフォルトのサービスと、1つのアクティブ化サービス CDR onDemand Service で構成されます。

#### 関連トピック

[コール情報レコードのタイプ, \(11 ページ\)](#)

[CDR エージェント, \(4 ページ\)](#)

[CDR onDemand サービス, \(6 ページ\)](#)

[CDR 処理, \(9 ページ\)](#)

[CDR Repository Manager, \(5 ページ\)](#)

[CMR 処理, \(219 ページ\)](#)

## CDR エージェント

Cisco Unified Communications Manager インストール内のサーバまたはノード上の常駐コンポーネントが、CDRM 機能の一部の CDR Agent として機能します。Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications Manager と CDR Agent の両方が動作しているサーバまたはノードで、カンマ区切り値 (CSV) 形式の CDR フラットファイルに CDR を書き込みます。このとき、コール処理モジュールによって特殊な制御文字 (“\_”) がファイル名の前に付けられます。これはこのファイルが転送に使用できないことを示します。この制御文字が付いていない場合、システムはファイルが転送に使用できると見なし、CDR Agent はこれらのファイルを指定された CDR リポジトリ ノードに SFTP 送信します。正常に転送されると、システムはファイルのローカルコピーを削除します。

CDRM 機能では、信頼性が最優先されます。CDR は非常に重要な財務データを含むため、この機能の目的は CDR が一切失われなくようにすることです。Cisco Unified Communications Manager では、フラットファイルへの書き込み、既存のフラットファイルのクローズ、および新しいフラットファイルのオープンを継続的に行います。書き込まれるレコードの数は、コールのタイプや



コール中に発生する重大な変化（コールの終了、転送、リダイレクト、分割、結合など）によって異なります。



(注) Linux プラットフォームでは、CDR Agent は Cisco Unified Communications Manager が生成する CDR/CMR フラット ファイルを収集し、これらのファイルを SFTP でパブリッシュャに送信します。Windows バージョンでは SFTP をサポートしていません。Windows プラットフォームでは、CDR Agent によって、サブスクリバのディスクから共有パブリッシュャのディスクにファイルが直接コピーされます。

## CDR Repository Manager

Cisco Unified Communications Manager サーバまたはクラスタ内で、CDR Repository Manager の 1 つのインスタンスが CDR リポジトリ サーバまたはノード上で動作します。Cisco Unified Communications Manager ノードから受信された CDR ファイルを管理し、指定されたカスタマー/サードパーティの課金サーバに、FTP/SFTP 経由で CDR ファイルを定期的送信します。

ファイルが CDR リポジトリ サーバまたはノードに到達すると、CDR Repository Manager がそれを検出します。システムによって、日付ごとの専用のディレクトリにファイルがアーカイブされます。この日付は、ファイルが作成されたときにファイル名に付けられる UTC タイムスタンプで示されます。

CDRM 設定で外部の課金サーバが指定されている場合は、CAR や対応する課金サーバがアクティブになると、CAR や請求サーバに対応する各フォルダにシステムによって空のファイルが作成されます。CDR Agent は、コール処理コンポーネントによって CallManager サーバまたはノード上に生成される新しい CDR/CMR ファイルをモニタします。次にファイルを CDR リポジトリ ノードに送信し、ファイルが押し出された後にローカルコピーを削除します。CDR Repository Manager のファイル送信側コンポーネントは、これらの空のファイルを検出し、指定された方法でファイルを宛先に送信します。送信が成功すると、システムは宛先ディレクトリの空のファイルを削除します。

各 Cisco Unified Communications Manager は、最大 1 時間にわたって 1 分ごとに CDR ファイルを 1 つと CMR ファイルを 1 つ生成できます。プロビジョニングによって、CDR リポジトリ内の CDR ファイルの保存に使用する最大ディスク領域を設定できます。

CDR Repository Manager のファイルマネージャ コンポーネントは、1 時間ごとに動作します。ファイルマネージャが動作すると、設定した保存期間を超える日付が付いたファイルが削除されます。また、ディスク使用率が上限を超えていないのかもチェックされます。上限を超えている場合、システムは下限に達するまで、処理済みの CDR ファイルを古いものから順に削除します。ただし、削除対象の CDR ファイルが指定された課金サーバに正常に送信されなかった場合、システムはそのファイルを CDR リポジトリに残し、通知またはアラームを生成します。システムは設定されたメンテナンス時間帯に、CDR onDemand Service のための CDR ファイルへのアクセスを拒否するフラグファイルを作成します。メンテナンス時間帯の終了後、システムはフラグファイルを削除します。

CDR Repository Manager およびカスタマー課金サーバの詳細な設定手順については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』の「“CDR Repository Manager Configuration”」の項を参照してください。

## CDR onDemand サービス

CDR onDemand Service は、SOAP/HTTPS ベースのサービスで、CDR リポジトリ サーバまたはノード上で動作します。これは、ユーザが指定した間隔（最大 1 時間）に基づいて、CDR ファイル名のリストの SOAP 要求を受信し、要求で指定された時間内に収まるファイル名のすべてのリストを返します。

CDR onDemand サービスは、SFTP API を使用して指定された宛先に特定の CDR ファイルを配布する要求も処理できます。すべての SFTP 接続で、各セッション設定のユーザ ID とパスワード情報が必要です。送信されるファイルごとに個別の SFTP セッションがセットアップされ、ファイルの送信後にセッションはクローズされます。システムは、リポジトリの CDR ファイルにアクセスする必要があるため、CDR リポジトリ ノード上で CDR onDemand サービスをアクティブにすることができます。メンテナンス時間帯には、システムはサービスを禁止します。CDR onDemand サービスの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Developers Guide*』を参照してください。

## Cisco Unified Communications Manager のアップグレードと CDR データ

古いバージョンの Cisco Unified Communications Manager を新しいバージョンの Cisco Unified Communications Manager にアップグレードする際には、すべての CDR データをアップグレードできない場合があります。アップグレード後に使用可能な CDR データの量に影響する制限事項の詳細については、『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』の「“Upgrading the CAR Database”」の項を参照してください。また、最新の『*Data Migration Assistant User Guide*』および最新のアップグレードマニュアルも参照してください。

## CDR データベースのバックアップと復元

CAR および CDR のディザスタリカバリ サービス (DRS) は、Cisco Unified Communications Manager の DRS に組み込まれています。

『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

## CDR に関連するマニュアル

次のマニュアルには、CDR に関する詳細情報が記載されています。

- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』の「“Configuring the CDR Repository Manager”」の章を参照してください。
- 『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』
- 『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』の「Configuring CDR Analysis and Reporting Tool」の章にある「“Activating CAR”」の項を参照してください。
- 『*Cisco Unified Communications Manager Developers Guide*』

- 『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。





## 第 2 章

# CDR 処理

この章では、CDR がどのように処理されるかについて説明します。

- [レコード処理, 9 ページ](#)

## レコード処理

Cisco Unified Communications Manager は、2つのタイプのコール情報レコード、CDR と CMR を生成します。CDR レコードには、コールに関する情報が格納されます。CMR レコードには、コールの音声ストリームの品質に関する情報が格納されます。CDR レコードは、[Global CallID callManagerId] および [GlobalCallID Called] という2つの GlobalCallID カラムによって CMR レコードに関連付けられます。コールシナリオに応じて、CDR ごとに複数の CMR が存在する場合があります。

Cisco Unified Communications Manager がコールを発信または受信すると、そのコールの終了時に CDR レコードが生成されます。CDR はフラットファイル（テキストファイル）に書き込まれます。Cisco Unified Communications Manager では、コール制御処理は、CDR レコードを生成します。あるコールに重大な変化（コールの終了、転送、リダイレクト、分割、結合など）が発生すると、レコードが書き込まれます。

CDR レコードが有効になっている場合、コール制御によりコールごとに1つまたは複数の CDR レコードが生成されます。これらのレコードは EnvProcessCdr に送信され、フラットファイルに書き込まれます。書き込まれるレコードの数は、コールのタイプやコールシナリオによって異なります。診断が有効になっている場合、デバイスによりコールごとに CMR レコードが生成されます。コールに関与する IP Phone ごとに、またはメディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) ゲートウェイごとに、1つの CMR レコードが書き込まれます。これらのレコードは EnvProcessCdr にも送信され、フラットファイルに書き込まれます。

Cisco Unified Communications Manager は CDR および CMR レコードを生成しますが、レコードに対する後処理は実行しません。これらのレコードはカンマ区切り形式のフラットファイルに書き込まれ、定期的に CDR リポジトリに渡されます。CDR および CMR ファイルは、フラットファイル内で特定のファイル名形式で表されます。

## ファイル名形式

次に、ファイル名の完全な形式の例を示します。

**tag\_clusterId\_nodeId\_datetime\_seqNumber**

- **tag** : ファイルのタイプ (CDR または CMR) を指定します。
- **clusterId** : Cisco Unified Communications Manager データベースが存在するクラスタまたはサーバを指定します。
- **nodeId** : ノードを識別します
- **datetime** : UTC 時刻 (yyyymmddhhmm 形式)
- **seqnumber** : シーケンス番号

次に、ファイル名の例を 2 つ示します。

```
cdr_Cluster1_01_200404021658_1
cmr_Cluster1_02_200404061011_6125
```

## フラット ファイルの形式

CDR および CMR フラット ファイルの形式は次のとおりです。

- 1 行目 : フィールド名のリスト (カンマ区切り)
- 2 行目 : フィールド名のリスト (カンマ区切り)
- 3 行目 : データ (カンマ区切り)
- 4 行目 : データ (カンマ区切り)

次に、フラット ファイルの例を示します。

```
Line1-"cdrRecordType","globalCallID_callManagerId","globalCallID_callId","origLegCallIdentifier",...
Line2-INTEGER,INTEGER,INTEGER,INTEGER,...
Line3-1,1,388289,17586046,...
Line4-1,1,388293,17586054,...
```



(注) CDR Log Calls With Zero Duration Flag パラメータの値が [True] の場合、システムはすべてのコールをフラット ファイルに書き込みます。このパラメータに関するその他の情報については、『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』の「“Configuring CDR Service Parameters”」の項を参照してください。

## 関連トピック

- [シスコのコール詳細レコード, \(3 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードフィールドの説明, \(223 ページ\)](#)
- [コール情報レコードのタイプ, \(11 ページ\)](#)
- [CDR に関連するマニュアル, \(6 ページ\)](#)



## 第 3 章

# コール情報レコードのタイプ

この章では、Cisco Unified Communications Manager によって作成されるコール詳細レコード (CDR) およびコール管理レコード (CMR、コール診断レコードとも呼ばれる) という 2 種類のコール情報レコードについて説明します。

- [コール情報レコードのタイプ, 11 ページ](#)
- [グローバル通話 ID, 12 ページ](#)
- [番号トランスレーション, 13 ページ](#)
- [パーティションおよび番号, 13 ページ](#)
- [タイムスタンプ, 15 ページ](#)
- [コールクリア原因, 16 ページ](#)
- [符号付き 10 進数値を IP アドレスに変換, 16 ページ](#)

## コール情報レコードのタイプ

Cisco Unified Communications Manager では、コール詳細レコード (CDR) およびコール管理レコード (CMR、診断レコードとも呼ばれる) という 2 種類の呼情報レコードが生成されます。CDR には、コールのエンドポイントやその他のコール制御/ルーティングに関する情報が格納されます。CMR には、コールの音声ストリームの品質に関する診断情報が格納されます。1 つの CDR に対して複数の CMR を設定することができます。

CMR は、Cisco Unified IP Phone、Cisco 7960 シリーズの電話機、およびメディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) ゲートウェイでサポートされています。コールにこれらのエンドポイントのいずれかが含まれている場合は、コール終了後に CMR レコードが生成されます。コールの各エンドポイントは個別の CMR レコードを生成します。コール診断をサポートしていないエンドポイントがコールに含まれる場合、そのエンドポイント用のレコードは生成されません。Cisco 7960 電話機から H.323 ゲートウェイへのコールでは、(Cisco 7960 電話機から) CMR レコードが 1 つ生成されます。

CDR は、次の 2 つの globalCallID カラムによって CMR に関連付けられます。

- globalCallID\_callManagerId
- globalCallId\_callId

Call Diagnostics サービス パラメータが [True] に設定されている場合、コールごとに最大 2 つの CMR が生成されます。コールのタイプ（会議コール、コール転送、転送されたコール、ゲートウェイ経由のコールなど）ごとに、レコードセットが生成され、コールの終了時に ASCII ファイルに書き込まれます。コールが完了または失敗した場合にのみ CDR および CMR が生成されません。Cisco Unified Communications Manager は CDR または CMR に対する後処理は実行しません。

#### 関連トピック

- [コール管理レコード, \(219 ページ\)](#)
- [CDR 処理, \(9 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコード, \(3 ページ\)](#)
- [CDR に関連するマニュアル, \(6 ページ\)](#)

## グローバル通話 ID

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Unified IP Phone がオフフックになった場合、またはコールがゲートウェイから受信された場合に、常にグローバルコールID (GlobalCallID\_callId) を割り当てます。GlobalCallID\_callId は、クラスタ内の他のコールサーバで実行されるコールとは無関係に、Cisco Unified Communications Manager サーバ上で連続的に割り当てられます。Cisco Unified Communications Manager は、1,000 コールごとに GlobalCallID\_callId 値をディスクファイルに書き込みます。Cisco Unified Communications Manager が何らかの理由で再起動すると、次の GlobalCallID\_callId に次の 1000 番台の番号が割り当てられます。

たとえば、あるコールが成功したとき、CDR の GlobalCallID\_callId 値は 1001 です。次のコールに対しては、GlobalCallID\_callId 値は 1002 となり、この処理が繰り返されます。Cisco Unified Communications Manager が再起動すると、CDR の次のコールの値には 2001 が割り当てられます。番号はこの値から Cisco Unified Communications Manager が再び再起動するまで順番に付けられます。次に再起動が行われると、GlobalCallID\_callId の値は 3001 になります。



(注) GlobalCallID\_callId に割り当てられる最大値は 24 ビットに制限されています。この制限に到達すると、GlobalCallID\_callId の値は 1 にリセットされます。

CDR ファイル内の GlobalCallID\_callId は、CDR フラットファイル内では順番でない可能性があります。GlobalCallID\_callId = 1 のコールが GlobalCallID\_callId = 2 のコールよりも長く続いた場合、GlobalCallID\_callId = 2 用の CDR レコードは、GlobalCallID\_callId = 1 の前に書き込まれます。GlobalCallID\_callIds は CDR フラットファイルから完全に欠落する場合があります。1 番目の CDR レコードの GlobalCallID\_callId が 1 で、2 番目の CDR の GlobalCallID\_callId が 3 である場合でも、GlobalCallID\_callId が 2 の CDR が欠落していることを意味するわけではありません。値が 2 の GlobalCallID\_callId は、CDR を生成するための基準に一致していませんでした。1 番目と 3 番目のコールが正常であるものの、2 番目のコールがまだ完了していない場合、あるいは値が 2 の GlobalCallID\_callId が会議コールに参加している場合には、CDR の生成に失敗することがありま



す。会議コールの各コール レッグには、会議の GlobalCallId\_callId で上書きされる GlobalCallId\_callId が割り当てられます。元の GlobalCallId\_callId は CDR フラット ファイルに表示されない場合があります。

CDR レコードから [GlobalCallId\_callId] フィールドがなくなっている場合、CAR は、その特定のレコードに対するエラーを生成します。CDR エラーの詳細については、『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』の「“Configuring CDR Error Reports”」の章を参照してください。



(注) Cisco Unified Communications Manager リリース 5.x 以降のリリースでは、Cisco Unified Communications Manager が再起動されても GlobalCallId CDR フィールドの値は保持されます。Release 4.x 以前のリリースでは、GlobalCallId フィールドが時間ベースですが、このフィールドは、トラフィックが混雑した状況で再使用されます。この動作が原因で、お客様の課金アプリケーションに問題が生じたり、CMR と CDR の相関および電話会議と CDR の相関を行う CAR の機能に問題が発生することがあります。Release 5.x 以降のリリースでは、GlobalCallId が再設計されたため、このフィールドの一意的な値が少なくとも特定の日数の間保持されます。前回使用された globalCallId\_callId 値は、定期的な (x 回のコールごとに) ディスクに書き込まれるようになりました。この値は Cisco Unified Communications Manager の再起動後に取得され、新しい globalCallId\_callId 値は、この数に x を足した値で始まります。

## 番号トランスレーション

Cisco Unified Communications Manager では、ユーザがダイヤルする番号のトランスレーションを実行できます。CDR には、実際にダイヤルされた番号ではなくトランスレーションされた番号が表示されます。

たとえば、多くの企業では、「911」のコールを「9-911」に変換しているので、発信側は緊急時に外線用の番号をダイヤルする必要はありません。このような場合、ユーザが「911」とダイヤルした場合でも、CDR には「9911」が表示されます。



(注) ゲートウェイでは、番号がゲートウェイを経由して実際に出力される前にさらに変更を加えることもできます。CDR には、これらの変更は反映されません。

## パーティションおよび番号

CDR 内では、パーティションが定義されている場合、内線番号とパーティションの組み合わせによって対象となる電話機を識別します。パーティションがある場合、内線番号は一意的でない可能性があるため、電話を完全に特定するには両方の値が必要です。

コールがゲートウェイから入力した場合には、[パーティション (Partition)] フィールドは空のままです。コールがゲートウェイ経由で発信される際には、[パーティション (Partition)] フィールドはそのゲートウェイが属するパーティションを示します。

ダイヤルプランで発信側に # キーの使用が許可されている場合に # キーが使用されると、# キーはデータベースに入れられます。たとえば、[着信側番号 (Called Party Number) ] フィールドには「902087569174#」といった値が入ります。

[通話者番号 (Party Number) ] フィールドには、従来のコールの発信側/着信側の番号ではなく SIP URI が入る場合があります。

CDR では次の表に示すパーティション/内線番号を使用します。

表 1: CDR 内のパーティション/内線番号

電話番号	説明
callingPartyNumber	コールを発信した通話者です。転送コールの場合は、転送された通話者が発信側になります。
originalCalledPartyNumber	この番号は、番号変換が実行された後に元の着信側を指します。
finalCalledPartyNumber	転送されたコールの場合、この番号はコールを受信した最後の通話者を指します。 転送されていないコールの場合、このフィールドは元の着信側を示します。
lastRedirectDn	転送されたコールの場合、このフィールドはコールをリダイレクトする最後の通話者を指します。 転送されていないコールの場合、このフィールドはコールをリダイレクト (転送または会議) する最後の通話者を指します。
callingPartyNumberPartition	この番号は、[CallingPartyNumber] フィールドに関連付けられているパーティション名を示します。Cisco Unified Communications Manager では別のパーティションにあって同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているため、このフィールドはこの番号を一意に識別します。 ゲートウェイ経由で着信するコールの場合、このフィールドは空白のままになります。

電話番号	説明
originalCalledPartyNumberPartition	<p>この番号は、[OriginalCalledPartyNumber] フィールドに関連付けられているパーティション名を示します。Cisco Unified Communications Manager では別のパーティションにあって同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているため、このフィールドはこの番号を一意に識別します。</p> <p>ゲートウェイ経由で発信するコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを指すルートパターンに関連付けられているパーティション名を示します。</p>
finalCalledPartyNumberPartition	<p>この番号は、[FinalCalledPartyNumber] フィールドに関連付けられているパーティション名を示します。Cisco Unified Communications Manager では別のパーティションにあって同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているため、このフィールドはこの番号を一意に識別します。</p> <p>ゲートウェイ経由で発信するコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを指すルートパターンに関連付けられているパーティション名を示します。</p>
lastRedirectDnPartition	<p>この番号は、[LastRedirectDn] フィールドに関連付けられているパーティション名を示します。Cisco Unified Communications Manager では別のパーティションにあって同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をサポートしているため、このフィールドはこの番号を一意に識別します。</p> <p>ゲートウェイ経由で発信するコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを指すルートパターンに関連付けられているパーティション名を示します。</p>
outpulsedCallingPartyNumber	デバイスからアウトパルスされた発信側番号です。
outpulsedCalledPartyNumber	デバイスからアウトパルスされた発信側番号です。

## タイムスタンプ

CDR 内のタイムスタンプは、協定世界時 (UTC) で示されます。この値は、サマータイムによる変化に左右されません。

32 ビットの符号なし整数によってすべての値を表現します。この符号なし整数の値は、単一の整数としてデータベースから表示されます。このフィールドは、オペレーティングシステムから取得された `time_t` 値を示します。

次の表に、CDR に含まれる UTC タイムスタンプを示します。

表 2: CDR の UTC タイムスタンプ

フィールド	フォーマット	説明
<code>dateTimeOrigination</code>	UTC	<p>発信コールの場合、このフィールドはデバイスがオフフックになった時刻を示します。</p> <p>着信コールの場合、このフィールドは SETUP メッセージが受信された時刻を示します。</p> <p>このフィールドには常に値が入力されます。</p>
<code>dateTimeConnect</code>	UTC	<p>このフィールドは、デバイスが接続された時刻を示します。</p> <p>コールが接続されなかった場合、このフィールドはゼロを示します。</p>
<code>dateTimeDisconnect</code>	UTC	<p>このフィールドは、コールが切断された時刻を示します。コールが接続されなかった場合でも、このフィールドは設定されます。時刻は UTC として保存されます。</p> <p>このフィールドには常に値が入力されます。</p>

## コールクリア原因

CDR には、`OrigCause` および `DestCause` の 2 つのコールクリア原因コードがあります。発信側がコールを切断すると、`OrigCause` に値が入力されます。着信側がコールを切断するか、またはコールが拒否されると、`DestCause` に値が入力されます。値が入力されなかった場合、原因コードの値はゼロを示します。

表 12: コール終了原因コード, (205 ページ) に、ITU 仕様 Q.850 に準拠したコールクリア原因コード値を示します。オン ネット コール レッグの場合は、Cisco Unified Communications Manager によって原因コードの値が決定されます。オフネットコールレッグの場合は、遠端のスイッチによって原因コードの値が決定されます。

## 符号付き 10 進数値を IP アドレスに変換

IP アドレスは、システムに符号なし整数として保存されます。CDR ファイルでは、IP アドレスは符号付き整数として表示されます。符号付き 10 進数値を IP アドレスに変換するには、この値が実際には符号なしの数字であることを考慮して、まず 16 進数に変換します。この 32 ビットの 16 進

値は、逆順の 4 バイトを表しています (Intel 標準)。IP アドレスを求めるには、バイトの順序を逆にして、各バイトを 10 進数に変換します。この結果の 4 バイトが、ドット付き 10 進表記で示される IP アドレスの 4 バイトのフィールドになります。



(注) IP アドレスの下位バイトに最上位ビットセットが含まれている場合、ファイルには負数が表示されます。

たとえば、IP アドレス 192.168.18.188 は -1139627840 として表示されます。この IP アドレスを変換するには、次の手順を実行します。

#### 手順

- 
- ステップ 1 データベースの表示 (-1139627840) を 16 進数に変換します。  
16 進数値は 0xBC12A8C0 になります。
  - ステップ 2 次に示すように、16 進数のバイトの順序を逆にします。  
CO A8 12 BC
  - ステップ 3 次に示すように、この 4 バイトを 16 進数から 10 進数に変換します。  
192 168 18 188
  - ステップ 4 IP アドレスはドット付き 10 進表記で表示されます。  
192.168.18.188
- 

#### 次の作業

CDR で作業を行うときに、CAR データベース内の他の表を読み込んで、各 CDR のデバイスタイプに関する情報を取得する必要があることがあります。これは、デバイステーブル内のデバイスと CDR にリストされている IP アドレス間の相互関係が直接的なものではないためです。





## 第 **II** 部

# コール詳細レコード

- [CDR の例, 21 ページ](#)
- [シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, 159 ページ](#)
- [シスコのコール詳細レコードのコード, 201 ページ](#)







## 第 4 章

### CDR の例

---

この章では、Cisco Unified Communications Manager システムによってすべてのコールタイプに対して生成されるコール詳細レコード (CDR) の例について説明します。この情報は、課金記録の生成やネットワーク分析などの後処理作業に使用できます。

システムをインストールすると、CDR はデフォルトで有効になります。CDR は、システムの動作中にいつでも有効または無効にできます。この変更を有効にするために、Cisco Unified Communications Manager を再起動する必要はありません。システムは、数秒以内にすべての変更に対応します。

- [AAC コール, 23 ページ](#)
- [放棄コール, 26 ページ](#)
- [アドホック会議リンク, 27 ページ](#)
- [エージェントのグリーティング コール, 40 ページ](#)
- [割込み, 41 ページ](#)
- [コール モニタリング, 45 ページ](#)
- [コール パーク, 46 ページ](#)
- [コール ピックアップ, 49 ページ](#)
- [コール録音, 52 ページ](#)
- [コールのセキュリティ保護ステータス, 54 ページ](#)
- [発信側の正規化, 56 ページ](#)
- [使用中または無効な宛先を含むコール, 57 ページ](#)
- [C 割込み, 59 ページ](#)
- [クライアント識別コード \(CMC\) , 60 ページ](#)
- [会議コール, 62 ページ](#)
- [開催中の会議コール, 67 ページ](#)

- 会議からの任意の通話者のドロップ, 69 ページ
- DTMF 方式, 71 ページ
- エンドツーエンド コール トレース, 73 ページ
- 強制承認コード (FAC) , 77 ページ
- 転送またはリダイレクトされたコール, 79 ページ
- ハント リストのサポート , 83 ページ
- H.239, 86 ページ
- iLBC コール, 88 ページ
- Intercompany Media Engine, 90 ページ
- 即時転送 (ボイスメッセージング システム宛て) , 95 ページ
- ISE アプリケーション サーバ, 98 ページ
- インターコム コール, 99 ページ
- IPv6 コール, 101 ページ
- レガシー コール ピックアップ, 106 ページ
- ローカル ルート グループおよび着信側変換, 107 ページ
- 論理パーティショニング コール, 109 ページ
- 迷惑コール, 111 ページ
- ミートミー会議, 112 ページ
- モビリティ, 113 ページ
- ネイティブ コール キューイング, 128 ページ
- 通常のコール (Cisco Unified IP Phone から Cisco Unified IP Phone へ) , 129 ページ
- 転送での元の発信側, 131 ページ
- パーソナル アシスタント コール, 132 ページ
- 優先コール (MLPP) , 140 ページ
- リダイレクション (3xx) コール, 141 ページ
- リダイレクト番号の変換, 143 ページ
- Refer コール, 143 ページ
- Replace コール, 144 ページ
- RSVP, 146 ページ
- セキュアなミートミー会議, 147 ページ
- ショート コール, 148 ページ

- [\[CallingPartyNumber\] フィールドに URL を含む SIP コール, 149 ページ](#)
- [成功したオン ネット コール, 150 ページ](#)
- [転送コール, 150 ページ](#)
- [ビデオ コール, 154 ページ](#)
- [ビデオ会議コール, 155 ページ](#)

## AAC コール

Advanced Audio Coding-Low Delay (AAC-LD) は、さまざまなビットレートで優れた品質の音声や音楽を提供する超広帯域のコーデックです。オーディオ品質は、ビットレートで向上します。mpeg4-generic および MP4A-LATM という互いに互換性のない2つの RTP ペイロード形式がサポートされています。

AAC-LD (mpeg4-generic) コールの場合、コーデックタイプ (ペイロード機能) 値42が使用されます。

AAC-LD (MP4A-LATM) コールの場合、サポートされるビットレートごとに別個のコーデックタイプ値が使用されます。コーデックタイプ値は43 (128K)、44 (64K)、45 (56K)、46 (48K)、47 (32K)、および48 (24K) です。

AAC-LD コールの CDR には、オーディオ帯域幅のフィールドが追加されます。

フィールド名	定義
origMediaCap_bandwidth	この整数フィールドにはオーディオ帯域幅が含まれます。
destMediaCap_bandwidth	この整数フィールドにはオーディオ帯域幅が含まれます。

システムは、次の表に基づいて帯域幅フィールドに値を取り込みます。

コーデック	帯域幅
G711A1aw64k	64
G711A1aw56k	72
G711mu-law64k	64
G711mu-law56k	72
G722 64k	64
G722 56k	72

コーデック	帯域幅
G722 48k	48
G7231	7
G728	16
G729	8
G729AnnexA	8
Is11172AudioCap	0
Is13818AudioCap	0
G729AnnexB	8
G729AnnexAwAnnexB	8
GSM Full Rate	13
GSM Half Rate	7
GSM Enhanced Full Rate	13
ワイドバンド 256K	256
データ 64k	64
データ 56k	72
G7221 32K	32
G7221 24K	24
AAC-LD (mpeg4-generic)	256
AAC-LD (MP4A-LATM) 128K	128
AAC-LD (MP4A-LATM) 64K	64
AAC-LD (MP4A-LATM) 56K	72
AAC-LD (MP4A-LATM) 48K	48
AAC-LD (MP4A-LATM) 32K	32
AAC-LD (MP4A-LATM) 24K	24

コーデック	帯域幅
GSM	13
iLBC	15 または 13
iSAC	32
XV150 MR 729A	8
NSE VBD 729A	8

### AAC-LD (mpeg4-generic) コールの CDR の例

この例は、AAC-LD (mpeg4-generic) コーデックを使用するコールに該当します。

フィールド名	AAC CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
originalCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origMediaCap_payloadCapability	54
origMediaCap_Bandwidth	256
destMediaCap_payloadCapability	54
destMediaCap_Bandwidth	256

### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

シスコのコール管理レコードの例, (241 ページ)

## 放棄コール

接続時間ゼロのコールのロギングは、オプション操作を示します。接続時間がゼロのコールのロギングをイネーブルにすると、次のアクションが発生します。

- すべてのコールは、CDR を生成します。
- 電話機がオフフックになったり、オンフックに戻ったりするなど、コールが放棄された場合、各種のフィールドにデータは含まれません。この場合、[originalCalledPartyNumber] と [finalCalledPartyNumber]（さらにこれらに関連付けられたパーティション）、[destIpAddr]、および [dateTimeConnect] の各フィールドはすべて空欄のままになります。接続されていないコールはすべて、接続時間 0 秒になります。コールが放棄されると、原因コードは 0 になります。
- ユーザがディレクトリ番号をダイヤルし、接続前にコールを放棄すると、[FirstDest] フィールドと [FinalDest] フィールド（さらにこれらに関連付けられたパーティション）には、ディレクトリ番号が含まれ、さらにコールが拡張されているパーティションも含まれます。[DestIp] フィールドは空欄のままになり、接続時間は 0 秒が指定されます。



(注) 接続時間がゼロのコールを記録するには、[接続時間がゼロのコールを CDR に記録するフラグ (CDR Log Calls With Zero Duration Flag) | サービス パラメータを有効にする必要があります。このパラメータによって、接続時間が 1 秒未満のコールの CDR ロギングが有効または無効になります。詳細については、『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』の「Configuring CDR Service Parameters」の項を参照してください。

### 放棄コールの例

- 1 内線 2001 がオフフックの後、オンフックに戻ります。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	0
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	
finalCalledPartyNumber	
lastRedirectDn	

フィールド名	CDR
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	0

- 2 内線 2001 が 2309 にコールしますが、応答される前に 2001 がコールを切ります（放棄します）。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	2
origLegCallIdentifier	200
destLegCallIdentifier	201
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	0

## アドホック会議リンク

高度なアドホック会議リンク機能により、アドホック会議を個人の参加者と同様に他のアドホック会議に追加し、複数のアドホック会議をリンクすることができます。個人の参加者をアドホック会議に追加する場合に使用できる方法で、アドホック会議を他のアドホック会議に追加することもできます。

高度なアドホック会議のリンク機能によって生成される CDR には、[OrigConversationId] というフィールドが含まれます。このフィールドは、リンクされた会議に含まれる会議ブリッジを関連付けます。CDR の [コメント (Comment)] フィールドには、会議の非コントローラによる会議参加者の追加とドロップを示す [ConfRequestorDN] タグと [ConfRequestorDeviceName] タグが追加されます。

次のシナリオで、各種 CDR の一部を示します。

### 関連トピック

[参加を使用した会議リンク](#), (28 ページ)

[転送または直接転送を使用した会議リンク](#), (30 ページ)

[リンクされた会議からの参加者の削除](#), (32 ページ)

[リンクされた会議からの参加者 \(コントローラ\) の削除](#), (34 ページ)

[リンクされた会議の削除](#), (37 ページ)

## 参加を使用した会議リンク

ブリッジ間のコールの方向は、Carol を含む 2 つのコールのどちらがプライマリであるかによって異なります。プライマリ コールは存続し、セカンダリ コールは会議にリダイレクトされます。

Alice が Bob にコールし、Bob は Carol と会議します (会議 1)。Dave が Carol にコールし、Ed と会議します (会議 2)。2 つの別個の会議が作成されます。Carol は両方の会議に出席します。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol が 2 つの会議を結合します。この時点で、CDR5 が生成されます。

残りの通話者が電話を切ると、会議を退出した順に残りの CDR が生成されます。

### Join を使用した会議のリンクの例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元の コール)	CDR2 : Bob-> Carol (コン サルトコー ル)	CDR3 : Dave -> Carol (元 のコール)	CDR4 : Dave -> Ed (コン サルトコー ル)	CDR5 : Carol -> 会議ブ リッジ (会 議コール)	CDR6 : Dave -> 会議ブ リッジ (会 議コール)
globalCallID_callId	1	2	3	4	3	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	22	22
destLegCallIdentifier	12	18	22	24	25	26
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1003
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901222	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1003	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	4	4
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	4	4
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98



フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元の コール)	CDR2 : Bob-> Carol (コン サルトコー ル)	CDR3 : Dave -> Carol (元 のコール)	CDR4 : Dave -> Ed (コン サルトコー ル)	CDR5 : Carol -> 会議ブ リッジ (会 議コール)	CDR6 : Dave -> 会議ブ リッジ (会 議コール)
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	2222	2222
コメント					ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1

フィールド名	CDR7 : Dave -> 会議ブリッジ (会議コー ル)	CDR8 : Ed -> 会 議ブリッジ (会議コー ル)	CDR9 : 会議ブ リッジ (会議 コール)	CDR10 : Alice-> 会議ブリッジ (会議コー ル)	CDR11 : Bob -> 会議ブリッジ (会議コー ル)
globalCallID_callId	3	3	1	1	1
origLegCallIdentifier	21	24	17	11	12
destLegCallIdentifier	26	27	36	15	16
callingPartyNumber	1003	1004	b0029901001	1000	1001
originalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901222	b0029901222	b0029901001	b0029901001
finalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901222	b0029901222	b0029901001	b0029901001
lastRedirectDn	1003	1003	1002	1001	1001
origTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
destTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	4	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	10	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0

フィールド名	<b>CDR7 : Dave -&gt; 会議ブリッジ (会議コール)</b>	<b>CDR8 : Ed -&gt; 会議ブリッジ (会議コール)</b>	<b>CDR9 : 会議ブリッジ (会議コール)</b>	<b>CDR10 : Alice -&gt; 会議ブリッジ (会議コール)</b>	<b>CDR11 : Bob -&gt; 会議ブリッジ (会議コール)</b>
destConversationID	2222	2222	2222	2222	2222
コメント	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn=1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn=1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD

## 転送または直接転送を使用した会議リンク

Alice が Bob にコールし、Bob は Carol と会議します (会議 1)。Dave が Carol にコールし、Ed と会議します (会議 2)。2 つの別個の会議が作成され、Carol は両方の会議に出席します。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol が最初の会議へのコールで [直接転送 (Direct Transfer (DirTrfr))] ソフトキーを押します。会議 1 に Alice と Bob が出席し、会議 2 に Dave と Ed が出席します。残りの通話者が電話を切ると、会議を退出した順に残りの CDR が生成されます。



(注) ブリッジ間のコールの方向は、Carol を含む 2 つのコールのどちらがプライマリコールであるかによって異なります。プライマリコール側は、転送されたコールの発信側を表します。

### 転送または直接転送を使用した会議のリンクの例

フィールド名	<b>CDR1 : Alice -&gt; Bob (元のコール)</b>	<b>CDR2 : Bob -&gt; Carol (コンサルトコール)</b>	<b>CDR3 : Dave -&gt; Carol (元のコール)</b>	<b>CDR4 : Dave -&gt; Carol (コンサルトコール)</b>	<b>CDR5 : Carol -&gt; 会議ブリッジ (会議コール)</b>	<b>CDR6 : Carol -&gt; 会議ブリッジ (会議コール)</b>
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	18	22
destLegCallIdentifier	12	18	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1003
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元の コール)	CDR2 : Bob -> Carol (コン サルト コー ル)	CDR3 : Dave -> Carol (元 のコール)	CDR4 : Dave -> Carol (コ ンサルト コール)	CDR5 : Carol -> 会議ブ リッジ (会 議コール)	CDR6 : Carol -> 会議ブ リッジ (会 議コール)
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222
コメント					ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1

フィールド名	CDR7 : Dave -> 会議ブリッジ (会議コー ル)	CDR8 : Ed -> 会 議ブリッジ (会議コー ル)	CDR9 : 会議ブ リッジ (会議 コール)	CDR10 : Alice-> 会議ブリッジ (会議コー ル)	CDR11 : Bob -> 会議ブリッジ (会議コー ル)
globalCallID_callId	3	3	1	1	1
origLegCallIdentifier	21	24	17	11	12
destLegCallIdentifier	26	27	36	15	16
callingPartyNumber	1003	1004	b0029901001	1000	1001
originalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901222	b0029901222	b0029901001	b0029901001
finalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901222	b0029901222	b0029901001	b0029901001
lastRedirectDn	1003	1003	1002	1001	1001

フィールド名	CDR7 : Dave -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR8 : Ed -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR9 : 会議ブリッジ (会議コール)	CDR10 : Alice -> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR11 : Bob -> 会議ブリッジ (会議コール)
origTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
destTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	4	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	10	4	4
origConversationID	0	0	111	0	0
destConversationID	2222	2222	2222	1111	1111
コメント	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn=1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn=1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD

## リンクされた会議からの参加者の削除

CDR は、通話者が会議を退出した順に生成されます。残りの会議で通話者が 2 人だけになると、その 2 人の通話者は直接結合されます。

Alice が Bob にコールし、Bob は Carol と会議します (会議 1)。Dave が Carol にコールし、Ed と会議します (会議 2)。2 つの別個の会議が作成され、Carol は両方の会議に参加します。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol が最初の会議へのコールで [直接転送 (Direct Transfer (DirTrfr))] ソフトキーを押します。会議 1 に Alice と Bob が出席し、会議 2 に Dave と Ed が出席します。会議 1 と会議 2 は一緒に転送されます。Carol が電話を切ると、会議 1 には 2 人の通話者だけが残ります。

会議に 2 人しか出席していないため、Bob と会議リンクが結合されます。この時点で、CDR7、CDR8、および CDR9 が生成されます。Bob は会議 1 のコントローラであるため、Bob が Bob と会議 2 の間のコールにおける発信側となります。残りの通話者が電話を切ると、会議を退出した順に残りの CDR が生成されます。



(注) Bob はコントローラではなく、Bob が会議 1 を結合する前にチェーニングが発生すると、Bob と会議 2 の間で、CDR に表示されている方向とは反対の方向にコールが生成されます。

会議に残った2人の通話者間のコールの方向は、どちらが長く会議に参加していたかによります。会議に長く参加していた通話者が、発信側となります。

#### リンクされた会議からの通話者の削除の例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元の コール)	CDR2 : Bob-> Carol (コン サルトコー ル)	CDR3 : Dave -> Carol (元 のコール)	CDR4 : Dave -> Carol (コ ンサルト コール)	CDR5 : Carol ->会議ブ リッジ (会 議コール)	CDR6 : Carol ->会議ブ リッジ (会 議コール)
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	18	22
destLegCallIdentifier	12	18	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222
コメント					ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn-1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

フィールド名	CDR7 : Alice ->会議ブリッジ (会議コール)	CDR8 : Bob-> 会議ブリッジ (会議コール)	CDR9 : 会議 ブリッジ-> 会議ブリッジ	CDR10 : Bob ->会議ブリッジ (会議コール)	CDR11 : Dave ->会議ブリッジ (会議コール)	CDR12 : Ed-> 会議ブリッジ (会議コール)
globalCallID_callId	1	1	3	3	3	3
origLegCallIdentifier	11	12	25	11	12	24
destLegCallIdentifier	15	16	36	15	16	27
callingPartyNumber	1001	1001	b0029901222	1000	1001	1003
originalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1001	1002	b0029901001	1003	1003
origTerminationOnBehalfOf	16	4	4	4	0	0
destTerminationOnBehalfOf	0	4	4	4	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	4	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	10	4	4	4
origConversationID	0	0	2222	0	0	0
destConversationID	1111	1111	1111	2222	2222	2222
コメント	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn=1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn=1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

## リンクされた会議からの参加者（コントローラ）の削除

CDRは、通話者が会議を退出した順に生成されます。残りの会議で通話者が2人だけになると、これら2人の通話者は直接結合されます。

AliceがBobにコールし、BobはCarolと会議します（会議1）。DaveがCarolにコールし、Edと会議します（会議2）。2つの別個の会議が作成され、Carolは両方の会議に参加します。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、およびCDR4が生成されます。

Carolが最初の会議へのコールで[直接転送 (Direct Transfer (DirTrfr) )]ソフトキーを押します。会議1にAliceとBobが出席し、会議2にDaveとEdが出席します。会議1と会議2は一緒に転送されます。Bobが電話を切ることで、会議1に接続している通話者は2人だけになります。

会議1に存在する通話者が2人だけであるため、Aliceと会議リンクは直接結合されます。この時点で、CDR7、CDR8、およびCDR9が生成されます。Aliceのほうが長く会議に参加しているため、Aliceと会議2の間のコールの発信側はAliceになります。残りの通話者が電話を切ると、会議を退出した順に残りのCDRが生成されます。



(注) 会議到最后に残った2人の通話者間のコールの方向は、どちらが長く会議に参加していたかによります。会議に長く参加していた通話者が、発信側となります。

#### リンクされた会議からのコントローラの削除の例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元の コール)	CDR2 : Bob-> Carol (コン サルト コー ル)	CDR3 : Dave -> Carol (元 のコール)	CDR4 : Dave -> Carol (コ ンサルト コール)	CDR5 : Carol -> 会議ブ リッジ (会 議コール)	CDR6 : Carol -> 会議ブ リッジ (会 議コール)
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	18	22
destLegCallIdentifier	12	18	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222

フィールド名	<b>CDR1 : Alice -&gt; Bob (元の コール)</b>	<b>CDR2 : Bob-&gt; Carol (コン サルトコー ル)</b>	<b>CDR3 : Dave -&gt; Carol (元 のコール)</b>	<b>CDR4 : Dave -&gt; Carol (コ ンサルト コール)</b>	<b>CDR5 : Carol -&gt; 会議ブ リッジ (会 議コール)</b>	<b>CDR6 : Carol -&gt; 会議ブ リッジ (会 議コール)</b>
コメント					ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn=1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn=1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1

フィールド名	<b>CDR7 : 会議 ブリッジ-&gt; 会議ブリッ ジ</b>	<b>CDR8 : Alice -&gt; 会議ブ リッジ (会 議コール)</b>	<b>CDR9 : 会議 ブリッジ-&gt; 会議ブリッ ジ</b>	<b>CDR10 : Alice -&gt; 会議ブ リッジ (会 議コール)</b>	<b>CDR11 : Dave -&gt; 会議ブ リッジ (会 議コール)</b>	<b>CDR12 : Ed-&gt; 会議ブリッ ジ (会議 コール)</b>
globalCallID_callId	1	1	3	3	3	3
origLegCallIdentifier	12	11	25	11	21	24
destLegCallIdentifier	16	15	36	25	26	27
callingPartyNumber	1001	1000	b0029901001	1001	1003	1004
originalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1001	1002	b0029901001	1003	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	16	4	4	0	0
destTerminationOnBehalfOf	4	0	4	4	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	4	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	10	4	4	4
origConversationID	0	0	2222	0	0	0
destConversationID	1111	1111	1111	2222	2222	2222



フィールド名	<b>CDR7 : 会議ブリッジ-&gt;会議ブリッジ</b>	<b>CDR8 : Alice-&gt;会議ブリッジ (会議コール)</b>	<b>CDR9 : 会議ブリッジ-&gt;会議ブリッジ</b>	<b>CDR10 : Alice-&gt;会議ブリッジ (会議コール)</b>	<b>CDR11 : Dave-&gt;会議ブリッジ (会議コール)</b>	<b>CDR12 : Ed-&gt;会議ブリッジ (会議コール)</b>
コメント	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn-1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn-1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

## リンクされた会議の削除

Alice が Bob にコールし、Bob は Carol と会議します (会議 1)。Dave が Carol にコールし、Ed と会議します (会議 2)。2 つの別個の会議が作成され、Carol は両方の会議に参加します。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol が最初の会議へのコールで [直接転送 (Direct Transfer (DirTrfr))] ソフトキーを押します。会議 1 に Alice と Bob が出席し、会議 2 に Dave と Ed が出席します。会議 1 と会議 2 は一緒に転送されます。

Bob が [ConfList] ソフトキーを押し、リストに Alice、Bob、および会議リンク [会議 (Conference)] “” が表示されます。Bob が [会議 (Conference)] “” を選択し、[削除 (Remove)] ソフトキーを押します。この時点で、CDR7、CDR8、および CDR9 が生成されます。会議リンクが削除され、会議に 2 人の通話者が残ります。

残りの 2 人が結合されます。会議 1 では Alice と Bob が結合され、会議 2 では Dave と Ed が結合されます。残りの通話者が電話を切ると、会議を退出した順に残りの CDR が生成されます。

### リンクされた会議の削除の例

フィールド名	<b>CDR1 : Alice-&gt;Bob (元のコール)</b>	<b>CDR2 : Bob-&gt;Carol (コンサルトコール)</b>	<b>CDR3 : Dave-&gt;Carol (元のコール)</b>	<b>CDR4 : Dave-&gt;Carol (コンサルトコール)</b>	<b>CDR5 : Carol-&gt;会議ブリッジ (会議コール)</b>	<b>CDR6 : Carol-&gt;会議ブリッジ (会議コール)</b>
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	18	22
destLegCallIdentifier	12	18	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222

フィールド名	<b>CDR1 : Alice -&gt; Bob (元の コール)</b>	<b>CDR2 : Bob-&gt; Carol (コン サルトコー ル)</b>	<b>CDR3 : Dave -&gt; Carol (元 のコール)</b>	<b>CDR4 : Dave -&gt; Carol (コ ンサル ト コール)</b>	<b>CDR5 : Carol -&gt; 会議ブ リッジ (会 議コール)</b>	<b>CDR6 : Carol -&gt; 会議ブ リッジ (会 議コール)</b>
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222
コメント					ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn=1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

フィールド名	<b>CDR7 : 会議 ブリッジ-&gt; 会議ブリッ ジ</b>	<b>CDR8 : Alice -&gt; 会議ブ リッジ (会 議コール)</b>	<b>CDR9 : Bob-&gt; 会議ブリッ ジ</b>	<b>CDR10 : Dave -&gt; 会議ブ リッジ (会 議コール)</b>	<b>CDR11 : Ed -&gt; 会議ブリッ ジ (会議 コール)</b>	<b>CDR12 : Bob -&gt; Alice</b>
globalCallID_callId	3	1	1	3	3	3
origLegCallIdentifier	25	11	12	21	24	21
destLegCallIdentifier	36	15	16	26	27	24
callingPartyNumber	b0029901222	1000	1001	1003	1004	1003
originalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	1004
lastRedirectDn	1002	1001	1001	1003	1003	b0029901222

フィールド名	CDR7 : 会議ブリッジ->会議ブリッジ	CDR8 : Alice->会議ブリッジ (会議コール)	CDR9 : Bob->会議ブリッジ	CDR10 : Dave->会議ブリッジ (会議コール)	CDR11 : Ed->会議ブリッジ (会議コール)	CDR12 : Bob-> Alice
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	16	0	0
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	4	98	98	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	10	4	4	4	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	1111	1111	1111	2222	2222	0
コメント	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn-1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn-1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn-1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

フィールド名	CDR13 : Dave -> Ed
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	21
destLegCallIdentifier	24
callingPartyNumber	1003
originalCalledPartyNumber	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1004
lastRedirectDn	b0029901222
origTerminationOnBehalfOf	0
destTerminationOnBehalfOf	0
lastRedirectRedirectReason	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4

フィールド名	<b>CDR13 : Dave -&gt; Ed</b>
origConversationID	0
destConversationID	0
コメント	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

## エージェントのグリーティングコール

エージェントのグリーティングコール機能では、エージェントデバイスへのメディア接続に成功した後で、事前に録音したアナウンスをお客様に自動的に再生するよう、Cisco Unified Communications Manager に指示します。エージェントとお客様の両方に、エージェントのグリーティングが聞こえます。

### エージェントのグリーティングコールの例

- 1 お客様（1001）がエージェント（1006）にコールします。
- 2 エージェント（1006）がコールに応答します。お客様とエージェントが接続します。
- 3 エージェントのグリーティングコール機能では、エージェントデバイスへのメディア接続に成功した後で、事前に録音したアナウンスをお客様に自動的に再生するよう、Cisco Unified Communications Manager に指示します。これにより、IVR（1000）がエージェントの電話機のビルトインブリッジ（BIB）に接続します。エージェントとお客様の両方に、エージェントのグリーティングが聞こえます。
- 4 お客様とエージェント間のコールが終了します。お客様とエージェント間のコールに関する CDR が生成されます。エージェントの電話機の BIB への IVR（1000）に関する CDR が生成されます。

エージェントの BIB への IVR に関する CDR には、コメント AgentGreeting=<agentCI> が指定されます。エージェントのグリーティングコールについては、[OnBehalfOf] フィールドが 33 に設定され、[redirectReason] コードが 752 に設定されます。

フィールド名	お客様からエージェントへのコール	IVR からエージェントの BIB へのコール
globalCallID_callId	270001	270002
origLegCallIdentifier	22980857	22980861
destLegCallIdentifier	22980858	22980862

フィールド名	お客様からエージェントへのコール	IVR からエージェントの BIB へのコール
callingPartyNumber	1001	1000
originalCalledPartyNumber	1006	b00121104001
finalCalledPartyNumber	1006	b00121104001
origCallTerminationOnBehalfOf	12	0
destCallTerminationOnBehalfOf	0	33
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	33
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	33
origCalledPartyRedirectReason	0	752
lastRedirectRedirectReason	0	752
destConversationId	0	22980858
joinOnBehalfOf		33
コメント		AgentGreeting=22980858
duration	23	9

#### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 割込み

シェアラインが割込み機能を使用する場合、[origCalledPartyNumber]、[finalCalledPartyNumber]、および [lastRedirectDn] は会議ブリッジ番号「b00...」を表します。[redirectOnBehalfOf] フィールドおよび [joinOnBehalfOf] フィールドには割込みの値 15 が反映され、[RedirectReason] フィールドには割込み 114 が指定されます。

割込みの例

- 1 40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話のシェアライン 40001 が、[割込み (Barge) ] ソフトキーを押します。すべての通話者が会議に集まり、40003 が電話を切ります。



(注) 両方の CDR に同じ [globalCallID\_callId] が設定され、[conversationID] フィールドが割込みされたコールの CI (コール ID) にリンクします。

フィールド名	元のコールの CDR	割込みコールの CDR
globalCallID_callId	7	7
origLegCallIdentifier	16777230	16777232
destLegCallIdentifier	16777231	16777235
callingPartyNumber	40003	40003
origCalledPartyNumber	40001	b001501001
finalCalledPartyNumber	40001	b001501001
lastRedirectDn	40001	b001501001
origCause_Value	16	0
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	114
lastRedirectRedirectReason	0	114
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		15
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		15
joinOnBehalfOf		15
destConversationID	0	16777231

- 2 40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話のシェアライン 40001 が、[割込み (Barge) ] ソフトキーを押します。すべての通話者が会議に集まり、40001 が電話を切ります。



(注) 両方の CDR に同じ [globalCallID\_callId] が設定され、[conversationID] フィールドが割込みされたコールの CI (コール ID) にリンクします。

フィールド名	元のコールの CDR	割込みコール 1 の CDR	最終コール 2 の CDR
globalCallID_callId	9	9	9
origLegCallIdentifier	16777236	16777238	16777236
destLegCallIdentifier	16777237	16777241	16777238
callingPartyNumber	40003	40001	40003
origCalledPartyNumber	40001	b001501001	40001
finalCalledPartyNumber	40001	b001501001	40001
lastRedirectDn	40001	b001501001	40001
origCause_Value	0	393216	16
dest_CauseValue	16	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	114	0
lastRedirectRedirectReason	0	114	0
origTerminationOnBehalfOf		15	12
destTerminationOnBehalfOf	12	15	12
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		15	
joinOnBehalfOf		15	
destConversationID	0	16777237	0

- 3 40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話のシェアドライン 40001 が、[割込み (Barge) ] ソフトキーを押します。すべての通話者が会議に集まり、40001 (別のシェアドラインと電話機) が [割込み (Barge) ] ソフトキーを押します。40003 が最初に電話を切ります。



(注) 両方の CDR に同じ [globalCallID\_callId] が設定され、[conversationID] フィールドが割込みされたコールの CI (コール ID) にリンクします。

フィールド名	元のコールの CDR	割込みコール 1 の CDR	最終コール 2 の CDR
globalCallID_callId	18	18	18
origLegCallIdentifier	16777249	16777251	16777255
destLegCallIdentifier	16777250	16777254	16777258
callingPartyNumber	40003	40001	40001
origCalledPartyNumber	40001	b001501001	b001501001
finalCalledPartyNumber	40001	b001501001	b001501001
lastRedirectDn	40001	b001501001	b001501001
origCause_Value	16	0	0
dest_CauseValue	0	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	114	114
lastRedirectRedirectReason	0	114	114
origTerminationOnBehalfOf	12	15	15
destTerminationOnBehalfOf			
origRedirectRedirectOnBehalfOf		15	15
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		15	15
joinOnBehalfOf		15	15
destConversationID	0	16777250	16777251

### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)



## コール モニタリング

システムは、既存の CDR フィールドを使用して、コール モニタリング機能の CDR を生成します。

モニタリング コールには、一方向メディアが存在します。一方向メディアの CDR については、コールの片側に対するメディア フィールドが空のままになります。

コール モニタリング CDR の [destConversationID] フィールドは、モニタされるコールの CDR にあるエージェント コール レッグ ID に一致し、コール モニタリング CDR とモニタされるコールの CDR をリンクします。

### コール モニタリングの例

- 1 お客様 (9728134987) がエージェント (30000) にコールし、エージェントが応答します。スーパーバイザ (40003) がコールをモニタします。モニタリング コールの [destConversationID] は、モニタされるコールの [destLegCallIdentifier] に一致します。

フィールド名	モニタされるコールの CDR	モニタリング コールの CDR
globalCallID_callId	7	10
origLegCallIdentifier	16777230	16777232
destLegCallIdentifier	16777231	16777235
callingPartyNumber	9728134987	40003
originalCalledPartyNumber	30000	b001501001
finalCalledPartyNumber	30000	b001501001
lastRedirectDn	30000	b001501001
origCause_Value	16	0
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	370
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	370
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		36
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		36
destConversationID	0	16777231

- 2 エージェント (30000) がお客様 (9728134987) にコールし、お客様が応答します。スーパーバイザ (40003) がコールをモニタします。モニタリング コールの [destConversationID] は、モニタされるコールの [origLegCallIdentifier] に一致します。

フィールド名	モニタされるコールの CDR	モニタリング コールの CDR
globalCallID_callId	71	101
origLegCallIdentifier	16777299	16777932
destLegCallIdentifier	16777300	16777235
callingPartyNumber	30000	40003
originalCalledPartyNumber	9728134987	b001501002
finalCalledPartyNumber	9728134987	b001501002
lastRedirectDn	9728134987	b001501002
origCause_Value	16	0
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	370
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	370
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		36
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		36
destConversationID	0	16777299

### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## コールパーク

コールパークは、パークされた元のコールと、ピックアップまたは復帰されたコールに 1 つずつ、計 2 つの CDR を生成します。これらの CDR には、同じ [globalCallID\_callId] が設定されません。

## 関連トピック

- [コールパーク ピックアップ, \(47 ページ\)](#)
- [コールパーク 復帰, \(48 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## コールパーク ピックアップ

コールがパークされると、そのコールは分割されます。元のコールによって CDR が生成されます。この CDR の [origTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destTerminationOnBehalfOf] フィールドには、コールパークを示す 3 が設定されます。

パークされたコールを取得する場合、ユーザはオフフックにしてパーク コードを入力します。このコールは、パークされたコールに結合します。コールをピックアップしているユーザがパークされたコールに結合されるため、システムはそのユーザをコールの発信側として扱い、パークされたユーザは宛先として扱われます。つまり、コールの [callingPartyNumber] フィールドには、そのコールをピックアップしているユーザの電話番号が格納され、[originalCalledNumber] フィールドと [finalCalledNumber] フィールドには、パークされたユーザの電話番号が格納されます。[lastRedirectDn] フィールドには、コールのピックアップに使用されるパーク コードが格納されます。[lastRedirectRedirectReason] フィールドには、コールパーク ピックアップを示す 8 が指定されます。[lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには、コールパークを示す 3 が指定される必要があります。

### コールパーク ピックアップの CDR の例

50003 が 50002 にコールします。50002 は [パーク (Park)] ソフトキーを押します。50001 はパーク コード (44444) をダイヤルして、パークされたコールをピックアップします。

フィールド名	パークされた元のコールの CDR	パークをピックアップしたコールの CDR
globalCallID_callId	1	1
origLegCallIdentifier	20863957	20863961
destLegCallIdentifier	20863958	20863957
callingPartyNumber	50003	50001
originalCalledPartyNumber	50002	50003
finalCalledPartyNumber	50002	50003
lastRedirectDn	50002	44444
origCause_Value	393216	0

フィールド名	パークされた元のコールの CDR	パークをピックアップしたコールの CDR
dest_CauseValue	393216	16
origCalledPartyRedirectReason	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	8
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	3
origTerminationOnBehalfOf	3	0
destTerminationOnBehalfOf	3	12
joinOnBehalfOf	0	3
duration	4	60

## コールパーク復帰

パークされたコールがピックアップされないと、コールパーク復帰タイマーが期限切れとなり、そのコールは着信側にリダイレクトされます。この場合、2つの CDR が生成されます。最初の CDR は前述のコールパークピックアップシナリオと同じになりますが、2つ目の CDR はわずかに異なります。コールピックアップの復帰タイマーが期限切れになると、コールは着信側にリダイレクトされます。

コールがパークされると、そのコールは分割されます。この動作により、元のコールの CDR が生成されます。この CDR の [origTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destTerminationOnBehalfOf] フィールドは、コールパークピックアップシナリオと同じく、コールパークを示す 3 に設定されます。

コールパーク復帰タイマーが期限切れになると、コールは着信側にリダイレクトされます。[origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドおよび [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには、コールパークを示す 3 が指定されます。[origCalledPartyRedirectReason] フィールドにはコールパークを示す 7 が指定され、[lastRedirectRedirectReason] フィールドにはコールパーク復帰を示す 11 が指定されます。

### コールパーク復帰の CDR の例

- **コールパーク復帰の例**：50003 が 50002 にコールします。50002 は [パーク (Park) ] ソフトキーを押します。パークされたコールを誰もピックアップせず、そのコールが 50002 に復帰して、50002 が応答します。

フィールド名	パークされた元のコールの CDR	復帰したコールの CDR
globalCallID_callId	2	2
origLegCallIdentifier	20863963	20863963
destLegCallIdentifier	20863964	20863967
callingPartyNumber	50003	50003
originalCalledPartyNumber	50002	50002
finalCalledPartyNumber	50002	50002
lastRedirectDn	50002	50002
origCause_Value	393216	0
dest_CauseValue	393216	16
origCalledPartyRedirectReason	0	7
lastRedirectRedirectReason	0	11
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	3
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	3
origTerminationOnBehalfOf	3	3
destTerminationOnBehalfOf	3	12
joinOnBehalfOf	0	3
duration	7	60

## コールピックアップ

Cisco Unified Communications Manager におけるコールピックアップには、ピックアップと自動ピックアップの2つのタイプがあります。この2つのタイプのコールピックアップに関する CDR レコードは、わずかに異なります。

### 関連トピック

[ピックアップ, \(50 ページ\)](#)

[自動ピックアップ, \(50 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## ピックアップ

### ピックアップの CDR の例

PSTN から内線 2000、2001、および 2002 にコールが着信します。これらの内線は、同じピックアップグループに属しています。内線 2002 が、2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。内線 2002 がコールに応答し、コールは PSTN の発信側と内線 2002 の間で接続されます。

フィールド名	ピックアップコールの CDR
globalCallID_callId	22
callingPartyNumber	9728131234
originalCalledPartyNumber	2001
finalCalledPartyNumber	2002
lastRedirectDn	2001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origTerminationOnBehalfOf	16
destTerminationOnBehalfOf	16
lastRedirectOnBehalfOf	16
lastRedirectReason	5
joinOnBehalfOf	16

## 自動ピックアップ

自動ピックアップは、自動応答を使用したコールピックアップに似た動作をします。ユーザは、最後の [応答 (Answer) ] ソフトキーを押す必要はありません。コールは自動的に接続します。自動ピックアップには、2 つの CDR が生成されます。これらの CDR は、同じコール ID を持ちます。

- 元のコールに対して最初の CDR が生成されます。この CDR の [origTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destTerminationOnBehalfOf] フィールドは、16 (ピックアップ) になります。この値は、ピックアップ機能のためにコールが終了されたことを示します。
- 2 つ目の CDR は、コールがピックアップされた後の最終コールを表します。この CDR の [lastRedirectOnBehalfOf] フィールドと [joinOnBehalfOf] フィールドは 16 (ピックアップ) に設定されます。この値は、ピックアップ機能の代わりにコールが結合されたことを示します。[lastRedirectReason] には、リダイレクト理由 5 (ピックアップ) が含まれます。

どのタイプの自動ピックアップ (自動ピックアップ、自動グループピックアップ、およびその他の自動ピックアップ) でも、自動ピックアップの CDR は同じようになります。



(注) IP Phone のサービスパラメータの [自動コールピックアップが有効 (Auto Call Pickup Enabled)] が [True] に設定されていて、IP Phone がピックアップする着信コールを Cisco Unified Communications Manager が受信する場合、トランスレーションパターンで定義されたプレフィックス番号が CDR の [callingPartyNumber] に追加されます。ただし、サービスパラメータの [自動コールピックアップが有効 (Auto Call Pickup Enabled)] が [False] に設定されている場合は、プレフィックス番号は追加されません。

#### 自動ピックアップの CDR の例

- **自動ピックアップの例** : PSTN から内線 2001 にコールが着信します。2001 と 2002 は同じピックアップグループに属しています。2002 が 2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。コールは、PSTN 発信側と 2002 の間で自動的に接続します。通話時間は 2 分です。



(注) トランスレーションパターンで定義されているプレフィックス番号は、基本コールにのみ適用されます。

フィールド名	元のコールの CDR	ピックアップの CDR
globalCallID_callId	11	11
origLegCallIdentifier	12345	12345
destLegCallIdentifier	12346	12347
callingPartyNumber	9728134987	9728134987
originalCalledPartyNumber	2001	2001
finalCalledPartyNumber	2001	2002
lastRedirectDn	2001	2001

フィールド名	元のコールの CDR	ピックアップの CDR
origCause_Value	393216	16
dest_CauseValue	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	16	12
destTerminationOnBehalfOf	16	16
lastRedirectRedirectReason	0	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	16
joinOnBehalfOf	0	16
duration	0	120

## コール録音

システムは、既存の CDR フィールドを使用して、コールの録音機能の CDR を生成します。

録音コールには、一方向メディアが存在します。一方向メディアの CDR については、コールの片側に対するメディア フィールドが空のままになります。

コールの録音に対する 2 つ CDR の [origConversationID] フィールドは、録音コールの CDR のエージェント コール レッグ ID に一致し、コールの録音の CDR と録音されたコールの CDR をリンクします。



(注) サービス パラメータの [接続時間がゼロのコールを CDR に記録するフラグ (CDR Log Calls with Zero Duration Flag) ] を [true] に設定すると、サーバコールレコードが 2 件追加されます。

### コールの録音の CDR の例

- お客様 (9728134987) がエージェント (30000) にコールし、エージェントが応答します。レコーダーの DN は 90000 です。録音機能により、録音デバイスへの 2 つの録音コールが作成され、その結果、エージェントの音声とお客様の音声に対して 1 つずつ、計 2 つの CDR が追加されます。録音する側の CDR の [origConversationID] は、録音された側の CDR の [destLegCallIdentifier] に一致します。このシナリオでは、お客様が電話を切ります。

フィールド名	録音された側のコールの CDR	録音する側のコールの CDR1	録音する側のコールの CDR2
globalCallID_callId	7	10	11



フィールド名	録音された側のコールの CDR	録音する側のコールの CDR1	録音する側のコールの CDR2
origLegCallIdentifier	16777110	16777120	16777122
destLegCallIdentifier	16777111	16777121	16777123
callingPartyNumber	9728134987	BIB	BIB
originalCalledPartyNumber	30000	90000	90000
finalCalledPartyNumber	30000	90000	90000
lastRedirectDn	30000	90000	90000
origCause_Value	16	0	0
dest_CauseValue	0	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	354	354
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	354	354
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		27	27
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		27	27
origConversationID	0	16777111	16777111

- 2 エージェント (30000) がお客様 (9728134987) にコールし、お客様が応答します。レコーダーの DN は 90000 です。録音機能により、録音デバイスへの 2 つの録音コールが作成され、その結果、エージェントの音声とおお客様の音声に対して 1 つずつ、計 2 つの CDR が追加されます。録音する側の CDR の [origConversationID] フィールドは、録音される側の CDR の [origLegCallIdentifier] フィールドに一致します。このシナリオでは、エージェントが電話を切ります。

フィールド名	録音された側のコールの CDR	録音する側のコールの CDR 1	録音する側のコールの CDR 2
globalCallID_callId	71	100	110
origLegCallIdentifier	16777113	16777220	16777222
destLegCallIdentifier	16777114	16777221	16777223
callingPartyNumber	30000	BIB	BIB
originalCalledPartyNumber	9728134987	90000	90000

フィールド名	録音された側のコールの CDR	録音する側のコールの CDR 1	録音する側のコールの CDR 2
finalCalledPartyNumber	9728134987	90000	90000
lastRedirectDn	9728134987	90000	90000
origCause_Value	16	16	16
dest_CauseValue	0	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	354	354
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	354	354
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		27	27
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		27	27
origConversationID	0	16777113	16777113

#### 関連トピック

- [シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## コールのセキュリティ保護ステータス

このフィールドは、コールのセキュリティステータスを指定します。コール中に到達した最高レベルのセキュリティが含まれます。たとえば、コールが最初はセキュリティ保護されておらず、後で保護された状態に変わると、コールの別の部分のステータス値は異なる場合でも、CDR の [セキュリティ保護 (Secured)] “” は 1 になります。[callSecuredStatus] フィールドは、コールのセキュリティステータスを識別します。

#### コールのセキュリティ保護ステータスの CDR の例

- 1 暗号化されたコール：システムは、20000 と 20001 の間のコールを暗号化します。通話時間は 5 分です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	102
origLegCallIdentifier	16777140

フィールド名	CDR
destLegCallIdentifier	16777141
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
callSecuredStatus	2
duration	300

- 2 認証されたコール：20000 と 20001 の間のコールが認証されます（暗号化されません）。通話時間は 10 分です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	103
origLegCallIdentifier	16777142
destLegCallIdentifier	16777143
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
callSecuredStatus	1
duration	600

関連トピック

- [シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 発信側の正規化

この機能により、Cisco Unified Communications Manager で国際エスケープコード「+」がサポートできるようになります。この追加サポートにより、デュアルモード電話のダイヤリング機能が強化され、地理的に異なる場所にある企業へ折り返し電話する際の利便性が向上します。

現在、CDR の [callingPartyNumber]、[originalCalledPartyNumber]、[finalCalledPartyNumber]、[lastRedirectDN fields] の各フィールド、および新規のフィールドの [outpulsedCallingPartyNumber] と [outpulsedCalledPartyNumber] に「+」を含めることができます。デバイスは、発信側の正規化/ローカル化が行われる場合に限りコール制御に発信する発信側番号をレポートします。発信側の正規化/ローカル化が行われると、CDR の新規フィールド [outpulsedCallingPartyNumber] にその動作が記録されます。

### 発信社の正規化 CDR の例

- 1 Dallas の PSTN から会社の電話機にコールが発信されます。7 桁の発信側番号は 500 1212 で構成され、Dallas のエリア コードは 972 と表示されます。発信側変換には +1972 が含まれます。CDR の [callingPartyNumber] フィールドには、+1 972 500 1212 (グローバル形式) が格納されます。新規フィールド [outpulsedCallingPartyNumber] には、ローカル化された番号 500 1212 が格納されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	+19725001212
outpulsedCallingPartyNumber	5001212
duration	60

- 1 会社の電話機から Dallas の PSTN にコールが発信されます。会社の電話機の内線は 12345 で構成されます。完全修飾番号は 9725002345 で構成されます。発信側変換で、外部電話番号マスク機能がチェックされます。CDR の [callingPartyNumber] フィールドには、+1 972 500 2345 (グローバル形式) が格納されます。新規フィールド [outpulsedCallingPartyNumber] には、ローカル化された番号 9725002345 が格納されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	2
origLegCallIdentifier	102
destLegCallIdentifier	103
callingPartyNumber	+19725002345
outpulsedCallingPartyNumber	9725002345
duration	60

### 関連トピック

- [シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 使用中または無効な宛先を含むコール

このようなコールはすべて通常のコールとして記録され、すべての関連フィールドにデータが格納されます。[発信側の原因 (Calling Party Cause)] フィールドおよび[着信側の原因 (Called Party Cause)] フィールドには、コールが接続されない理由を示す原因コードが格納され、[着信側 IP (Called Party IP)] フィールドと[接続日時 (Date/Time Connect)] フィールドは空白のままとなります。接続時間ゼロのコールが記録されていない場合でも、失敗したコールはすべてログに記録されます ([CdrLogCallsWithZeroDurationFlag] の設定は [True] または [False]、期間はゼロ、および [DateTimeConnect] 値はゼロ)。

### 失敗したコールの CDR の例

- 1 PSTN 番号にコールを発信しますが、相手側が話し中です (原因 17 = ユーザが話し中)。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987

フィールド名	CDR
origCause_Value	0
dest_CauseValue	17
duration	0

- 2 PSTN 番号にコールを発信しますが、番号が存在しません（原因 1 = 使用不可番号）。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	4
origLegCallIdentifier	302
destLegCallIdentifier	303
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
origCause_Value	1
dest_CauseValue	0
duration	0

- 3 PSTN トランクが故障しているため、PSTN へのコールに失敗します（原因 38 = ネットワークの故障）。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	5
origLegCallIdentifier	304
destLegCallIdentifier	305
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
origCause_Value	0
dest_CauseValue	38
duration	0

## 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## C 割込み

C 割込み機能は、会議機能と非常によく似た動作をします。シェアドラインが割込み機能を使用する場合、[origCalledPartyNumber]、[finalCalledPartyNumber]、および [lastRedirectDn] は会議ブリッジ番号「b00...」。[redirectOnBehalfOf] フィールドおよび [joinOnBehalfOf] フィールドには、会議の値 4 が格納され、[RedirectReason] フィールドには会議を示す 98 が指定されます。

### C 割込みの CDR の例

40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話機の 40001（シェアドライン）が [C 割込み (cBarge)] ボタンを押します。

フィールド名	元のコールの CDR	C 割込みコールの CDR 1	C 割込みコールの CDR 2	C 割込みコールの CDR 3	最終コールの CDR
globalCallID_callId	49	49	49	49	49
origLegCallIdentifier	1677346	1677348	1677347	1677346	1677347
destLegCallIdentifier	1677347	1677353	1677351	1677352	1677346
callingPartyNumber	40003	40001	40001	40003	40001
originalCalledPartyNumber	40001	b0029901001	b0029901001	b0029901001	40003
finalCalledPartyNumber	40001	b0029901001	b0029901001	b0029901001	40003
lastRedirectDn	40001	b0029901001	40001	40001	b0029901001
origCause_Value	393216	16	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	0	393216	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	98	98	98	0
lastRedirectRedirectReason	0	98	98	98	98
destTerminationOnBehalfOf	4		4	4	4
origCalledRedirectOnBehalfOf		4	4	4	

フィールド名	元のコールの CDR	C 割込みコールの CDR 1	C 割込みコールの CDR 2	C 割込みコールの CDR 3	最終コールの CDR
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		4	4	4	4
joinOnBehalfOf		4	4	4	4
会話 ID (Conversation ID)	0	16777220	16777220	16777220	1
duration	60	360		360	360

コメント	
元のコールの CDR	
C 割込みコールの CDR 1	ConfControllerDn=40003;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD
C 割込みコールの CDR 2	ConfControllerDn=40003;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD
C 割込みコールの CDR 3	ConfControllerDn=40003;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD
最終コールの CDR	ConfControllerDn=40003;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD

### 関連トピック

- [シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## クライアント識別コード (CMC)

CMC 機能が起動されると、システムはクライアント識別コードを CDR に書き込みます。  
[clientMatterCode] フィールドには、発信側が入力したクライアント識別コードが格納されます。

### CMC CDR の例

10000 が 2142364624 にコールします。ユーザはクライアント識別コードの入力を求められ、1111 と入力します。発信側がコールに応答し、10 分間通話します。

フィールド名	値
globalCallID_callId	101
origLegCallIdentifier	16777130



フィールド名	値
destLegCallIdentifier	16777131
callingPartyNumber	10000
origCalledPartyNumber	2142364624
finalCalledPartyNumber	2142364624
lastRedirectDn	2142364624
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
clientMatterCode	11111
duration	600

## CMC の例 2

CMC を使用してブラインド会議 :

- 136201 から 136111 にコールを発信します。
- 136111 が応答し、数秒間通話します。
- 136201 が [会議 (Conference) ] ソフトキーを押し、136203 をダイヤルします。
- ユーザは、CMC コードの入力を要求され、125 を入力します。CMC コードの 125 が、レベル 1 に設定され、名前として Forward\_CMC を割り当てられます。
- 136203 の呼び出し中、136201 が [会議 (Conference) ] ソフトキーを押して、会議を実行します。
- 136203 がコールに応答します。
- 会議の 3 人のメンバーがしばらく通話します。
- 136111 が電話を切り、会議には 136201 と 136203 が残ります。会議の参加者が残り 2 人になったため、この 2 人は会議機能により直接結合され、さらに数秒間通話します。

フィールド名	元の コール の CDR	セット アップ コールの CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
globalCallID_callId	60025	60026	60025	60025	60025	60027
origLegCallIdentifier	23704522	23704524	23704523	23704522	23704526	23704527

フィールド名	元の コール の CDR	セット アップ コールの CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
destLegCallIdentifier	23704523	23704526	23704531	23704530	23704532	23704528
callingPartyNumber	136201	136201	136111	136201	136203	136201
origCalledPartyNumber	136111	136203	b00105401002	b00105401002	b00105401002	136203
finalCalledPartyNumber	136111	136203	b00105401002	b00105401002	b00105401002	136203
lastRedirectDn	136111	136203	136201	136201	136201	136203
origCause_Value	393216	0	16	393216	393216	0
dest_CauseValue	393216	0	393216	393216	393216	16
<b>authCodeDescription</b>		Forwad_CMC				
<b>authorizationLevel</b>	0	1	0	0	0	0
時間 (Duration)	20	0	32	32	25	48
authorizationCode		125				



(注) この例のセットアップコールは、接続時間がゼロであっても生成されます。これはこのコールで CMC が使用されるためです。

関連トピック

- [シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 会議コール

会議コールでは、複数のレコードが記録されます。生成される CDR レコードの数は、会議の参加者の数によって異なります。会議の参加者ごとに1つの CDR が存在します。つまり、最初に発信されたコールに1つの CDR、他の通話者を会議に参加させるために使用する各セットアップコールごとに1つの CDR、および会議に接続している最後の2人の通話者に1つの CDR がそれぞれ生成されます。3者間のアドホック会議の場合は、6つの CDR が存在します。つまり、元のコールに1つの CDR、会議に接続している通話者に3つの CDR、各セットアップコールごとに1つ

の CDR、および会議に最後に残った 2 人の通話者に 1 つの CDR がそれぞれ生成されます。発信コール レッグ ID と着信コール レッグ ID を確認することによって、セットアップ コールを会議内の適切なコール レッグに関連付けることができます。

会議ブリッジデバイスは、Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味があり、会議ブリッジへのコールは会議ブリッジデバイスへのコールとして表示されます。「b0019901001」という形式の特殊な番号が、会議ブリッジポートを示しています。すべてのコールが実際の方向に関係なく、会議ブリッジへのコールとして表示されます。ただし、セットアップコールの CDR を確認することによって、各コールの元の方向を判断できます。

会議コントローラ情報は、CDR の [コメント (comment)] フィールドで確認できます。この情報の形式は、次のとおりです。

[コメント (comment)] フィールド = “ConfControllerDn=1000;ConfControllerDeviceName=SEP0003”

- 会議コントローラの DN と会議コントローラのデバイス名で、会議コントローラを一意に識別できます。シェアドラインの場合、デバイス名が必要になります。
- コールが複数の会議コールに含まれている場合、[コメント (comment)] フィールドには複数の会議コントローラ情報が格納されます。この状況は、会議の参加者が 2 人に減り、うち 1 人が別の会議を始めた場合に発生する可能性があります。この場合は、[コメント (comment)] フィールドの最後の会議コントローラの情報によって、会議コントローラを識別します。

会議に接続しているコール レッグには、次の情報フィールドが含まれます。

- [finalCalledPartyNumber] フィールドには、会議ブリッジ番号「b0019901001」が格納されます。
- [origCalledPtyRedirectOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
  - [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
  - [joinOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
  - [コメント (comment)] フィールドは、会議コントローラを識別します。
  - [destConversationID] フィールドは、会議内のすべてのメンバーに対して同一です。このフィールドを使用して、会議コールのメンバーを識別できます。

最初に発信されたコールと、通話者を会議に参加させるために使用したすべてのセットアップコールには、次の特徴があります。

- [origCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
- [destCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。

### 会議コールの CDR の例

- 2001 から 2309 にコールを発信します。
- 2309 が応答し、60 秒間通話します。

- 2001 が [会議 (conference) ] ソフトキーを押し、3071111 をダイヤルします。
- 3071111 が応答し、20 秒間通話します。2001 が [会議 (conference) ] ソフトキーを押して会議を実行します。
- 会議の 3 人のメンバーが 360 秒間通話します。

3071111 が電話を切り、会議には 2001 と 2309 が残ります。会議の参加者が残り 2 人になったため、会議機能により、この 2 人は直接結合されて、さらに 55 秒間通話します。



(注) コールが会議ブリッジに展開されるにつれ、各会議コールレグが表示されます。コールは、実際の方角に関係なく、ブリッジへのコールとして表示されます。

フィールド名	元のコールの CDR	セットアップコールの CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
globalCallID_callId	1	2	1	1	1	1
origLegCallIdentifier	101	105	101	102	106	101
destLegCallIdentifier	102	106	115	116	117	102
callingPartyNumber	2001	2001	2001	2309	3071111	2001
originalCalledPartyNumber	2309	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	2309
finalCalledPartyNumber	2301	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	2309
lastRedirectDn	2001	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901001
origCause_Value	393216	0	16	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	0	393216	393216	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	0	98
origTerminationOnBehalfOf	4	4	12	12	4	12
destTerminationOnBehalfOf	4	4	0	0	4	4
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0	4	4	4	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	4	4	4	4
joinOnBehalfOf	0	0	4	4	4	4

フィールド名	元のコールの CDR	セットアップコールの CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
会話 ID (Conversation ID)	0	0	1	1	1	0
duration	60	20	360	360	360	55

コメント	
元のコールの CDR	
セットアップ コール の CDR	ConfControllerDn=2001;ConfControolerDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議の CDR 1	ConfControllerDn=2001;ConfControolerDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議の CDR 2	ConfControllerDn=2001;ConfControolerDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議の CDR 3	ConfControllerDn=2001;ConfControolerDeviceName=SEP0003E333FEBD
最終 CDR	

### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 動作要因

会議コールの CDR には、次に示す 3 つの主な動作要因が存在します。

- 1 会議の参加者が 2 人に減ると、その 2 人は直接接続し、会議リソースを解放します。この変化により、会議コールに残された 2 人の間のコールに対して、追加の CDR が生成されません。

たとえば、会議コールで 4 人 (Amy、Dustin、Spencer、Ethan) が接続している場合に、Ethan が電話を切り、会議ブリッジに接続している 3 人 (Amy、Dustin、Spencer) が会議コールに残るとします。Spencer が電話を切ると、会議コールには 2 人 (Amy と Dustin) だけが残ります。Amy と Dustin は直接結合され、会議リソースは解放されます。Amy と Dustin が直接結合したことで、会議に残った最後の 2 人の間に追加の CDR が作成されます。

- 2 CDR の [コメント (comment) ] フィールドに、会議コントローラ情報が追加されます。この情報で、会議コントローラを識別できます。ここで、誰が会議コントローラであるかを判断するために、コンサルト コールを確認する必要はありません。次に、この情報の例を示します。

[コメント (comment) ] フィールド =  
 “ConfControllerDn=1000;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD”

- 会議コントローラの DN と会議コントローラのデバイス名で、会議コントローラを一意に識別できます。シェアドラインの場合は、デバイス名が必要になります。
- コールが複数の会議コールに含まれている場合、[コメント (comment) ] フィールドには複数の会議コントローラ情報が格納されます。この状況は、会議の参加者が 2 人に減り、うち 1 人が別の会議を始めた場合に発生する可能性があります。この場合は、[コメント (comment) ] フィールドの最後の会議コントローラの情報によって、会議コントローラを識別します。

- 3 参加者を追加した通話者は、要求者と呼ばれ、CDR の [コメント (comment) ] フィールドに表示されます。要求者情報のタグには、[ConfRequestorDn] と [ConfRequestorDeviceName] が含まれます。参加者の削除を要求した通話者は、ドロップ要求者と呼ばれ、CDR の [コメント (comment) ] フィールドに表示されます。ドロップ要求者情報のタグには、[DropConfRequestorDn] と [DropConRequestorDeviceName] が含まれます。

会議の一部であるコールには、それらに関して記録される複数のレコードがあります。生成される CDR の数は、会議の参加者の数によって異なります。会議内の各通話者に対して 1 つの CDR、最初に発信されたコールに対して 1 つの CDR、および他の通話者を会議に参加させるために使用された各セットアップコールに対して 1 つの CDR が存在します。したがって、3 者間のアドホック会議には、次の 6 つの CDR が存在します。

- 元のコールに対して 1 つの CDR。
- 会議に接続している通話者に対して 3 つの CDR。
- 各セットアップコールに対して 1 つの CDR。
- 会議に残った最後の 2 人の通話者に対して 1 つの CDR。

発信コール レッグ ID と着信コール レッグ ID を確認することによって、セットアップコールを会議内の適切なコール レッグに関連付けることができます。

会議ブリッジデバイスは、Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味を持ちます。会議ブリッジへのコールは、会議ブリッジデバイスへのコールとして表示されます。

「b0019901001」という形式の特殊な番号が、会議ブリッジポートを示しています。すべてのコールは、実際の方角とは関係なく、会議ブリッジ「への」コールとして表示されます。セットアップコールの CDR を確認することで、各コールの元の方角を判断できます。

会議に接続されたコール レッグには、次のフィールド値が設定されます。

- [finalCalledPartyNumber] : 会議ブリッジ「b0019901001」を示します。
- [origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] : 会議 (4) に設定されます。
- [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] : 会議 (4) に設定されます。
- [joinOnBehalfOf] : 会議 (4) に設定されます。
- [コメント (comment) ] : 会議コントローラを識別します。

最初に発信されたコールと、通話者を会議に参加させるために使用したすべてのセットアップコールには、次のフィールド値が設定されます。

- [origCallTerminationOnBehalfOf] : 会議 (4) に設定されます。
- [destCallTerminationOnBehalfOf] : 会議 (4) に設定されます。

## 開催中の会議コール

この機能により、内外の発信側が、開催中の会議の IVR 電話番号をダイヤルして会議に参加できるようになります。自動音声応答 (IVR) アプリケーションは、会議に参加できるように発信側をガイドするため、アナウンスを再生し、発信側が入力した DTMF 番号を収集します。

開催中の会議機能を使用した会議コールは、コールの複数の CDR レコードを記録します。生成される CDR レコードの数は、会議の参加者の数によって異なります。会議内の各通話者に対して 1 つの CDR、最初に発信されたコールに対して 1 つの CDR、および通話者を会議ブリッジに参加させるために使用された各セットアップコールに対して 1 つの CDR が存在します。2 者間の開催中の会議では、最初のコールに対して 2 つの CDR、会議ブリッジに接続された通話者に対して 2 つの CDR の合計 4 つの CDR が存在します。

会議ブリッジデバイスは、Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味があり、会議ブリッジへのコールは会議ブリッジデバイスへのコールとして表示されます。「b00105401006」という形式の特殊な番号が、会議ブリッジポートを示しています。すべてのコールが実際の方向に関係なく、会議ブリッジへのコールとして表示されます。ただし、セットアップコールの CDR を確認することによって、各コールの元の方向を判断できます。

開催中の会議の情報は、CDR の [コメント (comment)] フィールドで確認できます。[コメント (comment)] フィールドは、CFB へのコールのリダイレクションでのみ指定できます。この情報の形式は、次のとおりです。

[コメント (comment)] フィールド = “ConferenceNowHostId=john;  
ConferenceNowMeetingNumber=136136”。

ConferenceNowHostId+ConferenceNowMeetingNumber は、開催中の会議の情報を一意に識別します。

会議に接続しているコール レッグには、次の情報フィールドが含まれます。

- [finalCalledPartyNumber] フィールドには、会議ブリッジ番号 “b00105401006” が含まれます。最初のコールで IVR に接続した場合の [finalCalledPartyNumber] フィールドは、IVR ディレクトリ番号 “c00124401001” が含まれます。
- [origCalledPtyRedirectOnBehalfOf] フィールドには、ミートミー会議代行受信を示す 7 が設定されます。
- [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには、ミートミー会議代行受信を示す 7 が設定されます。
- [joinOnBehalfOf] フィールドには、ミートミー会議代行受信を示す 7 が設定されます。
- [コメント (comment)] フィールドは、ConferenceNowHostId および ConferenceNowMeetingNumber を識別します。

- [destConversationId] フィールドは、会議内のすべてのメンバーに対して同一です。このフィールドは、会議コールのメンバーを識別するのに使用できます。

最初に発信されたコールと、通話者を会議に参加させるために使用したすべてのセットアップコールには、次の特徴があります。

- [origCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、ミーティング会議代行受信を示す 7 が設定されます。
- [destCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、ミーティング会議代行受信を示す 7 が設定されます。

### ConferenceNow CDR の例

次の表に、以下のシナリオの CDR の例を示します。

- ユーザ A (139139) が電話番号 1010 を使用して開催中の会議の会議ブリッジにコールします。
- ユーザ A (139139) が、IVR と会議番号の IVR リクエストに接続します。
- ユーザ A (139139) が、会議番号 “136136” に続いて # をダイヤルします。
- ユーザ A (139139) が、参加者として参加します。したがって、# に続けて参加者のアクセスコード番号を入力した後、再度 # を入力します。
- ユーザ A (139139) が、保留音 (MoH) によって保留状態になります。
- ユーザ B (136136) が、開催中の会議の電話番号 1010 でダイヤルします。
- ユーザ B (136136) が、IVR と会議番号の IVR リクエストに接続します。
- ユーザ B (136136) が、会議番号に続いて # をダイヤルします。
- ユーザ B (136136) が、ホストとして会議コールに参加します。そのため、ホストピンの後に # を入力します。
- 参加者とホストの両方が、会議ブリッジにリダイレクトされ、会議に配置されます。

フィールド名	元のコールの CDR1	会議の CDR 1	元のコールの CDR2	会議の CDR 2
globalCallID_callId	47002	47002	47003	47003
origLegCallIdentifier	20795093	20795093	20795098	20795098
destLegCallIdentifier	20795096	20795104	20795101	20795103
callingPartyNumber	139139	139139	136136	136136
originalCalledPartyNumber	1010	1010	1010	1010
finalCalledPartyNumber	c00124401001	b00105401006	c00124401001	b00105401006



フィールド名	元のコールの CDR1	会議の CDR 1	元のコールの CDR2	会議の CDR 2
lastRedirectDn	1010	c00124401001	1010	c00124401001
origCause_Value	0	16	0	16
dest_CauseValue	0	0	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0
origTerminationOnBehalfOf	7	12	7	12
destTerminationOnBehalfOf	7	7	7	7
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	7	0	7
joinOnBehalfOf	0	7	0	7
会話 ID (Conversation ID)	0	16809217	0	16809217
duration	18	20	10	9

コメント	
元のコールの CDR 1	
会議の CDR 1	ConferenceNowHostID=Rishi;ConferenceNowMeetingNumber=136136
元のコールの CDR 2	
会議の CDR 2	ConferenceNowHostID=Rishi;ConferenceNowMeetingNumber=136136

## 会議からの任意の通話者のドロップ

会議からの任意の通話者のドロップ機能は、新しい原因コードを除いて、その他のコールと同一に見えるコールを終了します。原因コードは、この機能が終了するコールを識別します。

### 会議からの任意の通話者のドロップの CDR の例

次の表に、会議に接続し、この機能によってドロップされるコールの CDR の例を示します。

発信側通話者	発信側パーティション	元の着信側	元の原因	元の着信側パーティション	着信側レグ	着信側の原因	最終着信通話者	最終着信パーティション	最終リダイレクト者
2001	ACNTS	2309	0	MKTG	102	16	2309	MKTG	2001
2001	ACNTS	2309	16	MKTG	115	0	b0029901001		b0029901001
2309	ACNTS	b0029901001	0		116	128	b0029901001		b0029901001
3071111	PSTN	b0029901001	16		117	0	b0029901001		b0029901001
2001	ACNTS	2309	16	PSTN	106	0	3071111	PSTN	3071111

元の会話 ID	OrigCall Termination OnBehalfOf	DestCall Termination OnBehalfOf	OriginalCalled Pty Redirect OnBehalfOf	LastRedirect Redirect OnBehalfOf	Join OnBehalfOf	時間 (Duration)
0	4	4	0	0	0	60
1	12	0	4	4	4	360
1	13	0	4	4	4	200
1	4	4	4	4	4	360
0	4	4	0	0	0	20

#### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 転送での元の発信側

この機能は、Cisco Unity または Cisco Unity Connection が開始したコール転送のコンサルト コールの発信側番号を変更します。コンサルト コールの CDR には、Cisco Unity または Cisco Unity Connection ポートが転送先にコールしているのではなく、元の発信側が転送先にコールしていると示されます。

この機能は Cisco Unified Communications Manager のサービス パラメータで設定する必要があります。『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』の「“Configuring CDR Service Parameters”」の項の説明を参照してください。

### 転送での元の発信側の CDR の例

4001 が 4002 にコールします。4002 がコールを 4003 に転送します。次の 3 つの CDR が生成されます。

- 最初の通話者間（4001 から 4002）のコール。
- 転送している通話者（4002）から最終転送先（4003）へのコンサルト コール。
- 転送された通話者（4001）から転送先（4003）へのコール。

コール	CallingPartyNumber	originalCalledPartyNumber
1	4001	4002
2	4002	4003
3	4001	4003



(注) CDR には [originalCallingParty] フィールドは存在しません。

## DTMF 方式

これらのフィールドは、コールに使用される Dual Tone Multi-Frequency (DTMF) 方式を識別します。

### DTMF の CDR の例

- 1 初期設定なしの例：このコール中に使用される DTMF 方式は、初期設定なし/ベストエフォートです。このコールは、1 分間接続します。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	200
origLegCallIdentifier	16777500
destLegCallIdentifier	16777501
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001

フィールド名	CDR
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	0
destDTMFMethod	0
duration	60

- 1 **優先 OOB の例**：このコール中に使用される DTMF 方式は、優先 OOB です。このコールは、1 分間接続します。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	201
origLegCallIdentifier	16777502
destLegCallIdentifier	16777503
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	1
destDTMFMethod	1
duration	60

#### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明](#), (159 ページ)

[シスコのコール詳細レコードのコード](#), (201 ページ)

[シスコのコール管理レコードの例](#), (241 ページ)

## エンドツーエンドコールトレース

エンドツーエンドコールトレース機能によって、Unified CM、Cisco IOS ゲートウェイなどの複数のシスコ音声製品を経由するコールのトレースが容易になります。

### エンドツーエンドコールトレースの例

- 1 H323 : 発信側 1003 が H.323 トランク経由で 1004 にコールします。

フィールド名	値
cdrRecordType	1
globalCallID_callManagerId	1
globalCallID_callId	32009
origLegCallIdentifier	19654113
dateTimeOrigination	1221263718
origNodeId	1
origSpan	0
origIpAddr	1897990154
callingPartyNumber	1004
origCause_value	16
origPrecedenceLevel	4
origMediaTransportAddress_IP	1897990154
origMediaTransportAddress_Port	19824
origMediaCap_payloadCapability	4
origMediaCap_maxFramesPerPacket	20
destLegIdentifier	19654114
destNodeId	1
destSpan	19654114
destIpAddr	424630538

フィールド名	値
originalCalledPartyNumber	1003
finalCalledPartyNumber	1003
destCause_value	0
destPrecedenceLevel	4
destMediaTransportAddress_IP	-1759442934
destMediaTransportAddress_Port	27508
destMediaCap_payloadCapability	4
destMediaCap_maxFramesPerPacket	20
dateTimeConnect	1221263720
dateTimeDisconnect	1221263721
lastRedirectDn	1003
Pkid	c8868f84-0f4e-452c-a814-bf97a7fe69fc
時間 (Duration)	1
origDeviceName	SEP003094C2B08C
destDeviceName	self-loop
origCallTerminationOnBehalfOf	12
destCallTerminationOnBehalfOf	0
origDTMFMethod	3
destDTMFMethod	4
origMediaCap_Bandwidth	64
destMediaCap_Bandwidth	64
origIpv4v6Addr	10.8.33.113
destIpv4v6Addr	10.8.33.151
IncomingProtocolID	0

フィールド名	値
IncomingProtocolCallRef	
OutgoingProtocolID	2
OutgoingProtocolCallRef	0053C43F6701B18C030004010A082171

2 Q931 : 1004 が Q931 経由で 1003 にコールします。

フィールド名	値
cdrRecordType	1
globalCallID_callManagerId	1
globalCallID_callId	32008
origLegCallIdentifier	19654111
dateTimeOrigination	1221263350
origNodeId	1
origSpan	2
origIpAddr	122640650
callingPartyNumber	1004
origCause_value	0
origPrecedenceLevel	4
origMediaTransportAddress_IP	122640650
origMediaTransportAddress_Port	17218
origMediaCap_payloadCapability	4
origMediaCap_maxFramesPerPacket	20
destLegIdentifier	19654112
destNodeId	1
destSpan	0
destIpAddr	-1759442934

フィールド名	値
originalCalledPartyNumber	1003
finalCalledPartyNumber	1003
destCause_value	16
destPrecedenceLevel	4
destMediaTransportAddress_IP	-1759442934
destMediaTransportAddress_Port	23350
destMediaCap_payloadCapability	4
destMediaCap_maxFramesPerPacket	20
dateTimeConnect	1221263351
dateTimeDisconnect	1221263352
lastRedirectDn	1003
Pkid	b576bd8d-9703-4f66-ae45-64ae5c04738e
時間 (Duration)	1
origDeviceName	BRI/S1/SU0/P1@nw052b-3640.cisco.com
destDeviceName	SEP003094C2D263
origCallTerminationOnBehalfOf	0
destCallTerminationOnBehalfOf	12
origDTMFMethod	1
destDTMFMethod	3
origMediaCap_Bandwidth	64
destMediaCap_Bandwidth	64
origIpv4v6Addr	10.89.79.7
destIpv4v6Addr	10.8.33.151
IncomingProtocolID	4



フィールド名	値
IncomingProtocolCallRef	01-1004-1003
OutgoingProtocolIID	0
OutgoingProtocolCallRef	

### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 強制承認コード (FAC)

FAC 機能が起動されると、承認の説明とレベルが CDR に書き込まれます。セキュリティ上の理由から、実際の承認コードは CDR に書き込まれません。

- [authCodeDescription] フィールドには、承認コードの説明が格納されます。
- [authorizationLevel] フィールドには、承認コードに関連付けられた承認のレベルが格納されます。

### FAC の CDR の例 1

45000 が 9728134987 にコールします。ユーザは、承認コードの入力を求められ、12345 と入力します。FAC コード 12345 は、レベル 1 として Legal1 という名前で設定されています。発信側がコールに応答し、2 分間通話します。

フィールド名	値
globalCallID_callId	100
origLegCallIdentifier	16777123
destLegCallIdentifier	16777124
callingPartyNumber	45000
origCalledPartyNumber	9728134987
finalCalledPartyNumber	9728134987
lastRedirectDn	9728134987
origCause_Value	0

フィールド名	値
dest_CauseValue	16
authCodeDescription	Legal1
authorizationLevel	1
duration	120
authorizationCode	12345

CDR は、コールのセットアップに FAC が使用されている場合、コールが他の発信側にリダイレクトされる前にすべての無応答コールのセットアップ コール レッグで書き込まれます。



(注) このコールにメディアは接続されないため、無応答コールには接続時間がありません。CDR は、コールに FAC が存在する場合、サービス パラメータの [CdrLogCallsWithZeroDurationFlag] にかかわらずログ記録されます。

## FAC の例 2

FAC を使用したブラインド会議：

- 136201 から 136111 にコールを発信します。
- 136111 が応答し、数秒間通話します。
- 136201 が [会議 (Conference) ] ソフトキーを押し、136203 をダイヤルします。
- ユーザは、FAC コードの入力を要求され、124 を入力します。FAC コードの 124 が、レベル 1 に設定され、名前として Forward\_CMC を割り当てられます。
- 136203 の呼び出し中、136201 が [会議 (Conference) ] ソフトキーを押して、会議を実行します。
- 136203 がコールに応答します。
- 会議の 3 人のメンバーがしばらく通話します。
- 136111 が電話を切り、会議には 136201 と 136203 が残ります。会議の参加者が残り 2 人になったため、この 2 人は会議機能により直接結合され、さらに数秒間通話します。

フィールド名	元のコールの CDR	セットアップコールの CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
globalCallId_callId	60015	60016	60015	60015	60015	60017

フィールド名	元のコールの CDR	セットアップコールの CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
origLegCallIdentifier	23704372	23704374	23704373	23704372	23704376	23704377
destLegCallIdentifier	23704373	23704376	23704381	23704380	23704382	23704378
callingPartyNumber	136201	136201	136111	136201	136203	136201
origCalledPartyNumber	136111	136203	b00105401002	b00105401002	b00105401002	136203
finalCalledPartyNumber	136111	136203	b00105401002	b00105401002	b00105401002	136203
lastRedirectDn	136111	136203	136201	136201	136201	136203
origCause_Value	393216	0	16	393216	393216	0
dest_CauseValue	393216	0	393216	393216	393216	16
<b>authCodeDescription</b>		Forward_FAC				
<b>authorizationLevel</b>	0	1	0	0	0	0
時間 (Duration)	18	0	37	37	32	38
authorizationCode		124				



(注) この例のセットアップ コールは、接続時間がゼロであっても生成されます。これはこのコールで FAC が使用されるためです。

#### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 転送またはリダイレクトされたコール

転送 (Forward) されたコールは、1つの CDR を生成し、発信側、元の着信側番号、最後にリダイレクトした番号、最終的な着信側番号、および関連付けられたパーティションを示します。コールが 3 回以上転送 (Forward) された場合、中間の転送者は CDR に記録されません。

コールの転送 (Forward) は、複数の条件 (常時、話し中、および応答なし) で発生します。コールが転送 (Forward) される状況は、CDR に記録されません。

転送 (Forward) されたコールの CDR は、[originalCalledPartyNumber] フィールドと [originalCalledPartyNumberPartition] フィールドを除いて、通常のコールの CDR に一致します。これらのフィールドには、元の発信側が最初にダイヤルした宛先の電話番号とパーティションが格納されます。コールが転送 (Forward) された場合は、[finalCalledPartyNumber] フィールドと [finalCalledPartyNumberPartition] フィールドが変わり、コールの最終的な宛先の電話番号とパーティションが格納されます。

また、コールが転送 (Forward) されると、[lastRedirectDn] フィールドと [lastRedirectDnPartition] フィールドには、コールを転送 (Forward) またはリダイレクトした最後の電話機の電話番号とパーティションが格納されます。

コール転送 (Forward) では、コールの転送 (Forward) にリダイレクト コールプリミティブが使用されます。リダイレクト コールプリミティブを使用する機能では、CDR は同じになります。次のリストに、転送 (Forward) されたコールに関する重要な CDR フィールドの一部を示します。

- [originalCalledPartyNumber] には、元の着信側番号が格納されます。
- [finalCalledPartyNumber] は、コールに応答した番号を示します。
- [lastRedirectDn] フィールドは、最後のリダイレクトを実行した番号を示します。
- [origCalledPartyRedirectReason] は、コールが最初にリダイレクトされた理由を示します。コール転送 (Forward) の場合、このフィールドには、**話中転送 (Call Forward Busy) (1)**、**無応答時転送 (Call Forward No Answer) (2)**、**すべてのコールの転送 (Call Forward All) (15)** を設定できます。
- [lastRedirectRedirectReason] は、コールが最後にリダイレクトされた理由を示します。コール転送 (Forward) の場合、このフィールドには、**話中転送 (Call Forward Busy) (1)**、**無応答時転送 (Call Forward No Answer) (2)**、**すべてのコールの転送 (Call Forward All) (15)** を設定できます。
- [origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドは、最初のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を識別します。コール転送 (Forward) の場合、このフィールドには 5 (コール転送 (Forward)) が指定されます。
- [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドは、最後のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を識別します。コール転送 (Forward) の場合、このフィールドには 5 (コール転送 (Forward)) が指定されます。

### 転送 (Forward) されたコールの CDR の例

- 1 **CFA** : PSTN から内線 2001 にコールが着信し、このコールは 2309 に転送 (Forward) され (CFA)、そこで応答されます。通話時間は 2 分間です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	12345

フィールド名	CDR
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	2001
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	15
lastRedirectRedirectReason	15
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	5
duration	120

- 2 複数ホップの CFA および CFNA : PSTN から内線 1000 へのコールを着信します。このコールは 2000 に転送 (Forward) されてから (CFA) ボイスメッセージングシステム (6000) に転送 (Forward) されます (CFNA)。そこで発信側がメッセージを残します。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	12346
origLegCallIdentifier	102
destLegCallIdentifier	105
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	1000
finalCalledPartyNumber	6000
lastRedirectDn	2000
origCause_Value	0

フィールド名	CDR
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	15
lastRedirectRedirectReason	2
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	5
duration	15

- 3 複数ホップの CFNA および CFB : PSTN から内線 4444 へのコールを着信します。このコールは 5555 に転送 (Forward) されてから (CFNA)、6666 に転送 (Forward) されます (CFB)。そこで応答され、30 秒間通話が行われます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	12347
origLegCallIdentifier	106
destLegCallIdentifier	108
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	4444
finalCalledPartyNumber	6666
lastRedirectDn	5555
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origCalledPartyRedirectReason	2
lastRedirectRedirectReason	1
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	5
duration	30

## 関連トピック

[シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

# ハントリストのサポート

## ハントリストの例

1 応答されたコール：この例では、コールはハントリストに入り、ハントリストのメンバーがコールに応答します。

- Cisco Unified IP Phone の 3001、3002、3003、および 3004 はハントリストの一部です。電話機の表示名はそれぞれ、3001-Name、3002-Name、3003-Name、および 3004-Name です。
- ハントパイロット 2000 がハントリストに関連付けられています。ハントパイロット 2000 には、2000-Name という表示名が設定されています。
- 電話機 1000 がハントパイロット 2000 にコールし、コールは 3001 にオファーされて応答されます。

CDR の [finalCalledPartyNumber] フィールドのサービス パラメータ [Show Line Group Member DN] が [True] に設定されていると、次に示す表の値が CDR に表示されます。

フィールド名	CDR
callingPartyNumber	1000
callingPartyNumberPartition	
originalCalledPartyNumber	2000
originalCalledPartyNumberPartition	
finalCalledPartyNumber	3001
finalCalledPartyNumberPartition	
origDeviceName	電話 1000
destDeviceName	電話 3001
huntPilotDN	2000
huntPilotPartition	

CDR の [finalCalledPartyNumber] フィールドのサービス パラメータ [Show Line Group Member DN] が False に設定されていると、次に示す表の値が CDR に表示されます。

フィールド名	CDR
callingPartyNumber	1000
callingPartyNumberPartition	
originalCalledPartyNumber	2000
originalCalledPartyNumberPartition	
finalCalledPartyNumber	2000
finalCalledPartyNumberPartition	
origDeviceName	電話 1000
destDeviceName	電話 3001
huntPilotDN	2000
huntPilotPartition	

**1 放棄された、または失敗したコール：**この例では、コールはハントリストに入り、ハントリストのメンバーがコールを放棄するか、コールに失敗します。

- Cisco Unified IP Phone の 3001、3002、3003、および 3004 はハントリストの一部です。
- ハントパイロット 2000 がハントリストに関連付けられています。
- 電話機 1000 がハントパイロット 2000 にコールし、コールは 3001 にオファーされて放棄されます。CDR の [finalCalledPartyNumber] フィールドのサービス パラメータ [Show Line Group Member DN] が [True] に設定されていると、次に示す表の値が CDR に表示されま

フィールド名	CDR
callingPartyNumber	1000
callingPartyNumberPartition	
originalCalledPartyNumber	2000
originalCalledPartyNumberPartition	
finalCalledPartyNumber	<b>3001</b>
finalCalledPartyNumberPartition	



フィールド名	CDR
origDeviceName	電話 1000
destDeviceName	電話 3001
huntPilotDN	
huntPilotPartition	
calledPartyPatternUsage	7

コールが応答されていないため、CDR の [huntPilotDN] は使用できません。[PatternUsage] (7 = PATTERN\_HUNT\_PILOT) フィールドが 7 に設定され、コールがハントパイロットに発信されたことを示します。このサービスパラメータが有効である場合、[finalCalledPartyNumber] フィールドにメンバーハントの DN が示され、[originalCalledPartyNumber] フィールドにハントパイロットの DN が示されます。

CDR の [finalCalledPartyNumber] フィールドのサービスパラメータ [Show Line Group Member DN] が False に設定されていると、次に示す表の値が CDR に表示されます。

フィールド名	CDR
callingPartyNumber	1000
callingPartyNumberPartition	
originalCalledPartyNumber	2000
originalCalledPartyNumberPartition	
finalCalledPartyNumber	<b>2000</b>
finalCalledPartyNumberPartition	
origDeviceName	電話 1000
destDeviceName	電話 3001
huntPilotDN	
huntPilotPartition	
calledPartyPatternUsage	7

コールが応答されていないため、CDR の [huntPilotDN] は使用できません。[PatternUsage] (7 = PATTERN\_HUNT\_PILOT) フィールドが 7 に設定され、コールがハントパイロットに発信されたことを示します。このサービスパラメータが無効であると、[finalCalledPartyNumber] フィールドにメンバーハントの DN が示されます。

## H.239

Cisco Unified Communications Manager は H.239 をサポートしています。この機能は、H.320 ベースシステムで最大 2 つのビデオチャンネルを使用し、個々のチャンネルに「presentation」または「live」のロールを示すラベルを表示する手順を定義します。この手順には、チャンネルと、コールにおけるチャンネルコンテンツのロールを処理するための要件が示されています。ロールラベルは、H.320 および H.245 シグナリングベースシステムに適用されます。

いくつかの新しい CDR フィールドが、発信元デバイスと宛先デバイスのための 2 番目のビデオチャンネルをサポートします。次の CDR は、これらの新しいフィールドの例を示しています。

### H.239 の CDR の例

A と B が Terminal Capability Set (TCS) で H.239 機能を宣言し、一方または両方のエンドポイントが受信チャンネルを起動して、プレゼンテーションまたはビデオフィードに対応する H.239 メカニズムの拡張ビデオチャンネルを設定すると、ビデオコールの既存のフィールドに加え、新しい CDR フィールドが CDR に表示されます。

発信側 51234 が着信側 57890 にコールします。103 が H.264、187962284 が 172.19.52.11、288625580 が 172.19.52.17、および 352 が 352K とします。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
originalCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890
origCause_Value	0
destCause_Value	16
origVideoCap_Codec	103
origVideoCap_Bandwidth	352

フィールド名	CDR
origVideoCap_Resolution	0
origVideoTransportAddress_IP	187962284
origVideoTransportAddress_Port	2406
destVideoCap_Codec	103
destVideoCap_Bandwidth	352
destVideoCap_Resolution	0
destVideoTransportAddress_IP	288625580
destVideoTransportAddress_Port	2328
origVideoCap_Codec_Channel2	103
origVideoCap_Bandwidth_Channel2	352
origVideoCap_Resolution_Channel2	0
origVideoTransportAddress_IP_Channel2	187962284
origVideoTransportAddress_Port_Channel2	2410
origVideoChannel_Role_Channel2	0
destVideoCap_Codec_Channel2	103
destVideoCap_Bandwidth_Channel2	352
destVideoCap_Resolution_Channel2	0
destVideoTransportAddress_IP_Channel2	288625580
destVideoTransportAddress_Port_Channel2	2330
destVideoChannel_Role_Channel2	0

#### 関連トピック

[CDR フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## iLBC コール

Internet Low Bit Rate Codec (iLBC) は、フレームが失われるロスの大いネットワークで、音声品質の劣化に対応します。iLBC コールに対して、コーデックは `Media_Payload_ILBC = 86` を指定します。

iLBC コールの CDR には、オーディオ帯域幅のフィールドが追加されます。

フィールド名	定義
<code>origMediaCap_bandwidth</code>	この整数フィールドにはオーディオ帯域幅が含まれます。
<code>destMediaCap_bandwidth</code>	この整数フィールドにはオーディオ帯域幅が含まれます。

システムは、次の表に基づいて帯域幅フィールドに値を取り込みます。

コーデック	帯域幅
G711Alaw64k	64
G711Alaw56k	72
G711mu-law64k	64
G711mu-law56k	72
G722 64k	64
G722 56k	72
G722 48k	48
G7231	7
G728	16
G729	8
G729AnnexA	8
Is11172AudioCap	0
Is13818AudioCap	0
G729AnnexB	8
G729AnnexAwAnnexB	8

コーデック	帯域幅
GSM Full Rate	13
GSM Half Rate	7
GSM Enhanced Full Rate	13
ワイドバンド 256K	256
データ 64k	64
データ 56k	72
G7221 32K	32
G7221 24K	24
AAC-LD (mpeg4-generic)	256
AAC-LD (MP4A-LATM) 128K	128
AAC-LD (MP4A-LATM) 64K	64
AAC-LD (MP4A-LATM) 56K	72
AAC-LD (MP4A-LATM) 48K	48
AAC-LD (MP4A-LATM) 32K	32
AAC-LD (MP4A-LATM) 24K	24
GSM	13
iLBC	15 または 13
iSAC	32
XV150 MR 729A	8
NSE VBD 729A	8

#### iLBC コールの CDR の例

この例は、iLBC コーデックを使用するコールに適用されます。

フィールド名	iLBC の CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
originalCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origMediaCap_payloadCapability	86
origMediaCap_Bandwidth	15
destMediaCap_payloadCapability	86
destMediaCap_Bandwidth	15

#### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## Intercompany Media Engine

#### 成功した IME コール

コールは PSTN になります。ゲートウェイで、コールは学習された IME ルートに置かれ、IME トランクに拡張されます。IME トランクを通じて、コールは正常にルーティングされます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300

フィールド名	CDR
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	30
lastRedirectRedirectReason	0
duration	10

### IME トランクの拒否により失敗した IME コール

コールは PSTN になります。ゲートウェイで、コールは学習された IME ルートに置かれ、IME トランクに拡張されます。IME トランクはコールを拒否し、コール処理はコールを PSTN にリダイレクトしないため、コールは拒否されます。IME トランクの拒否の理由によって、別の lastRedirectRedirectReason が報告される場合があります。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
origTerminationOnBehalfOf	30
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	30
lastRedirectRedirectReason	496/512/528/544/560/576/592/608/624/640/656/672/688/704
origCause_Value	31
duration	0

### IME トランクの拒否により PSTN にリダイレクトされる IME コール

コールは PSTN になります。ゲートウェイで、コールは学習された IME ルートに置かれ、IME トランクに拡張されます。IME トランクはコールを拒否し、コール処理はコールを PSTN にリダイ

レクトするため、コールは拒否されます。IME トランクの拒否の理由によって、別の [lastRedirectRedirectReason] は報告できます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	30
lastRedirectRedirectReason	496/512/528/544/560/576/592/608/624/640/656/672/688/704
duration	10

### IME トランクを通じてコールが正常にルーティングされ、QoS の低下によりコール フォールバックが起きる

コールは PSTN になります。ゲートウェイで、コールは学習された IME ルートに置かれ、IME トランクに拡張されます。コールは IME トランク経由でルーティングされます。後から QoS の低下が見つかり、コールが PSTN にフォールバックします。

この場合は、IME コールで 1 つ、PSTN コールへのフォールバックで 1 つの合計 2 つの CDR が生成されます。

表 3: IME コールの CDR

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
OrigTerminationOnBehalfOf	30
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	30



フィールド名	CDR
origCause_value	132
duration	5

表 4: PSTN コールへのフォールバック

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	31
joinOnBehalfOf	31
lastRedirectRedirectReason	722
duration	5

**PSTN フォールバック コールのクリアの例 1**

コールは PSTN になります。ゲートウェイで、コールは学習された IME ルートに置かれ、IME トランクに拡張されます。コールは IME トランク経由でルーティングされます。後から QoS の低下が見つかり、PSTN へのフォールバックが開始されます。コールは PSTN ゲートウェイによって拒否されます。コールは、コールをクリアする FallBack Manager によって代行受信されます。IME コールはそのまま放置されます。

この場合は、IME コールで 1 つ、PSTN コールへのフォールバックで 1 つの合計 2 つの CDR が生成されます。

表 5: IME コールの CDR

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300

フィールド名	CDR
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	30
lastRedirectRedirectReason	0
duration	5

表 6: PSTN コールへのフォールバック

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
OrigTerminationOnBehalfOf	31
origCause_value	既存の PSTN GW の原因コード
duration	0

### PSTN フォールバック コールのクリアの例 2

コールは PSTN になります。ゲートウェイで、コールは学習された IME ルートに置かれ、IME トランクに拡張されます。コールは IME トランク経由でルーティングされます。後から QoS の低下が見つかり、PSTN へのフォールバックが開始されます。IME コールへのリンクは見つかりません。コールは、コールをクリアする FallBack Manager によって代行受信されます。IME コールはそのまま放置されます。

この場合は、IME コールで 1 つ、PSTN コールへのフォールバックで 1 つの合計 2 つの CDR が生成されます。

表 7: *IME* コールの *CDR*

フィールド名	<b>CDR</b>
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	30
lastRedirectRedirectReason	0
duration	5

表 8: *PSTN* コールへのフォールバック

フィールド名	<b>CDR</b>
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
OrigTerminationOnBehalfOf	31
origCause_value	133 または 134 または既存の原因コード
duration	0

## 即時転送（ボイスメッセージングシステム宛て）

即時転送（IDivert）は、次の3つのコール状態で起動します。

- IDivert 機能は、着信コールの呼び出し中に起動できます。呼び出しに対する CDR は、コール転送の場合とよく似ていますが、[origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドと [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドは即時転送を示す 14 になります。
- IDivert 機能は、コールの接続中または保留中に起動できます。これらのシナリオでは、2 つの CDR が生成されます。これらの CDR の [globalCallID\_CallId] フィールドは同じになります。最初の CDR は元の接続に適用され、2 番目の CDR はボイスメッセージングシステムにリダイレクトされたコールに適用されます。最初のコールでは、[origTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destTerminationOnBehalfOf] フィールドに即時転送を示す 14 が設定されます。
- ボイスメッセージングシステムにリダイレクトされたコールでは、[origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドと [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドに即時転送を示す 14 が設定されます。

### IDivert の CDR の例

- 1 呼び出し中の IDivert : 40003 が 40001 にコールし、40001 の呼び出し中に 40001 が [IDivert] ボタンを押します。コールはボイスメッセージングシステム 40000 に転送されます。



(注) コールが呼び出し状態で IDivert によってコールがリダイレクトされた場合、生成される CDR は 1 つだけです。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	37
origLegCallIdentifier	16777327
destLegCallIdentifier	16777329
callingPartyNumber	40003
origCalledPartyNumber	40001
finalCalledPartyNumber	40000
lastRedirectDn	40001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origCalledPartyRedirectReason	50
lastRedirectRedirectReason	50
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	18

フィールド名	元のコールの CDR
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	18
joinOnBehalfOf	18

- 2 接続中の IDivert : 40003 が 40001 にコールし、40001 がそのコールに応答します。40001 は、発信側をボイスメッセージングシステムに転送することに決め、[IDivert] ソフトキーを押します。40003 はボイスメッセージングシステム 40000 に転送されます。

コールはリダイレクトの前に接続しているため、最初に接続したコールと、ボイスメッセージングシステムに転送されたコールに 1 つずつ、計 2 つの CDR が生成されます。

フィールド名	最初に接続したコールの CDR	転送されたコールの CDR
globalCallID_callId	38	38
origLegCallIdentifier	16777330	16777330
destLegCallIdentifier	16777331	16777332
callingPartyNumber	40003	40003
origCalledPartyNumber	40001	40001
finalCalledPartyNumber	40001	40000
lastRedirectDn	40001	40001
origCause_Value	0	16
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	50
lastRedirectRedirectReason	0	50
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		18
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		18
origTerminationOnBehalfOf	18	18
destTerminationOnBehalfOf	18	12
joinOnBehalfOf		18

## 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## ISE アプリケーション サーバ

- IMS A が Cisco Unified Communications Manager 経由で IMS B にコールします。Cisco Unified Communications Manager への着信 INVITE には以下が含まれます。  
Icid: 5802170000010000000000A85552590A (PCV1 など) および orig\_ioi: rcdn-85.swyan.open-ims.test (IOI\_1 など)。  
  
Cisco Unified Communications Manager から IMS B への INVITE は、5802170000010000000000A85552590A (PCV1) と同じ icid、rcdn-85.swyan.open-ims.test (IOI\_1) と同じ orig\_ioi を持ちます。
- B が応答すると、Cisco Unified Communications Manager への 200 OK で icid が 5802170000010000000000A85552590A (PCV1)、orig\_ioi が rcdn-85.swyan.open-ims.test (IOI\_1)、term\_ioi が rcdn-86.swyan.open-ims.test (IOI\_2) になります。この 200 OK には追加フィールドがあります。
- Cisco Unified Communications Manager から IMS A への 200 OK の icid は 5802170000010000000000A85552590A (PCV1)、orig\_ioi は rcdn-85.swyan.open-ims.test (IOI\_1)、term\_ioi は rcdn-86.swyan.open-ims.test (IOI\_2) になります。200 OK の追加フィールドが IMS A に渡されます。

CDR	サイド A			サイド B			
	側	icid	orig_ioi	term_ioi	icid	orig_ioi	term_ioi
A から B		PCV1	IOI_1	IOI_2	PCV1	IOI_1	IOI_2

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
origDeviceName	CUCM_ISC_TRUNK1
destDeviceName	CUCM_ISC_TRUNK2
IncomingICID	5802170000010000000000A85552590A

フィールド名	CDR
IncomingOrigIOI	rcdn-85.swyan.open-ims.test
IncomingTermIOI	rcdn-86.swyan.open-ims.test
OutgoingICID	5802170000010000000000A85552590A
OutgoingOrigIOI	rcdn-85.swyan.open-ims.test
OutgoingTermIOI	rcdn-86.swyan.open-ims.test

## インターコム コール

インターコム機能は、一方向オーディオを提供します。したがって、CDRには一方向オーディオが反映されます。応答インターコムでは、双方向オーディオが存在し、CDRは双方向オーディオを反映します。

インターコム機能にはパーティション（インターコムパーティション）が必要であり、インターコム コールを識別するために既存の CDR のパーティションフィールドが使用されます。

次の2つの例は、インターコムの CDR を示しています。

### インターコムの CDR の例

- 1 ウィスパークインターコム：電話機 20000 がインターコムを起動します。設定されたインターコムパーティション名は、「Intercom」です。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	1111000
origLegCallIdentifier	21822467
destLegCallIdentifier	21822468
callingPartyNumber	20000
originalCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origMediaTransportAddress_IP	0

フィールド名	元のコールの CDR
origMediaTransportAddress_Port	0
destMediaTransportAddress_IP	-47446006
destMediaTransportAddress_Port	28480
origCalledPartyNumberPartition	インターコム
callingPartyNumberPartition	インターコム
finalCalledPartyNumberPartition	インターコム
duration	5

- 2 応答インターコム：電話機 20000 がインターコム ボタンを押します。20001 が応答を開始し、20000 と通話します。設定されたインターコム パーティション名は、「Intercom」です。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	1111000
origLegCallIdentifier	21822469
destLegCallIdentifier	21822470
callingPartyNumber	20000
originalCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origMediaTransportAddress_IP	-131332086
origMediaTransportAddress_Port	29458
destMediaTransportAddress_IP	-47446006
destMediaTransportAddress_Port	29164
origCalledPartyNumberPartition	インターコム
callingPartyNumberPartition	インターコム



フィールド名	元のコールの CDR
finalCalledPartyNumberPartition	インターコム
duration	5

### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## IPv6 コール

Cisco Unified Communications Managerはこのリリースで IPv6 をサポートします。この機能に対する CDR には、次に示す 2 つの新しいフィールドがあります。

- [origIpv4v6Addr] : このフィールドは、コールシグナリングを開始するデバイスの IP アドレスを識別します。コールに使用される IP アドレスタイプによって、フィールドは IPv4 形式と IPv6 形式のいずれかになります。
- [destIpv4v6Addr] : このフィールドは、コールシグナリングを終了するデバイスの IP アドレスを識別します。コールに使用される IP アドレスタイプによって、フィールドは IPv4 形式と IPv6 形式のいずれかになります。

次の CDR の例は、IPv6 形式で成功したコールと失敗したコールを示しています。

### 成功したコール

- 1 A と B が通話し、A が電話を切ります。A が v4\_only として設定され、B も v4\_only として設定されています。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] と [destIpv4v6Addr] にそれぞれ v4 アドレス形式のデータが入力されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309

フィールド名	値
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	352737802
destIpAddr	1878566390
origIpv4v6Addr	10.90.6.21
destIpv4v6Addr	10.90.7.144
duration	60

- 2 A と B が通話し、A が電話を切ります。A が v6\_only として設定され、B も v6\_only として設定されています。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] と [anddestIpv4v6Addr] にそれぞれ v6 アドレス形式のデータが入力されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	0
destIpAddr	0
origIpv4v6Addr	2001::fecd:ba23:cd1f:dcb1:1010:9234:40881
destIpv4v6Addr	2001:420:1e00:e5:217:8ff:fe5c:2fa9
duration	60

- 3 A と B が通話し、A が電話を切ります。A が v4\_only として設定され、B も v6\_only として設定されています。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] と [destIpv4v6Addr] にそれぞれ v4 アドレス形式のデータが入力されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	352737802
destIpAddr	-1878566390
origIpv4v6Addr	10.90.6.21
destIpv4v6Addr	10.90.7.144
duration	60

- 4 A と B が通話し、A が電話を切ります。A が v4\_v6 として設定され、B も v4\_only として設定されています。この場合、メディアは v4 をネゴシエートします。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] と [destIpv4v6Addr] にそれぞれ v4 アドレス形式のデータが入力されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	352737802
destIpAddr	-1878566390

フィールド名	値
origIpv4v6Addr	10.90.6.21
destIpv4v6Addr	10.90.7.144
duration	60

- 5 A と B が通話し、A が電話を切ります。A が v4\_v6 として設定され、B も v6\_only として設定されています。この場合、メディアは v6 をネゴシエートします。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] と [destIpv4v6Addr] にそれぞれ v6 アドレス形式のデータが入力されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	352737802
destIpAddr	0
origIpv4v6Addr	2001:fece:ba23:cd1f:dcbl:1010:9234:4088
destIpv4v6Addr	2001:420:1e00:e5:217:8ff:fe5c:2fa9
duration	60

#### 失敗したコール

- 1 A が B をコールし、A がコールを放棄します。A が v4\_only として設定され、B も v6\_only として設定されています。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] に、v4 アドレス形式のデータが入力されます。新しいフィールド [destIpv4v6Addr] にはデータは入力されません。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1

フィールド名	値
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	352737802
destIpAddr	-569419254
origIpv4v6Addr	10.90.15.222
destIpv4v6Addr	
duration	0

- 2 AがBにコールを発信し、そのコールが失敗します。Aがv6\_onlyとして設定され、Bもv4\_v6として設定されています。新しいフィールド[origIpv4v6Addr]に、v6アドレス形式のデータが入力されます。この場合、新しいフィールド[destIpv4v6Addr]にはデータは入力されません。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	0
destIpAddr	0
origIpv4v6Addr	2001:fecd:ba23:cd1f:dcbl:1010:9234:4088

フィールド名	値
destIpv4v6Addr	
duration	0

### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明](#), (159 ページ)

[シスコのコール詳細レコードのコード](#), (201 ページ)

[シスコのコール管理レコードの例](#), (241 ページ)

## レガシーコールピックアップ

レガシーコールピックアップコールは、転送されたコールに似た動作をします。レガシーコールピックアップでは、コール転送と同様にリダイレクトコール制御プリミティブが使用されます。次のリストは、レガシーコールピックアップの重要な CDR フィールドの一部を示しています。

- [originalCallPartyNumber] フィールドには、元の着信側番号が格納されます。
- [finalCalledPartyNumber] フィールドには、コールをピックアップした通話者の番号が指定されます。
- [lastRedirectDn] フィールドには、コールがピックアップされたときに呼び出していた番号が指定されます。
- [origCalledPartyRedirectReason] フィールドには、コールが最初にリダイレクトされた理由が指定されます。コールピックアップコールの場合、このフィールドに**コールピックアップの値 5**が格納されます。
- [lastRedirectRedirectReason] フィールドには、コールが最後にリダイレクトされた理由が指定されます。コールピックアップの場合、このフィールドに**コールピックアップの値 5**が格納されます。
- [origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドは、最初のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を識別します。コールピックアップの場合、このフィールドに**ピックアップの値 16**が指定されます。
- [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドは、最後のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を識別します。コールピックアップの場合、このフィールドに**ピックアップの値 16**が指定されます。

## レガシー コール ピックアップの CDR の例

PSTN から内線 2001 にコールします。2001 と 2002 は同じピックアップグループに属しています。2002 が、2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。2002 がコールに応答し、コールは PSTN の発信側と内線 2002 の間で接続されます。通話時間は 2 分です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	22
origLegCallIdentifier	1
destLegCallIdentifier	2
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	2001
finalCalledPartyNumber	2002
lastRedirectDn	2001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	0
lastRedirectRedirectReason	5
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	16
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	16
duration	120

## 関連トピック

[シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## ローカル ルート グループおよび着信側変換

このリリースの Cisco Unified Communications Manager では、新規機能のローカル ルート グループと着信側変換をサポートしています。デバイスは、着信側変換が行われた場合のみ、着信側番号

がコール制御にアウトパルスされたことを報告します。この動作は、CDR の新しいフィールド [outpulsedCalledPartyNumber] に記録されます。

#### ローカルルートグループと着信側の正規化の CDR の例

Dallasにある会社の電話機からコールが発信されます。着信番号には9.5551212が指定されます。変換により、着信側番号では、発信側がダイヤルした番号が受信され、ドットの前が廃棄されて、プレフィックス +1 214 が追加されます。

CDR の [finalCalledPartyNumber] は、グローバルに一意の E.164 文字列 +12145551212 で構成されます。

San Jose のゲートウェイが選択された場合、グローバル文字列 +1 214 555 1212 は 12145551212 に変換され、Dallas のゲートウェイが選択された場合は、2145551212 に変換されます。

デバイスは、このグローバル文字列を [outpulsedCalledPartyNumber] としてコール制御に戻し、その値が CDR に記録されます。

San Jose のゲートウェイが選択された場合、次の CDR が作成されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	+12145551212
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	60
outpulsedCalledPartyNumber	12145551212

Dallas のゲートウェイが選択された場合、次の CDR が作成されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100



フィールド名	値
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	+12145551212
finalCalledPartyNumber	+12145551212
lastRedirectDn	+12145551212
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	60
outpulsedCalledPartyNumber	2145551212

#### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 論理パーティショニング コール

Telecom Regulatory Authority of India (TRAI) では、企業データ ネットワークおよび PSTN ネットワーク経由の音声トラフィックを区別することを義務付けています。PSTN ゲートウェイを通過するコールが地理的に別の場所（地理位置情報）にある VoIP 電話または VoIP PSTN ゲートウェイに直接接続する可能性がない限り、論理パーティショニング機能を使用することで、1つのシステムで両タイプのコールを確実にサポートできます。

#### コール終了原因コード **CCM\_SIP\_424\_BAD\_LOCATION\_INFO** の CDR の例

クラスタ 1 からクラスタ 2 に SIP トランク コールが発信されます。このコールには地理位置情報ヘッダーが含まれますが、XML の場所は含まれていません。クラスタ 2 が SIP ステータスコード 424（不正な位置情報（10 進数 = 419430421））のコールを解放します。

Cisco Unified Communications Manager 上の SIP トランクによる位置情報に誤りがあったためにクリアされたコールに対して、原因コード **CCM\_SIP\_424\_BAD\_LOCATION\_INFO** が記録されます。次の理由から地理位置情報に誤りがあった場合、SIP トランクのリモートエンドポイントから SIP ステータスコード 424 が送信される可能性があります。

- 地理位置情報ヘッダーに PIDF-LO が含まれているが、メッセージ本文はこの情報を伝達していない。

- 地理位置情報ヘッダーに、URL を参照する CID ヘッダーが含まれているが、同じ URL を持つ、対応するコンテンツ IP ヘッダーが存在しない。
- 地理位置情報ヘッダーに、CID ヘッダー以外の URL（つまり、SIP または SIPS URL）がある。

その他のコール終了原因コードの詳細については、他の CDR の例を参照してください。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9900
finalCalledPartyNumber	9900
lastRedirectDn	9900
origCause_Value	0
dest_CauseValue	419430421
duration	0

#### コール終了原因コード 503 の CDR の例

クラスタ 1 からのコール 82291002 が PSTN 41549901 に転送されます。クラスタ 2 の DN 89224001 からクラスタ 1 の DN 82291002 へのコールが発生します。論理パーティショニングで `dest_CauseValue` がコール終了原因コード

`CCM_SIP_503_SERVICE_UNAVAIL_SER_OPTION_NOAVAIL` (10 進数値 -1493172161) を示したため、コールが拒否されます。

原因コード `CCM_SIP_503_SERVICE_UNAVAIL_SER_OPTION_NOAVAIL` は、コールの確立フェーズ（基本コール、コール転送、コールピックアップ、ミーティング会議など）での制限付き論理パーティショニングポリシーチェックによってクリアされたコールに対して記録されます。その他のコール終了原因コードの詳細については、他の CDR の例を参照してください。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100

フィールド名	値
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	89224001
originalCalledPartyNumber	82291002
finalCalledPartyNumber	41549901
lastRedirectDn	82291002
origCause_Value	0
dest_CauseValue	-1493172161
duration	0

#### 関連トピック

[CDR の例, \(21 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 迷惑コール

コールが迷惑コールとして識別された場合（ボタン押下）、ローカル Cisco Unified Communications Manager ネットワークによってコールにフラグが設定されます。迷惑コールのフラグの設定には、[コメント (Comment) ] フィールドが使用されます。

#### 迷惑コールの CDR の例

次の表に、迷惑コールのマークが付けられたカスタマー コールの CDR の例を示します。

発信者	発信側 パーティ ション	元の着信 側	元の着信 側パー ティショ ン	元の原因	着信側の 原因	コメント
9728552001	CUST	5555	ACNTS	0	16	“callFlag=MALICIOUS”

#### 関連トピック

[シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

シスコのコール詳細レコードのコード, (201 ページ)

シスコのコール管理レコードの例, (241 ページ)

## ミーティング

ミーティングは、あらかじめ決められた時間に複数の通話者が、個別に会議ブリッジにダイヤルすることで行われます。

シスコのセキュア会議機能では、既存の [callSecuredStatus] フィールドを使用して、コールが到達した最大のセキュリティステータスを表示します。ミーティングの場合、会議への参加を試みたものの、ミーティングのセキュリティレベルに達していないコールは、終了原因 = 58 (ベアラ機能は現在使用不可) でクリアされます。

### ミーティングの CDR の例

次の表に、以下のシナリオの CDR の例を示します。5001 がダイヤルイン番号を指定します。会議ブリッジデバイスは Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味があり、会議ブリッジへのコールは転送コールとして表示されます。つまり、ユーザ A があらかじめ決められた番号 (5001) をダイヤルし、コールは会議ブリッジポートに転送されます。会議ブリッジポートは、「b0019901001」という形式の特殊な番号で表示されます。

- ユーザ A (2001) が電話番号 5001 を使用してミーティングブリッジにコールします。
- ユーザ B (2002) が電話番号 5001 を使用してミーティングブリッジにコールします。
- ユーザ C (2003) が電話番号 5001 を使用してミーティングブリッジにコールします。

	発信者	発信側パーティション	元の着信側	元の着信側パーティション	最終着信側	最終着信側パーティション	最終リダイレクター	最終リダイレクトパーティション	時間 (Duration)
A	2001	アカウント (Account)	5001		b0019901001		b0019901001		70
B	2002	アカウント (Account)	5001		b0019901001		b0019901001		65
C	2003	アカウント (Account)	5001		b0019901001		b0019901001		80

## 関連トピック

- [シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

# モビリティ

次のコール詳細レコード (CDR) フィールドは、特にモビリティ コールに適用されます。コールがモビリティ機能を起動しない場合、これらのフィールドは空になります。

- mobileCallingPartyNumber
- finalMobileCalledPartyNumber
- origMobileDeviceName
- destMobileDeviceName
- origMobileCallDuration
- destMobileCallDuration
- mobileCallType

システムは、モビリティ機能を使用するすべてのコールに対して、標準の CDR を生成します。モビリティ機能によってコールが分割、リダイレクト、または結合されると、対応する **OnBehalfOf** コードには、モビリティ機能を指定する新しい値が示されます。上記のいずれかの [OnBehalfOf] コードにモビリティコード 24 が含まれている場合、CDR には、CAR Loader が決定したモビリティ コールタイプが記録されます。

- origCallTerminationOnBehalfOf
- destCallTerminationOnBehalfOf
- origCalledPartyRedirectOnBehalfOf
- lastRedirectRedirectOnBehalfOf
- joinOnBehalfOf

## MobileCallType の値

次の表に、CDR フィールドの [mobileCallType] の値を示します。Cisco Analysis and Reporting (CAR) は、[mobileCallType] フィールドを使用して、CAR コールタイプを決定します。1つのコールが複数のモビリティ機能を起動する場合、[mobileCallType] フィールドは合計された整数値を示します。たとえば、コールがモバイルコネクタ機能を使用した後、ハンドアウトを起動すると、モバイルコールタイプは 136 (8 + 128) になります。

モビリティ機能	mobileCallType の値
非モビリティ コール	0

モビリティ機能	mobileCallType の値
Dial via Office リバース コールバック	1
Dial via Office 転送	2
企業ネットワークへのリモート接続先コールの再ルーティング	4
モバイル コネクト	8
音声自動応答装置	10
エンタープライズ機能アクセス	20
ハンドイン	40
ハンドアウト	80
リダイヤル	100
Dial-via-office リバース コールバックの最低コストルーティング	200
Dial-via-office 転送との最低コスト ルーティング	82
携帯電話へのコール転送	800
セッション ハンドオフ	1000

### 直近のリダイレクト理由

10.0 以前の従来型の導入では、CAR は [lastRedirectReason] フィールドを使用してモビリティ コールのタイプを識別します。次の表に、lastRedirectReason のモビリティの値を示します。

モビリティ機能	lastRedirectReason の値
ハンドイン	303
ハンドアウト	319
モバイル コネクト	335
リダイヤル	351
音声自動応答装置	399

モビリティ機能	lastRedirectReason の値
Dial via Office リバース コールバック	401
エンタープライズ機能アクセス	402
セッション ハンドオフ	403
携帯電話へのコール転送	415
企業ネットワークへのリモート接続先コールの再ルーティング	783

### モビリティの CDR の例

次の例に、CDR レコードでのモビリティ機能の表示を示します。

- 1 携帯電話が **Dial via Office** リバース コールバックを開始する：デバイス名「BOTS AU」、電話番号 2145551234 の携帯電話で、会社の番号 1000 が Dial via Office のリバース コールバック機能を起動し、内線 2000 にコールをかけます。着信側デバイスの MAC アドレスは SEP001FCAE90004 です。SIP ゲートウェイの IP アドレスは、10.194.108.70 です。コールの合計接続時間は 55 秒です。

フィールド	Dial via Office リバース コールバックの CDR
origCallTerminationOnBehalfOf	0
destCallTerminationOnBehalfOf	12
origCalledRedirectOnBehalfOf	24
lastRedirectOnBehalfOf	24
joinOnBehalfOf	24
origCalledPartyRedirectReason	401
lastRedirectReason	401
origDeviceName	10.194.108.70
destDeviceName	SEP001FCAE90004
finalCalledPartyNumber	2000
huntPilotDN	
mobileCallingPartyNumber	2145551234

フィールド	Dial via Office リバース コールバックの CDR
finalMobileCalledPartyNumber	
origMobileDeviceName	BOTSAU
destMobileDeviceName	
origMobileCallDuration	55
destMobileCallDuration	
mobileCallType	1

- 2 携帯電話が Dial via Office 転送を開始する：携帯電話 2145551234 が、Dial via Office 転送機能を開始してコールをかけます。携帯電話のデバイス名は BOTSAU で、会社の番号 1000 にマッピングされています。着信側の番号は内線 823006、デバイスの MAC アドレスは SEP001FCAE90004 です。コールは 10.194.108.70 で SIP ゲートウェイを通過し、合計 120 秒間保持されます。

フィールド	Dial via Office 転送の CDR
origCallTerminationOnBehalfOf	0
destCallTerminationOnBehalfOf	12
origCalledRedirectOnBehalfOf	0
lastRedirectOnBehalfOf	0
joinOnBehalfOf	0
origCalledPartyRedirectReason	0
lastRedirectReason	0
origDeviceName	10.194.108.70
destDeviceName	SEP001FCAE90004
finalCalledPartyNumber	823006
huntPilotDN	
mobileCallingPartyNumber	2145551234
finalMobileCalledPartyNumber	
origMobileDeviceName	BOTSAU



フィールド	Dial via Office 転送の CDR
destMobileDeviceName	
origMobileCallDuration	120
destMobileCallDuration	0
mobileCallType	2

- 3 リモート接続先へのコールが会社の番号に再ルーティングされる：Cisco Unified IP Phone SEP001FCAE90004、内線 2000 が携帯電話番号 2145551234 をダイヤルします。接続先の携帯電話が会社の番号 1000 にマッピングされ、Cisco Unified Communications Manager でサービスパラメータの[会社の番号へのリモート接続先コールの再ルーティング（Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number）]が有効になります。Cisco Unified Communications Manager は、モバイルコールを会社の番号 1000 に再ルーティングします。コールは SIP ゲートウェイ GW\_SIP を通過し、合計 60 秒間保持されます。

フィールド	リモート接続先の再ルーティングの CDR
origCallTerminationOnBehalfOf	0
destCallTerminationOnBehalfOf	12
origCalledRedirectOnBehalfOf	24
lastRedirectOnBehalfOf	24
joinOnBehalfOf	0
origCalledPartyRedirectReason	783
lastRedirectReason	783
origDeviceName	SEP001FCAE90004
destDeviceName	GW_SIP
finalCalledPartyNumber	1000
huntPilotDN	
mobileCallingPartyNumber	
finalMobileCalledPartyNumber	2145551234
origMobileDeviceName	

フィールド	リモート接続先の再ルーティングの CDR
destMobileDeviceName	2145551234:rdp
origMobileCallDuration	0
destMobileCallDuration	60
mobileCallType	4

#### 4 携帯電話がデスクの電話のコール ピックアップを起動する : Cisco Unified IP Phone

SEP001FCAE90004 が内線 1000 にコールし、内線がデスクの電話とモバイルデバイスで共有されます。携帯電話がコールに応答し、後に電話を切ることで、デスクトップピックアップ機能がトリガーされます。デスクトップのコールピックアップタイマーは、10 秒で期限切れになります。タイマーの期限が切れると、コールはさらに 10 秒間、Wi-Fi デバイスで再開されます。

フィールド	デスクトップコールピックアップの CDR
origCallTerminationOnBehalfOf	0
destCallTerminationOnBehalfOf	12
origCalledRedirectOnBehalfOf	0
lastRedirectOnBehalfOf	0
joinOnBehalfOf	0
origCalledPartyRedirectReason	0
lastRedirectReason	0
origDeviceName	SEP001FCAE90004
destDeviceName	GW_SIP
finalCalledPartyNumber	1000
huntPilotDN	
mobileCallingPartyNumber	
finalMobileCalledPartyNumber	
origMobileDeviceName	
destMobileDeviceName	

フィールド	デスクトップコールピックアップの CDR
origMobileCallDuration	0
destMobileCallDuration	10
mobileCallType	8

- 5 モバイルコネクトコール：シングルナンバーリーチボイスメールポリシーがタイマーコントロールに設定される：内線 2000 の Cisco Unified IP Phone SEP001FCAE90004 が、会社の番号 1000 にコールします。モバイルコネクトが起動し、デスクの電話と携帯電話の両方で呼出音が鳴ります。携帯電話は、デバイス名 BOTSARAH で携帯 ID を使用します。シングルナンバーリーチボイスメールポリシーがタイマーコントロールに設定されます。コールが SIP ゲートウェイを経由し、10 分間続きます。

フィールド	CDR
origCallTerminationOnBehalfOf	0
destCallTerminationOnBehalfOf	12
origCalledRedirectOnBehalfOf	0
lastRedirectOnBehalfOf	0
joinOnBehalfOf	0
origCalledPartyRedirectReason	0
lastRedirectReason	0
origDeviceName	SEP001FCAE90004
destDeviceName	GW_SIP
finalCalledPartyNumber	1000
huntPilotDN	
mobileCallingPartyNumber	
finalMobileCalledPartyNumber	2145551234
origMobileDeviceName	
destMobileDeviceName	BOTSARAH
origMobileCallDuration	0

フィールド	CDR
destMobileCallDuration	10
mobileCallType	8

- 6 モバイル コネクト コール：シングルナンバー リーチ ボイスメール ポリシーがユーザー コントロール モードに設定される：会社の番号 238011 の Cisco Unified IP Phone SEP001FCAE91231 が、SIP ゲートウェイ GW\_SIP 経由でコールします。着信側側は、会社の番号 238006 および 携帯番号 14089022179 の SEP001FCEA91289 です。3 つの CDR が生成されます。

フィールド	ユーザへの通知	接続時間 0 のコール	携帯電話から IP Phone
origCallTerminationOnBehalfOf	24	24	12
destCallTerminationOnBehalfOf	24	24	24
origCalledRedirectOnBehalfOf	24	24	24
lastRedirectOnBehalfOf	24	24	24
joinOnBehalfOf	0	0	24
origCalledPartyRedirectReason	335	335	335
lastRedirectReason	335	335	335
origDeviceName	SEP001FCAE91231	ParkingLotDevice	SEP001FCAE91231
destDeviceName	GW_SIP	GW_SIP	GW_SIP
finalCalledPartyNumber	238006	238006	238006
huntPilotDN			
mobileCallingPartyNumber			
finalMobileCalledPartyNumber	14089022179	14089022179	14089022179
origMobileDeviceName			
destMobileDeviceName	14089022179:rdp	14089022179:rdp	14089022179:rdp
origMobileCallDuration	0	0	
destMobileCallDuration	3		6
mobileCallType	8	8	8

- 7 携帯電話が、2段階ダイヤリングでエンタープライズ機能アクセス（EFA）のコールを発信する：デスクのシェアドライン電話デスクの電話 SEP001EBE90DE95 と会社の番号 238006 を持つ 4089022179 のリモート接続先 deepak-RDP が、2段階ダイヤリングのエンタープライズ機能アクセスを使用し、会社の番号 238011 で社内のデスクの電話 SEP001FCAE91231 にコールを発信します。コールの合計接続時間は 30 秒です。2つの CDR が生成されます（1つは EFA アクセスコードを Cisco Unified Communications Manager にダイヤルする携帯電話、もう1つは携帯電話とデスクの電話の会話）。

フィールド	携帯電話から Unified Communications Manager	携帯電話からデスクの電話
origCallTerminationOnBehalfOf	24	12
destCallTerminationOnBehalfOf	24	24
origCalledRedirectOnBehalfOf	24	24
lastRedirectOnBehalfOf	24	24
joinOnBehalfOf	24	24
origCalledPartyRedirectReason	402	402
lastRedirectReason	402	402
origDeviceName	GW_SIP	GW_SIP
destDeviceName	ParkingLotDevice	SEP001FCAE91231
finalCalledPartyNumber	00111101001	238011
huntPilotDN		
mobileCallingPartyNumber	14089022179	14089022179
finalMobileCalledPartyNumber		
origMobileDeviceName	14089022179:rdp	14089022179:rdp
destMobileDeviceName		
origMobileCallDuration	5	25
destMobileCallDuration	0	
mobileCallType	32	32

- 8 携帯電話がモバイルボイスアクセスコールを発信する - 会社の番号 238006 でデスクのシェアドライン電話デスクの電話 SEP001EBE90DE95 を持つリモート接続先 4089022179 が、モバイルボイスアクセスを使用し、会社の番号 238011 で社内のデスクの電話 SEP00000000000002 にコールを発信します。リモート接続先は、deepak rdp のリモート接続先プロファイルを持ちます。コールは、SIP ゲートウェイ GW\_SIP を通過し、60 秒間継続します。

フィールド	携帯電話からデスクの電話
origCallTerminationOnBehalfOf	12
destCallTerminationOnBehalfOf	0
origCalledRedirectOnBehalfOf	24
lastRedirectOnBehalfOf	24
joinOnBehalfOf	24
origCalledPartyRedirectReason	399
lastRedirectReason	399
origDeviceName	GW_SIP
destDeviceName	SEP00000000000002
finalCalledPartyNumber	238011
huntPilotDN	
mobileCallingPartyNumber	14089022179
finalMobileCalledPartyNumber	
origMobileDeviceName	14089022179:rdp
destMobileDeviceName	
origMobileCallDuration	60
destMobileCallDuration	
mobileCallType	16

- 9 モビリティハンドイン：VoIP 側には登録されていないものの、スマートフォン TCTSAU に登録されている会社の番号 238011 の Cisco Unified IP Phone SEP001FCAE91231 が、会社の番号 238006 にコールを発信します。スマートフォンのモバイル ID は 14089022179 です。コールの開始時、TCTSAU はセルラーネットワークにありますが、デバイスは Wi-Fi の範囲に移動し、

ハンドイン機能が起動してコールが会社へ移動します。コールの合計接続時間は85秒です（最後の30秒はWi-Fiの範囲内の着信側）。

フィールド	IP Phone から携帯電話	IP Phone から IP Phone
origCallTerminationOnBehalfOf	24	12
destCallTerminationOnBehalfOf	24	24
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0
lastRedirectOnBehalfOf	0	24
joinOnBehalfOf	0	24
origCalledPartyRedirectReason	0	303
lastRedirectReason	0	303
origDeviceName	SEP001FCAE91231	SEP001FCAE91231
destDeviceName	GW_SIP	TCTSAU
finalCalledPartyNumber	238006	238006
huntPilotDN		
mobileCallingPartyNumber		
finalMobileCalledPartyNumber	14089022179	
origMobileDeviceName		
destMobileDeviceName	TCTSAU	
origMobileCallDuration	0	0
destMobileCallDuration	55	
mobileCallType	8	72

- 10 モビリティ ハンドアウト**：会社の番号 238011 の Cisco Unified IP Phone SEP001FCAE94005 が、モバイル ID 14089022179、会社の番号 238006 のデュアルモードスマートフォンにコールを発信します。スマートフォンがローカルの Wi-Fi 範囲内にある状態で、コールが応答され、2 者が 27 秒間会話します。スマートフォンは会社の範囲外に移動し、コールが携帯ネットワークに切り替えられます。その後、2 者はさらに 25 秒間会話します。

フィールド	IP Phone から IP Phone	IP Phone から携帯電話ネットワーク
origCallTerminationOnBehalfOf	24	0
destCallTerminationOnBehalfOf	24	12
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0
lastRedirectOnBehalfOf	0	24
joinOnBehalfOf	0	24
origCalledPartyRedirectReason	0	0
lastRedirectReason	0	319
origDeviceName	SEP001FCAE94005	SEP001FCAE94005
destDeviceName	TCTSAU	GW_SIP
finalCalledPartyNumber	238006	238006
huntPilotDN		
mobileCallingPartyNumber		
finalMobileCalledPartyNumber		14089022179
origMobileDeviceName		
destMobileDeviceName		TCTSAU
origMobileCallDuration	0	0
destMobileCallDuration	0	23
mobileCallType	0	128

- 11 携帯電話が **Dial via Office** リバース コールバックを使用して最低コストルーティング ハンドアウトを起動する：携帯 ID 14089022179 のデュアルモードの電話 BOTS AU が、会社の WiFi ネットワーク内にあり、会社の番号 238006 に登録されています。電話が最低コストルーティングを使用して **Dial via Office** リバース コールバック (DVOR) を起動し、会社の番号 238011 にコールを発信します。2 者が 25 秒間会話しますが、携帯電話が Wi-Fi の範囲外に移動し、携帯ネットワークへのハンドアウト機能がトリガーされます。携帯ネットワークで、2 者がさらに 35 秒間会話します。



フィールド	DVOR コールバック	IP Phone から IP Phone	携帯電話から IP Phone
origCallTerminationOnBehalfOf	24	24	0
destCallTerminationOnBehalfOf	24	24	12
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0	0
lastRedirectOnBehalfOf	0	0	24
joinOnBehalfOf	0	0	24
origCalledPartyRedirectReason	0	0	0
lastRedirectReason	0	0	319
origDeviceName	ParkingLotDevice	BOTSAU	GW_SIP
destDeviceName	GW_SIP	SEP001FCAE91231	SEP001FCAE91231
finalCalledPartyNumber	238006	238011	238011
huntPilotDN			
mobileCallingPartyNumber			14089022179
finalMobileCalledPartyNumber	14089022179		
origMobileDeviceName			BOTSAU
destMobileDeviceName	BOTSAU		
origMobileCallDuration	0	0	35
destMobileCallDuration	0	0	
mobileCallType	0	0	512

- 12 携帯電話が Dial via Office 転送を使用して最低コストルーティングハンドアウトを起動する：モバイル番号 14089022179 のデュアルモードの電話 BOTSAU が会社の番号 238006 にマッピングされ、会社の Wi-Fi 範囲内にあります。電話が最低コストルーティングで Dial via Office 転送を起動し、Cisco Unified IP Phone SEP001FCAE91006 に登録された会社の番号 238011 にコールを配置します。2 者が 30 秒間会話した後、携帯電話が Wi-Fi の範囲外に移動し、コールが携帯ネットワークにハンドアウトされます。その後、コールがさらに 25 秒間継続されます。

フィールド	IP Phone から IP Phone	携帯電話から IP Phone
origCallTerminationOnBehalfOf	24	12
destCallTerminationOnBehalfOf	24	0
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0
lastRedirectOnBehalfOf	0	24
joinOnBehalfOf	0	24
origCalledPartyRedirectReason	0	0
lastRedirectReason	0	319
origDeviceName	BOTSAU	GW_SIP
destDeviceName	SEP001FCAE91006	SEP001FCAE91006
finalCalledPartyNumber	238011	238011
huntPilotDN		
mobileCallingPartyNumber		14089022179
finalMobileCalledPartyNumber		
origMobileDeviceName		BOTSAU
destMobileDeviceName		
origMobileCallDuration	0	0
destMobileCallDuration	0	25
mobileCallType	0	130

- 13 携帯電話へのコールの送信：238011 の Cisco Unified IP Phone SEP001FCAE90001 が、会社の電話番号 238006 にコールを発信します。着信側が、Cisco Unified IP Phone SEP001FCAE90022 でコールに応答します。45 秒間の会話の後、着信側が [モビリティ (Mobility) ] ソフトキーを押し、12145551234 の携帯電話である BOTSAU にコールを送信します。携帯電話でさらに 35 秒間、コールが継続されます。コールの合計接続時間は 55 秒です。

フィールド	アナウンス	IP Phone から IP Phone	携帯電話から IP Phone
origCallTerminationOnBehalfOf	24	24	24

フィールド	アナウンス	IP Phone から IP Phone	携帯電話から IP Phone
destCallTerminationOnBehalfOf	24	24	12
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0	0
lastRedirectOnBehalfOf	0	0	24
joinOnBehalfOf	0	0	24
origCalledPartyRedirectReason	0	0	0
lastRedirectReason	0	0	415
origDeviceName	SEP001FCAE90001	SEP001FCAE90001	SEP001FCAE90001
destDeviceName	GW_SIP	SEP001FCAE90022	GW_SIP
finalCalledPartyNumber	238006	238006	238006
huntPilotDN			
mobileCallingPartyNumber			
finalMobileCalledPartyNumber	12145551234		12145551234
origMobileDeviceName			
destMobileDeviceName	BOTSAU		BOTSAU
origMobileCallDuration	0	0	0
destMobileCallDuration	0	0	35
mobileCallType	0	0	2048

- 14 セッションハンドオフ：内線 1000 の Cisco Unified IP Phone SEP001FCAE90001 が、内線 2500 にコールを発信します。デスクの電話と携帯電話の両方の呼出音が鳴ります。着信側が、携帯電話番号 2145551234 の携帯電話である BOTSAU で応答し、会話が開始されます。35 秒後、着信側がセッションハンドオフ機能をトリガーし、コールをデスクの電話に転送します。デスクの電話、SEP001FCAE90022 でコールがさらに 60 秒間継続されます。

フィールド	パーキング ロットからデスクの電話	携帯電話から IP Phone	IP Phone から IP Phone
origCallTerminationOnBehalfOf	24	24	24
destCallTerminationOnBehalfOf	24	24	12

フィールド	パーキングロットからデスクの電話	携帯電話から IP Phone	IP Phone から IP Phone
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0	0
lastRedirectOnBehalfOf	0	0	24
joinOnBehalfOf	0	0	24
origCalledPartyRedirectReason	0	0	0
lastRedirectReason	0	0	403
origDeviceName	SEP001FCAE90001	SEP001FCAE90001	SEP001FCAE90001
destDeviceName	SEP001FCAE90022	BOTSARAH	SEP001FCAE90022
finalCalledPartyNumber	2500	2500	2500
huntPilotDN			
mobileCallingPartyNumber			
finalMobileCalledPartyNumber		2145551234	
origMobileDeviceName			
destMobileDeviceName		BOTSARAH	
origMobileCallDuration	0	0	0
destMobileCallDuration	0	15	10
mobileCallType	0	0	5096

関連トピック

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## ネイティブコールキューイング

ネイティブコールキューイング機能は、ハントパイロット番号への着信コールを処理する拡張機能を提供します。Unified CM は、ユーザにネイティブにコールキューイングを提供するため、発信側は、ハントメンバーが応答できるようになるまで、キューに保持されます。キューに保持

された発信側には、最初のグリーティングアナウンスの後に、保留音が再生されます。発信側が一定時間キューに残る場合、コールが応答されるか最大待機タイマーの期限が切れるまで、所定の間隔でセカンダリ アナウンスが再生されます。

### ネイティブ コール キューイングの例

Cisco Unified Communications Manager クラスタには 4 つの IP Phone（DN 1000、1001、1002、および 1003）があります。

ハントパイロット（HP）2000 が、関連付けられたライン グループ DN 1000 とともに作成されます。そのため、このハントパイロット 2000 は 1 コールしか処理できません。ここでは、ハントパイロット 2000 の設定ページで [キューイング (Queuing)] “” 有効化フラグをオンにします。[最大コール待機タイマー (Max Call Waiting Timer)] “” を 30 秒に設定し、[コールをこの宛先にルーティング (Route the call to this destination)] “” で [DN 1003] を選択します。発信側が 30 秒間キューに保持された場合に DN 1003 にルーティングされることが理想的です。

- 1 DN 1001 が HP 2000 をコールし、DN 1000 がコールに応答します。
- 2 DN 1002 が HP 2000 にコールします。エージェントがビジー状態のため、コールはキューに入れます。
- 3 30 秒後、コールは DN 1003 にルーティングされます。
- 4 DN 1003 がコールに応答します。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	87029
origLegCallIdentifier	30117105
callingPartyNumber	1002
originalCalledPartyNumber	2000
wasCallQueued	1
totalWaitTimeInQueue	30

## 通常のコール（Cisco Unified IP Phone から Cisco Unified IP Phone へ）

通常のコールでは、コールごとに CDR が 1 つと CMR が 2 つ（各エンドポイントに 1 つずつ）、計 3 つのレコードが記録されます。CDR の [originalCalledPartyNumber] “” フィールドには、[finalCalledPartyNumber] “” フィールドと同じ電話番号が格納されます。

### 成功した通常のコールの CDR の例

2 台の Cisco Unified IP Phone の間で成功したコールにより、コールの最後に 1 つの CDR が生成されます。

- 1 発信側は、60 秒でコールを終了します。発信側が電話を切ったため、[orig\_CauseValue] には 16 (通常のクリア) が指定されます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	60

- 2 着信側が 60 秒でコールをクリアします。着信側が電話を切ったため、[dest\_CauseValue] には 16 (通常のクリア) が指定されます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
duration	60

### 関連トピック

- [シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## 転送での元の発信側

この機能は、Cisco Unity または Cisco Unity Connection が開始したコール転送のコンサルト コールの発信側番号を変更します。コンサルト コールの CDR には、Cisco Unity または Cisco Unity Connection ポートが転送先にコールしているのではなく、元の発信側が転送先にコールしていると示されます。

この機能は Cisco Unified Communications Manager のサービス パラメータで設定する必要があります。『CDR Analysis and Reporting Administration Guide』の「“Configuring CDR Service Parameters”」の項の説明を参照してください。

### 転送での元の発信側の CDR の例

4001 が 4002 にコールします。4002 がコールを 4003 に転送します。次の 3 つの CDR が生成されます。

- 最初の通話者間（4001 から 4002）のコール。
- 転送している通話者（4002）から最終転送先（4003）へのコンサルト コール。
- 転送された通話者（4001）から転送先（4003）へのコール。

コール	CallingPartyNumber	originalCalledPartyNumber
1	4001	4002
2	4002	4003
3	4001	4003



(注) CDR には [originalCallingParty] フィールドは存在しません。

### 関連トピック

- [シスコのコール詳細レコード フィールドの説明, \(159 ページ\)](#)
- [シスコのコール詳細レコードのコード, \(201 ページ\)](#)

シスコのコール管理レコードの例, (241 ページ)

## パーソナルアシスタントコール

この項では、パーソナルアシスタントコールについて説明します。

### 関連トピック

[パーソナルアシスタントダイレクトコール, \(132 ページ\)](#)

[メディアポートに入ってコールを転送するパーソナルアシスタント代行受信者, \(133 ページ\)](#)

[直接宛先に入るパーソナルアシスタント代行受信者, \(134 ページ\)](#)

[パーソナルアシスタント代行受信者の複数の宛先へのアクセス, \(135 ページ\)](#)

[パーソナルアシスタント会議, \(139 ページ\)](#)

## パーソナルアシスタントダイレクトコール

パーソナルアシスタントダイレクトコールは、発信側からのブラインド転送コールタイプに似た動作をします。

### パーソナルアシスタントダイレクトコールの CDR の例

次の表に、以下に示すシナリオの CDR の例を示します。

- ユーザ A (2101) がパーソナルアシスタントルートポイント (2000) にコールし、「ユーザ B にコール (call User B) 」と発声します。
- コールがユーザ B (2105) に転送されます。この例では、ユーザ B はルールを設定していません。



(注) 次の例で、2000 はパーソナルアシスタントに到達するためのメインのパーソナルアシスタントルートポイントを表し、21XX はパーソナルアシスタント代行受信者ルートポイントを表し、2001 ~ 2004 はメディアポートを表しています。

いずれの場合も、2101 は発信側番号を示します。

発信側番号	OrigLegCall ID	発信側番号パーティション	DestLeg ID	最終着信側番号	最終着信側番号パーティション	元の着信側番号	元の着信側番号パーティション	最終リダイレクト DN	最終リダイレクト DNパーティション	接続時間 (秒)
2101	16777217	PAManaged	16777219	2004	電話機	2000	1023970182	2000	電話機	34
2004	16777221	電話機	16777222	2105	PAManaged	2105	1023970182	2105	PAManaged	0



発信側 番号	OrigLegCall ID	発信側番号 パーティ ション	DestLeg ID	最終 着信 側番 号	最終着信側 番号パー ティション	元の着 信側番 号	元の着信側 番号パー ティション	最終 リダ イレ クト DN	最終リダイ レクト DN パーティ ション	接続時 間 (秒)
2101	16777217	PAManaged	16777222	2105	PAManaged	2105	1023970191	2105	PAManaged	5

関連トピック

[転送コール, \(150 ページ\)](#)

## メディア ポートに入ってコールを転送するパーソナル アシスタント 代行受信者

このシナリオは、発信側からのブラインド転送、および転送されたコールと同様に機能します。

メディア ポートに入ってコールを転送するパーソナル アシスタント 代行受信者の CDR の例  
次の表に、以下に示すシナリオの CDR の例を示します。

- ユーザ A (2101) が 2105 をダイヤルします。
- パーソナル アシスタント 代行受信者 (21XX) がコールをピックアップし、メディア ポート (2002) にリダイレクトします。
- パーソナルアシスタントがルール (存在する場合) に従ってコールを処理し、コールを宛先 (2105) に転送します。この宛先には、ルールは設定されていません。

発信側 番号	OrigLegCall ID	発信側番号 パーティ ション	DestLeg ID	最終 着信 側番 号	最終着信側 番号パー ティション	元の着 信側番 号	元の着信側 番号パー ティション	最終 リダ イレ クト DN	最終リダイ レクト DN パーティ ション	接続時間 (秒)
2002	16777234	電話機	16777285	2105	PAManaged	2105	1023970478	2105	PAManaged	2
2101	16777230	PAManaged	16777232	2002	PA	2105	1023970478	21xx	" "	9
2105	16777235	PAManaged	16777230	2101	" "	" "	1023970483	" "	" "	5

関連トピック

[転送またはリダイレクトされたコール, \(79 ページ\)](#)

[転送コール, \(150 ページ\)](#)

## 直接宛先に入るパーソナルアシスタント代行受信者

このシナリオでは、ルールありとルールなしの2つのケースが考えられます。

### ルールなしの宛先に直接入るパーソナルアシスタント代行受信者のCDRの例

次の表に、以下に示すシナリオのCDRの例を示します。

- ユーザ A (2101) が 2105 をダイヤルします。
- パーソナルアシスタント代行受信者 (21XX) がコールをピックアップし、ルール (存在する場合) に従ってそのコールを処理し、宛先 (2105) にリダイレクトします。

次の表に、以下に示すシナリオのCDRの例を示します。

発信側番号	OrigLegCall ID	発信側番号 パーティション	DestLeg ID	最終着信側番号	最終着信側番号 パーティション	元の着信側番号	元の着信側番号 パーティション	最終リダイレクト DN	最終リダイレクト DN パーティション	接続時間 (秒)
2101	16777240	PAManaged	16777242	2105	PA	2105	1023970710	21XX	" "	8

### ルールありの宛先に直接入って別の宛先にコールを転送するパーソナルアシスタントのCDRの例

次の表に、以下に示すシナリオのCDRの例を示します。

- ユーザ A (2101) が 2105 をダイヤルします。
- パーソナルアシスタント代行受信者 (21XX) がコールをピックアップし、ルールに従ってそのコールを処理します。
- パーソナルアシスタントは次にコールを最終的な宛先 (2110) にリダイレクトします。このケースでは、2105 には内線 2110 にコールを転送するルールが設定されています。

発信側番号	OrigLegCall ID	発信側番号 パーティション	DestLeg ID	最終着信側番号	最終着信側番号 パーティション	元の着信側番号	元の着信側番号 パーティション	最終リダイレクト DN	最終リダイレクト DN パーティション	接続時間 (秒)
2101	16777240	PAManaged	16777242	2110	PA	2105	1023970710	21XX	" "	8

## パーソナルアシスタント代行受信者の複数の宛先へのアクセス

このシナリオでは、いくつかのケースが考えられます。どのケースでも、ユーザ B (2105) は内線 2110 または 2120 に到達するようにルールを設定しています。このルールは、発信側がパーソナルアシスタントルートポイント (2000) をコールして「“ユーザ B にコール (call User B)”」と発声するか (ダイレクトケース)、または発信側がユーザ B (2105) を直接ダイヤルすると (代行受信者ケース)、アクティブになります。

### 複数の宛先に入るパーソナルアシスタント代行受信者の CDR の例

ここでは、各ケースの例を示します。次の表に、各シナリオの CDR の例を示します。

- パーソナルアシスタントダイレクトでの複数の宛先：2110 および 2120 (最初の宛先でコールが受け入れられるケース)
- パーソナルアシスタントダイレクトでの複数の宛先：2110 および 2120 (2 番目の宛先でコールが受け入れられるケース)
- パーソナルアシスタントダイレクトでの複数の宛先：2110 および 2120 (3 番目の宛先でコールが受け入れるケース)
- パーソナルアシスタントインターセプトでの複数の宛先：2110 および 2120 (最初の宛先でコールが受け入れられるケース)
- パーソナルアシスタントインターセプトでの複数の宛先：2110 および 2120 (2 番目の宛先でコールが受け入れられるケース)
- パーソナルアシスタントインターセプトでの複数の宛先：2110 および 2120 (3 番目の宛先でコールが受け入れられるケース)

### パーソナルアシスタントダイレクトでの複数の宛先：2110 および 2120 (最初の宛先でコールが受け入れられるケース)

- ユーザ A がパーソナルアシスタントにコールし、「“ユーザ B にコール (call User B)”」と発声します。
- ユーザ B が内線 2110 でコールに応答します。

発信側番号	OrigLegCall ID	発信側番号パーティション	DestLeg ID	最終着信側番号	最終着信側番号パーティション	元の着信側番号	元の着信側番号パーティション	最終リダイレクト DN	最終リダイレクト DNパーティション	接続時間 (秒)
2004	16777262	電話機	16777263	2110	PAManaged	2110	1023971303	2110	PAManaged	6
2101	16777258	PAManaged	16777260	2004	電話機	2000	1023971303	2000	電話機	22
2110	16777263	PAManaged	16777258	2101	" "	" "	1023971312	" "	" "	9

パーソナルアシスタントダイレクトでの複数の宛先：2110 および 2120（2番目の宛先でコールが受け入れられるケース）

- ユーザ A がパーソナルアシスタントにコールし、「“ユーザ B にコール (call User B)”」と発声します。
- ユーザ B が内線 2120 でコールに応答します。

発信側番号	OrigLegCall ID	発信側番号パーティション	DestLeg ID	最終着信側番号	最終着信側番号パーティション	元の着信側番号	元の着信側番号パーティション	最終リダイレクト DN	最終リダイレクト DNパーティション	接続時間 (秒)
2001	16777269	電話機	16777270	2110	PAManaged	2110	1023971456	2110	PAManaged	0
2001	16777272	電話機	16777273	2120	PAManaged	2120	1023971467	2120	PAManaged	4
2101	16777265	PAManaged	16777267	2001	電話機	2000	1023971467	2000	電話機	37
2120	16777273	PAManaged	16777265	2101	" "	" "	1023971474	" "	" "	7
2110	16777275	PAManaged	0	" "	" "	" "	1023971476	" "	" "	0

パーソナルアシスタントダイレクトでの複数の宛先：2110 および 2120（3番目の宛先でコールが受け入れるケース）

- ユーザ A がパーソナルアシスタントにコールし、「“ユーザ B にコール (call User B)”」と発声します。
- ユーザ B は、2110 でも 2120 でも応答しません。
- パーソナルアシスタントはコールを元の宛先（2105）に転送し、ユーザ B がその内線で応答します。



(注) このケースでは、2105（元の宛先）が3番目の宛先となります。

発信側番号	OrigLegCall ID	発信側番号パーティション	DestLeg ID	最終着信側番号	最終着信側番号パーティション	元の着信側番号	元の着信側番号パーティション	最終リダイレクト DN	最終リダイレクト DNパーティション	接続時間 (秒)
2002	16777281	電話機	16777282	2110	PAManaged	2110	1023971602	2110	PAManaged	0

発信側 番号	OrigLegCall ID	発信側番号 パーティ ション	DestLeg ID	最終 着信 側番 号	最終着信側 番号パー ティション	元の着 信側番 号	元の着信側 番号パー ティション	最終 リダ イレ クト DN	最終リダイ レクト DN パーティ ション	接続時 間 (秒)
2002	16777284	電話機	16777285	2120	PAManaged	2120	1023971615	2120	PAManaged	0
2101	16777277	PAManaged	16777279	2002	電話機	2000	1023971619	2000	電話機	38
2002	16777287	電話機	16777288	2105	PAManaged	2105	1023971619	2105	PAManaged	0
2101	16777277	PAManaged	16777288	2105	PAManaged	2105	1023971627	2105	PAManaged	7
2105	16777289	PAManaged	0	" "	" "	" "	1023971629	" "	" "	0

パーソナルアシスタントインターセプトでの複数の宛先：2110 および 2120（最初の宛先でコールが受け入れられるケース）

- ユーザ A がパーソナルアシスタントにコールし、「「ユーザ B にコール (call User B)」」と発声します。
- ユーザ B が内線 2110 でコールに応答します。

発信側 番号	OrigLegCall ID	発信側番号 パーティ ション	DestLeg ID	最終 着信 側番 号	最終着信側 番号パー ティション	元の着 信側番 号	元の着信側 番号パー ティション	最終 リダ イレ クト DN	最終リダイ レクト DN パーティ ション	接続時 間 (秒)
2003	16777295	電話機	16777296	2110	PAManaged	2110	1023971740	2110	PAManaged	4
2101	16777291	PAManaged	16777293	2003	PA	2105	1023971740	21XX	" "	10
2110	16777296	PAManaged	16777291	2101	" "	" "	1023971749	" "	" "	9

パーソナルアシスタントインターセプトでの複数の宛先：2110 および 2120（2 番目の宛先でコールが受け入れられるケース）

- ユーザ A がパーソナルアシスタントにコールし、「「ユーザ B にコール (call User B)」」と発声します。
- ユーザ B が内線 2120 でコールに応答します。

発信側番号	OrigLegCall ID	発信側番号パーティション	DestLeg ID	最終着信側番号	最終着信側番号パーティション	元の着信側番号	元の着信側番号パーティション	最終リダイレクト DN	最終リダイレクト DNパーティション	接続時間 (秒)
2004	16777302	電話機	16777303	2110	PAManaged	2110	1023971815	2110	PAManaged	0
2004	16777305	電話機	16777306	2120	PAManaged	2120	1023971824	2120	PAManaged	3
2101	16777298	PAManaged	16777300	2004	PA	2105	1023971824	21XX	" "	22
2120	16777306	PAManaged	16777298	2101	" "	" "	1023971832	" "	" "	8

パーソナルアシスタントインターセプトでの複数の宛先：2110 および 2120（3番目の宛先でコールが受け入れられるケース）

- ユーザ A がパーソナルアシスタントにコールし、「“ユーザ B にコール (call User B) ”」と発声します。
- ユーザ B は、2110 でも 2120 でも応答しません。
- パーソナルアシスタントはコールを元の宛先（2105）に転送し、ユーザ B が応答します。



(注) このケースでは、2110（元の宛先）が3番目の宛先となります。

発信側番号	OrigLegCall ID	発信側番号パーティション	DestLeg ID	最終着信側番号	最終着信側番号パーティション	元の着信側番号	元の着信側番号パーティション	最終リダイレクト DN	最終リダイレクト DNパーティション	接続時間 (秒)
2001	16777312	電話機	16777313	2110	PAManaged	2110	1023971923	2110	PAManaged	0
2001	16777315	電話機	16777316	2120	PAManaged	2120	1023971936	2120	PAManaged	0
2101	16777308	PAManaged	16777310	2001	PA	2105	1023971940	21XX	" "	30
2001	16777318	電話機	16777319	2105	PAManaged	2105	1023971940	2105	PAManaged	0
2101	16777308	PAManaged	16777319	2105	PAManaged	2105	1023971953	2105	PAManaged	12

## パーソナルアシスタント会議

パーソナルアシスタント会議は、アドホック会議コールタイプと同様に動作します。

### パーソナルアシスタント会議の CDR の例

次の表に、以下に示すシナリオの CDR の例を示します。

- ユーザ A がパーソナルアシスタントルートポイント (2000) をコールし、「“ユーザ B (2105) およびユーザ C (2110) と会議 (conference User B (2105) and User (2110)) ”」と発声します。
- パーソナルアシスタントは、ユーザ B とユーザ C をユーザ A の会議に追加します。

発信側番号	OrigLegCall ID	発信側番号パーティション	DestLeg ID	最終着信側番号	最終着信側番号パーティション
2003	16777345	電話機	16777346	2105	PAManaged
2101	16777340	PAManaged	16777342	2003	電話機
2003	16777350	電話機	16777351	2002	PAManaged
2003	16777342	電話機	16777347	2110	" "
2110	16777351	PAManaged	16777352	b00110201001	" "
2105	16777346	PAManaged	16777349	b00110201001	" "
2101	16777340	PAManaged	16777348	b00110201001	" "

この表には、次の追加情報があります。

元の着信側番号	元の着信側番号パーティション	最終リダイレクト DN	最終リダイレクト DN パーティション	時間 (秒)
2105	1023972575	2105	PAManaged	6
2000	1023972576	2003	電話機	62
2110	1023972595	2110	PAManaged	39
b00110201001	1023972601	b00110201001	" "	25
b00110201001	1023972609	b00110201001	" "	18
b00110201001	1023972610	b00110201001	" "	34

元の着信側番号	元の着信側番号 パーティション	最終リダイレクト DN	最終リダイレク ト DN パーティ ション	時間 (秒)
b00110201001	1023972610	b00110201001	" "	34

#### 関連トピック

[会議コール, \(62 ページ\)](#)

## 優先コール (MLPP)

優先コールは、CDRに優先レベルフィールドが設定されている場合を除き、他のコールと同じように実行されます。また、より優先レベルの高いコールが他のコールよりも優先されると、原因コードにはプリエンプションが理由として指定されます。

#### 優先コールの CDR の例

- 1 優先パターン (優先レベル 2) をダイヤルすることによって、別の IP Phone へのコールが発生します。

フィールド名	優先コールの CDR
globalCallID_callId	100
origLegCallIdentifier	12345
destLegCallIdentifier	12346
callingPartyNumber	2001
origCalledPartyNumber	826001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origPrecedenceLevel	2
destPrecedenceLevel	2

- 2 別のネットワーク (優先レベル 1) から優先コールを受信します。

フィールド名	優先コールの CDR
globalCallID_callId	102



フィールド名	優先コールの CDR
origLegCallIdentifier	11111
destLegCallIdentifier	11112
callingPartyNumber	9728552001
origCalledPartyNumber	6001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origPrecedenceLevel	1
destPrecedenceLevel	1

- 3 より優先レベルの高いコールが優先されます。

フィールド名	元のコールの CDR	レベルの高いコールの CDR
globalCallID_callId	10000	10001
origLegCallIdentifier	12345678	12345680
destLegCallIdentifier	12345679	12345681
callingPartyNumber	2001	9728551234
origCalledPartyNumber	826001	826001
origCause_Value	0	0
dest_CauseValue	9	16
origPrecedenceLevel	2	1
destPrecedenceLevel	2	1

## リダイレクション (3xx) コール

次の例は、リダイレクション機能 (3xx) の CDR を示しています。

コールがリダイレクション機能 (3xx) によってリダイレクトされると、[origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドと [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには Unified CM リダイレクションを示す 19 が指定されます。[origCalledPartyRedirectReason] フィールドおよび [lastRedirectRedirectReason] フィールドには、リダイレクションを示す 162 が指定されます。

#### リダイレクション (3xx) の CDR の例

SIP 電話機 10010 (Cisco Unified Communications Manager に登録済み) 上で宛先を 10000 とした CFA をアクティブにします。35010 が 10010 をコールし、これが 10000 への CFA となります。コールは 10010 から 10000 にリダイレクトされます。10000 がコールに応答し、1 分間通話します。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	11
origLegCallIdentifier	21832023
destLegCallIdentifier	21832026
callingPartyNumber	35010
originalCalledPartyNumber	10010
finalCalledPartyNumber	10000
lastRedirectDn	10010
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	162
lastRedirectRedirectReason	162
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	19
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	19
origTerminationOnBehalfOf	0
destTerminationOnBehalfOf	12
joinOnBehalfOf	19
duration	60

## リダイレクト番号の変換

リダイレクト番号の変換機能がイネーブルの場合、元の着信番号であり最終リダイレクト番号でもある番号が、変換後に発信セットアップメッセージで送信されます。

### リダイレクト番号の変換の例

- 1 CCM1 - 電話 A [ 180000 ]、電話 B [ 180001 ]、電話 C [ 180002 ]
- 2 SIP トランクは、SIP ゲートウェイをポイントする CCM1 で設定されます
- 3 電話 B には、+9111XXXX に設定された外部マスクがあります
- 4 電話 C には、+9122XXXX に設定された外部マスクがあります

SIP トランクで、パーティション P1 を持つ通話者 CSS のリダイレクトが設定されていて、発信側の変換パターンが P1 に関連付けられています。このパターンでは、外部電話番号のマスクが有効になっています。

### シナリオ

A - 電話 B をコール ---- CFA - 電話 C CFA --- SIP トランク --- SIP ゲートウェイ

B - 元の着信側、C - 最終リダイレクト側

送信 SIP INVITE メッセージで送信される元の最終リダイレクト側に対応するディバージョンヘッダーが2つ存在し、これらのディバージョンヘッダーには、変換されたリダイレクト番号+91110001と+91220002があります。

これらの値は、CDR レコードに保存されます。変換された元の着信側番号は `outpulsedOriginalCalledPartyNumber` に保存され、変換された最終リダイレクト番号は `outpulsedLastRedirectingNumber` に保存されます。

フィールド名	CDR
<code>globalCallID_callId</code>	115010
<code>origLegCallIdentifier</code>	30751507
<code>callingPartyNumber</code>	180000
<code>outpulsedCallingPartyNumber</code>	880003
<code>outpulsedCalledPartyNumber</code>	+91110001
<code>outpulsedLastRedirectingNumber</code>	+91220002

## Refer コール

Replace 指定の Refer の例については、「Replace コール」のトピックを参照してください。

## 関連トピック

[Replace コール](#), (144 ページ)

## Replace コール

次の例は、さまざまなタイプの Replace コールの CDR を示しています。

### Replace の CDR の例

- 1 **Replace 指定の Invite** : SIP 電話機 35010 が、SIP 電話機 35020 にコールします。35010 で転送ボタンが押され、コールが SCCP 電話機 3000 に発信されて、3000 がコールに応答します。その後、電話機 35010 が転送を完了します。最終的に転送されたコールは、35020 と 3000 の間で発生します。



(注) 転送が完了すると、システムは Replace 指定の Invite を Cisco Unified Communications Manager に送信します。

フィールド名	元のコールの CDR	復帰したコールの CDR
globalCallID_callId	5045247	5045248
origLegCallIdentifier	21822467	21822469
destLegCallIdentifier	21822468	21822468
callingPartyNumber	35010	35020
originalCalledPartyNumber	3000	3000
finalCalledPartyNumber	3000	3000
lastRedirectDn	3000	35010
origCause_Value	393216	0
dest_CauseValue	393216	16
origCalledPartyRedirectReason	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	146
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	18
origTerminationOnBehalfOf	18	0

フィールド名	元のコールの CDR	復帰したコールの CDR
destTerminationOnBehalfOf	18	12
joinOnBehalfOf	0	18
duration	5	60

- 2 **Replace 指定の Refer** : SIP 電話機 35010 が SCCP 3000 にコールし、35010 で転送ボタンが押され、コールが SCCP 3001 に発信されます。3001 がコールに応答し、その後、電話機 35010 が転送を完了します。最終的に転送されたコールは、3000 と 3001 の間で発生します。



(注) 転送が完了すると、Replace 指定の Refer が Cisco Unified Communications Manager に送信されます。

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルトコールの CDR	最終的に転送されたコールの CDR
globalCallID_callId	5045245	5045246	5045245
origLegCallIdentifier	21822461	21822463	21822462
destLegCallIdentifier	21822462	21822464	21822464
callingPartyNumber	35010	35010	3000
originalCalledPartyNumber	3000	3001	3001
finalCalledPartyNumber	3000	3001	3001
lastRedirectDn	3000	3001	35010
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	0	130
lastRedirectRedirectReason	0	0	146
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	0	17
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	18
origTerminationOnBehalfOf	17	18	12
destTerminationOnBehalfOf	17	18	17

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルト コール の CDR	最終的に転送され たコールの CDR
joinOnBehalfOf	0	0	18
duration	25	4	25

## RSVP

次に示すフィールドは、コールの RSVP 予約のステータスを識別します。Cisco Unified Communications Manager RSVP CDR ステータス フィールドの値は連結され、コールの最後の 32 個のステータス値が保持されます。

たとえば、コールが「オプション」ポリシーで確立され、最初の RSVP 予約が成功し、その後帯域予約が失われて、コールの途中で数回の再試行後に帯域予約が回復すると、コールは RSVP 予約が成功した状態で終了します。CDR は、この特定のストリームに関する Unified Communication RSVP 予約ステータスとして、「“2:5:2:5:2:5:2”」

(success:lost\_bw:success:lost\_bw:success:lost\_bw:success) という文字列を示します。

### RSVP コールの CDR の例

- 次の例では、コールが「オプション」ポリシーで確立され、最初の RSVP 予約が成功します。通話時間は 5 分です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	300
origLegCallIdentifier	16777300
destLegCallIdentifier	16777301
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	2
destDTMFMethod	2

フィールド名	CDR
duration	300

- 2 次の例では、コールが「オプション」ポリシーで確立され、最初の RSVP 予約が成功します。その後、その帯域予約は失われますが、再試行後に回復します。通話時間は1分です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	301
origLegCallIdentifier	16777302
destLegCallIdentifier	16777303
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	2:5:2
destDTMFMethod	2:5:2
duration	60

## セキュアなミーティング

次の例は、セキュアなミーティングの CDR を示しています。35010 がセキュアなミーティングにコールしますが、35010 は非セキュアな電話機です。35010 がミーティングの最低セキュリティレベルを満たしていないため、コールは原因コード 58（ミーティングの最低セキュリティレベルが満たされていない）でクリアされます。

セキュアなミーティングの CDR の例

フィールド名	ミーティングへのコールの CDR
globalCallID_callId	5045247

フィールド名	ミーティングへのコールの CDR
origLegCallIdentifier	123456879
destLegCallIdentifier	123456999
callingPartyNumber	35010
originalCalledPartyNumber	50000
finalCalledPartyNumber	50000
lastRedirectDn	50000
origCause_Value	58
dest_CauseValue	0
origCalledPartyRedirectReason	0
lastRedirectRedirectReason	0
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0
origTerminationOnBehalfOf	6
destTerminationOnBehalfOf	6

## ショートコール

[CdrLogCallsWithZeroDurationFlag] が [True] に設定され、接続時間が 1 秒未満のショートコールは、CDR に接続時間ゼロのコールとして表示されます。コールの実際の接続時間を示す [DateTimeConnect] フィールドは、失敗したコールとこれらのコールを区別します。失敗した（接続していない）コールの場合、この値はゼロになります。

### ショートコールの CDR の例

次の表に、接続時間 1 秒未満で着信側がクリアした、オン ネット コールの成功例を示します。



発信側 通話者	発信側 パーティ ション	元の着信側	元の着信側 パーティショ ン	元の原 因	着信側 の原因	接続日時	時間
2001	アカウント (Accounts)	2309	マーケティング グ (Marketing)	0	16	973795815	0

## [CallingPartyNumber] フィールドに URL を含む SIP コール

発信側と着信側で、内線番号が URL の SIP コールを設定できます。内線番号には、すべて印刷可能な ASCII 文字を使用できます。URL にスペースを入れることはできません。たとえば、内線「1000 1001」は有効な URL として認められません。



(注) 印刷可能な ASCII 文字は、33 ~ 126 の ASCII コード (10 進表記) の文字を表します。

### [CallingPartyNumber] フィールドに URL を含む SIP コールの CDR の例

Cisco Unified Communications Manager の SIP トランクが着信コールを受信します。このコールには、[callingPartyNumber] に SIP URL が含まれています。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	bob@abc.com
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	60

## 成功したオンネットコール

2 台の Cisco Unified IP Phone の間で成功したコールにより、コールの最後に 1 つの CDR が生成されます。

### 成功したオンネットコールの CDR の例

次の表に、2 つの例を示します。

- A：発信側が終了する 60 秒コール
- B：着信側がクリアする 60 秒コール

	発信側 通話者	発信側 パーティ ション	元の着信側	元の着信側パー ティション	元の原因	着信側の 原因	時間
A	2001	アカウント (Accounts)	2309	マーケティング (Marketing)	16	0	60
B	2001	アカウント (Accounts)	2309	マーケティング (Marketing)	0	16	60

## 転送コール

転送されたコールによって、複数の CDR が生成されます。元のコールに 1 つ、コンサルトコールに 1 つ、および最終的に転送されたコールに 1 つの CDR が存在します。

元のコールについては、[origCause\_value] と [destCause\_value] に、コールが分割されたことを示す値（分割 = 393216）が設定されます。[origCallTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、このコールが転送に関係したことを示す値（転送 = 10）が設定されます。

コンサルトコールについては、[origCause\_value] フィールドと [destCause\_value] フィールドに、コールが分割されたことを示す値（分割 = 393216）が設定されます。[origCallTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、このコールが転送に関係したことを示す値（転送 = 10）が設定されます。

最終的に転送されたコールに対する [joinOnBehalfOf] フィールドには、このコールが転送の結果として発生したことを示す値（転送 = 10）が設定されます。

### 転送されたコールの CDR の例

次の例は、すべてを網羅しているわけではありませんが、上記のような状況で生成されるレコードを示しています。これらの例は、転送されたコールに対してどのようなレコードが生成されるかを理解するのに役立ちます。

### 発信側からのブラインド転送の CDR の例

内線 2001 から PSTN 番号にコールが発信され、120 秒間通話します。2001 が 2002 へのブラインド転送を開始します。**CDR 1** (元のコール) は、内線 2001 から PSTN 番号へのコールを示しています。通話時間は 120 秒です。**CDR 2** (コンサルトコール) は、2001 から内線 2002 へのコールを示しています。**CDR 3** は、最終的に転送されたコールを示しており、2001 は転送を完了し、コールから抜け、PSTN と 2002 の間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルトコールの CDR	最終的に転送された CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	101	103	102
destLegCallIdentifier	102	104	104
callingPartyNumber	2001	2001	3071111
originalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
finalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
lastRedirectDn	3071111	2002	2001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	120	0	360

### 発信側からのコンサルト転送の CDR の例

内線 2001 から PSTN 番号にコールが発信され、60 秒間通話します。2001 が 2002 へのコンサルト転送を開始し、10 秒間通話してから転送を完了します。最終的に転送されたコールの通話時間は 360 秒です。**CDR 1** (元のコール) は、内線 2001 から PSTN 番号へのコールを示しています。通話時間は 60 秒です。**CDR 2** (コンサルトコール) は、2001 から内線 2002 へのコールを示しています。通話時間は 10 秒です。**CDR 3** は、最終的に転送されたコールを示しており、2001 は転送を完了し、コールから抜け、PSTN と 2002 の間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルトコールの CDR	最終的に転送されたコールの CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	111	113	112
destLegCallIdentifier	112	114	114
callingPartyNumber	2001	2001	3071111
originalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
finalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
lastRedirectDn	50001	50001	2001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	60	10	360

#### 着信側からのブラインド転送の CDR の例

50000 から 50001 にコールが発信されます。通話時間は 120 秒です。50001 が 50002 へのブラインド転送を開始します。**CDR 1** (元のコール) は、内線 50001 から 50002 へのコールを示しています。通話時間は 120 秒です。**CDR 2** (コンサルト コール) は、50001 から内線 50002 へのコールを示しています。**CDR 3** は、最終的に転送されたコールであり、50001 は転送を完了し、コールから抜け、50000 と 50002 の間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルトコールの CDR	最終的に転送されたコールの CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	200	202	200
destLegCallIdentifier	201	203	203
callingPartyNumber	50000	50001	50000
originalCalledPartyNumber	50001	50002	50002

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルトコールの CDR	最終的に転送されたコールの CDR
finalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
lastRedirectDn	50001	50001	50001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	120	0	360

#### 着信側からのコンサルト転送の CDR の例

50000 から 50001 にコールが発信されます。通話時間は 120 秒です。50000 が 50002 へのブライント転送を開始します。**CDR 1** (元のコール) は、内線 50000 から 50001 へのコールを示していません。通話時間は 120 秒です。**CDR 2** (コンサルトコール) は、50000 から内線 50002 へのコールを示しています。**CDR 3** は、最終的に転送されたコールであり、50000 は転送を完了し、コールから抜け、50001 と 50002 の間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルトコールの CDR	最終的に転送されたコールの CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	200	202	201
destLegCallIdentifier	201	203	203
callingPartyNumber	50000	50001	50000
originalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
finalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
lastRedirectDn	50001	50001	50001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルトコールの CDR	最終的に転送されたコールの CDR
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	120	0	360

## ビデオ コール

次に、ビデオ コールの CDR の例を示します。

### ビデオ コールの CDR の例

発信側 51234 が着信側 57890 にコールします。次の例では、100=H.261、187962284=172.19.52.11、288625580=172.19.52.17、320=320K、および2=QCIF とします。

フィールド名	ビデオ コールの CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
origCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origVideoCap_Codec	100
origVideoCap_Bandwidth	320
origVideoCap_Resolution	2
origVideoTransportAddress_IP	187962284
origVideoTransportAddress_Port	49208

フィールド名	ビデオ コールの CDR
destVideoCap_Codec	100
destVideoCap_Bandwidth	320
destVideoCap_Resolution	2
destVideoTransportAddress_IP	288625580
destVideoTransportAddress_Port	49254

## ビデオ会議コール

ビデオ会議の一部であるコールには、複数のレコードが記録されます。生成される CDR レコードの数は、ビデオ会議内の通話者の数によって異なります。CDR レコードは、ビデオ会議内の各通話者に 1 つ、最初に発信されたコールに 1 つ、他の通話者をビデオ会議に参加させるために使用した各セットアップ コールごとに 1 つ、およびビデオ会議に接続している最後の通話者 2 人に 1 つ存在します。

したがって、3 者間のアドホック ビデオ会議には、次の 6 つの CDR レコードが存在します。

- 元のコールに 1 つのレコード
- 会議に接続している通話者に 3 つのレコード
- 各セットアップ コールごとに 1 つのレコード
- 会議に残った最後の通話者 2 人に 1 つのレコード

発信コール レッグ ID と着信コール レッグ ID を確認することによって、セットアップ コールを会議内の適切なコール レッグに関連付けることができます。

会議ブリッジ デバイスは、Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味があり、会議ブリッジへのコールは会議ブリッジデバイスへのコールとして表示されます。「b0019901001」という形式の特殊な番号が、会議ブリッジ ポートを示しています。

会議ブリッジへのコールと会議ブリッジからのコールはすべて、実際の方角に関係なく、会議ブリッジへのコールとして表示されます。セットアップ コールの CDR レコードを確認することによって、各コールの元の方角を判断できます。

会議コントローラ情報は、CDR の [コメント (comment) ] フィールドで確認できます。この情報の形式は、次のとおりです。

[コメント (comment) ] フィールド = "ConfControllerDn=1000;ConfControllerDeviceName=SEP0003"

- 会議コントローラの DN と会議コントローラのデバイス名で、会議コントローラを一意に識別できます。シェアドラインの場合は、デバイス名が必要です。

- コールが複数の会議コールに関係している場合、[コメント (comment) ] フィールドには複数の会議コントローラの情報が格納されます。この状況は、会議の参加者が2人に減り、うち1人が別の会議を始めた場合に発生する可能性があります。この場合は、[コメント (comment) ] フィールドの最後の会議コントローラの情報によって、会議コントローラを識別します。

会議に接続されたコール レッグには、次のフィールド情報が設定されます。

- [finalCalledPartyNumber] フィールドには、会議ブリッジ番号「b0019901001」が格納されます。
- [origCalledPtyRedirectOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す4が設定されます。
- [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す4が設定されます。
- [joinOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す4が設定されます。
- [コメント (comment) ] フィールドは、会議コントローラを識別します。
- [destConversationID] フィールドは、会議内のすべてのメンバーに対して同一です。このフィールドを使用して、会議コールのメンバーを識別できます。

最初に発信されたコールと、通話者を会議に参加させるために使用したすべてのセットアップコールには、次のフィールドが設定されます。

- [origCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す4が設定されます。
- [destCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す4が設定されます。

#### ビデオ会議コールの CDR の例

- 1 2001 から 2309 にコールします。2309 が応答し、60 秒間通話します。
- 2 2001 が [会議 (conference) ] ソフトキーを押し、3071111 をダイヤルします。
- 3 307111 が応答し、20 秒間通話します。2001 が [会議 (Conference) ] ソフトキーを押して会議を完了します。
- 4 会議の3人のメンバーが360秒間通話します。
- 5 3071111 が電話を切り、2001 と 2309 は会議に残ります。会議に残った参加者が2人だけになったため、会議機能によってこの2人は直接結合され、さらに55秒間通話します。



(注) コールを会議ブリッジに展開する各ビデオ会議コールレッグが表示されます。このコールは、コールの実際の方角に関係なく、ブリッジへのコールとして表示されます。



フィールド名	元のコールの CDR	セット アップ コールの CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
globalCallID_callId	1	2	1	1		1
origLegCallIdentifier	101	105	101	102	106	101
destLegCallIdentifier	102	106	115	116	117	102
callingPartyNumber	2001	2001	2001	2309	3071111	2001
originalCalledPartyNumber	2309	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	2309
finalCalledPartyNumber	2309	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	2309
lastRedirectDn	2001	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901001
origCause_Value	393216	0	16	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	0	393216	393216	393216	0
origVideoCap_Codec	103	103	103	103	103	103
origVideoCap_Bandwidth	320	320	320	320	320	320
origVideoCap_Resolution	0	0	0	0	0	0
origVideoTransportAddress_IP	552953152	552953152	552953152	-822647488	-945658560	552953152
origVideoTransportAddress_Port	5445	5445	5445	5445	5445	5445
destVideoCap_Codec	103	103	103	103	103	103
destVideoCap_Bandwidth	320	320	320	320	320	320
destVideoCap_Resolution	0	0	0	0	0	0
destVideoTransportAddress_IP	-822647488	-945658560	-666216182	-666216182	-666216182	-822647488
destVideoTransportAddress_Port	5445	10002	10000	10004	10001	5445
origCalledPartyRedirectReason	0	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	0	98
origTerminationOnBehalfOf	4	4	12	12	4	12
destTerminationOnBehalfOf	4	4	0	0	4	4

フィールド名	元のコールの CDR	セットアップコールの CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0	4	4	4	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	4	4	4	4
joinOnBehalfOf	0	0	4	4	4	4
会話 ID (Conversation ID)	0	1		1	1	0
duration	60	360		360	360	55

コメント	
元のコールの CDR	
セットアップコールの CDR	<b>ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD</b>
会議の CDR 1	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議の CDR 2	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議の CDR 3	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD
最終 CDR	



## 第 5 章

# シスコのコール詳細レコード フィールドの説明

この章では、現行の CDR 内にあるすべてのフィールドを CDR 内での出現順に定義します。

- [CDR フィールドの説明, 159 ページ](#)
- [外部コール制御のルーティング原因値, 199 ページ](#)

## CDR フィールドの説明

次の表では、現行の CDR 内にあるすべてのフィールドを、その出現順に説明します。

表 9: CDR フィールドの説明

フィールド名	値の範囲	説明
cdrRecordType	0、1、2	<p>このフィールドは、レコードのタイプを定義します。適用される有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 0 : 開始コール詳細レコード (未使用)</li><li>• 1 : 終了コール詳細レコード (CDR)</li><li>• 2 : CMR レコード</li></ul> <p>デフォルト : CDR の場合、このフィールドは常に 1 になります。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
globalCallID_callManagerId	正の整数	<p>このフィールドは Cisco Unified Communications Manager の一意の ID を表します。</p> <p>グローバル コール ID は、[globalCallID_callId] と [globalCallID_callManagerId] の 2 つのフィールドから構成されます。</p> <p>同じ 1 つの標準コールに関連付けられるすべてのレコードは、同じグローバルコール ID が設定されます。</p> <p>デフォルト：このフィールドは常に設定されています。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
globalCallID_callId	正の整数	

フィールド名	値の範囲	説明
		<p>このフィールドは、各コールに割り当てられる一意のコールIDの値を表します。システムは、このIDを各コールサーバ上で別々に割り当てます。各値は、コール開始時に連番で選択されます。成功または不成功に関係なく、各コールには値が1つ割り当てられます。Cisco Unified Communications Managerが再起動されると、現在のglobalCallId_callId番号についてファイルがチェックされ、次のGlobalCallId_callIdに次の1000番台の番号が割り当てられます。</p> <p>グローバルコールIDは、[globalCallId_callId]と[globalCallId_callManagerId]の2つのフィールドから構成されます。</p> <p>同じ1つの標準コールに関連付けられるすべてのレコードは、同じグローバルコールIDが設定されます。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager リリース 5.x 以降のリリースでは、Cisco Unified Communications Manager が再起動されても GlobalCallId CDR フィールドの値は保持されます。Release 4.x 以前のリリースでは、GlobalCallId フィールドが時間ベースですが、このフィールドは、トラフィックが混雑した状況で再使用されます。この動作が原因で、お客様の課金アプリケーションに問題が生じたり、CMR と CDR の相関および電話会議と CDR の相関を行う CAR の機能に問題が発生することがあります。Release 5.x 以降のリリースでは、GlobalCallId が再設計されたため、このフィールドの一意の値が少なくとも特定の日数の間保持されます。前回使用された globalCallId_callId 値は、定期的に (x 回のコールごとに) ディスクに書き込まれるようになりました。この値は Cisco Unified Communications Manager の再起動後に取得され、新しい globalCallId_callId 値は、この数に x を足した値で始まります。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
		デフォルト：このフィールドは常に設定されています。
origLegCallIdentifier	正の整数	このフィールドは、コールの発信元レグを示します。この値はクラスタ内で一意であることに注意してください。コールのレグが複数のサブコールおよび（結果として）複数の CDR にわたって変化しない場合（1つのコール転送中であるのと同様）、この値は一定に維持されます。 デフォルト：このフィールドは常に設定されています。
dateTimeOrigination	整数	このフィールドは、ユーザがオフフックになった日時、または着信コールに対して H.323 SETUP メッセージを受信した日時を表します。時刻は UTC として保存されます。 デフォルト：このフィールドは常に設定されています。
origNodeId	正の整数	このフィールドは、コールの発信元がそのコール時に登録されているサーバ（クラスタ内のノード）を示します。 デフォルト：このフィールドは常に設定されています。
origSpan	0、正の整数	ゲートウェイが発信元のコールの場合、このフィールドは、コールの発信元である T1、PRI、または BRI トランクの B チャネル番号を示します。ただし、FXS または FXO トランクが発信元の場合は 0 の値になります。 H.323 ゲートウェイの場合、スパン番号は不明のままになり、このフィールドには発信元のコールレグ ID が格納されます。 ゲートウェイが発信元でないコールの場合、この値には 0 が指定されます。 デフォルト：このフィールドには次のルールに基づいて値が入力されます。

フィールド名	値の範囲	説明
origIpAddr	整数	<p>このフィールドは、コール シグナリングを発信するデバイスの v4 IP アドレスを示します。</p> <p>Cisco Unified IP Phone の場合、このフィールドは電話機の v4 アドレスを表します。</p> <p>PSTN コールの場合、このフィールドは、H.323 ゲートウェイの v4 アドレスを表します。</p> <p>クラスタ間コールの場合、このフィールドは、リモート Cisco Unified Communications Manager の v4 アドレスを表します。</p> <p>デフォルト：0 発信元デバイスの v4 アドレスが存在しない場合、このフィールドは 0 になります。このフィールドには次のルールに基づいて値が入力されます。</p>
callingPartyNumber	テキスト文字列	<p>このフィールドは、発信側が電話番号で識別される場合は、発信側番号を表す最大 25 文字の数字文字列を表します。</p> <p>発信側が ID ヘッダーで混合アドレスを使用する場合、このフィールドには混合アドレスの電話番号の部分が含まれます。</p> <p>Cisco Unified IP Phone が発信元のコールの場合、このフィールドは、使用されている回線の内線番号を示します。</p> <p>着信 H.323 コールの場合、このフィールドは、セットアップメッセージ内の発信側番号フィールドで受信された値を示します。このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager に到達する前に発信側番号に適用される変換を反映します（ゲートウェイでの変換など）。</p> <p>サーバ コールの場合は、Cisco Unified Communications Manager が発信側がない状態でハーフ コールを発信し、このフィールドは空のままになることがあります。</p> <p>callingPartyNumber には SIP URI が含まれる場合があります。</p> <p>デフォルト：このフィールドには次のルールに基づいて値が入力されます。</p>



フィールド名	値の範囲	説明
callingPartyUnicodeLoginUserID	Unicode : UTF_8	<p>このフィールドには、発信側のログインユーザ ID を指定します。このフィールドの形式には、UTF_8 が指定されます。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。ユーザ ID が存在しない場合、このフィールドは空のままになります。</p>
origCause_location	0 ~ 15	<p>ISDN シグナリングリンク上で受信されるクリア原因の場合、このフィールドは ISDN リリースメッセージでこのロケーションフィールドで示されるロケーションフィールドを表します。Q.850 の有効な値のリストについては、コール終了原因コードに関連するトピックを参照してください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager によって内部的に生成されるクリア原因の場合、この値には 0 が指定されます。</p> <p>デフォルト：0</p>
origCause_value	0 ~ 129	<p>発信側がクリアしたコールの場合は、このフィールドにクリアの理由が反映されます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は現在 Q.850 コードと一部の Cisco Unified Communications Manager によって定義されたコードを使用します。リストについては、コール終了原因コードに関するトピックを参照してください。</p> <p>着信側によってクリアされるコールの場合、このフィールドに 0 が指定されます。</p> <p>Q.850 で規定されている標準値のほか、機能（転送/会議）によってコールが分割されるときは CDR が終了し、このフィールドに 393216 が設定されます。これは、このフィールドの独自の値を表します。</p> <p>デフォルト：0</p>

フィールド名	値の範囲	説明
origPrecedenceLevel	0 ~ 4	<p>MLPP の場合、各コール レッグには優先レベルが設定されます。このフィールドは、元のレッグの優先レベルを表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 優先レベル 0 = フラッシュ オーバーライド/エグゼクティブ オーバーライド</li> <li>• 優先レベル 1 = フラッシュ</li> <li>• 優先レベル 2 = 即時</li> <li>• 優先レベル 3 = 優先</li> <li>• 優先レベル 4 = ルーチン</li> </ul> <p>デフォルト : 4</p>
origMediaTransportAddress_IP	0、整数	<p>このフィールドは、コール用メディアの発信元デバイスの v4 IP アドレスを示します。</p> <p>Cisco Unified IP Phone の場合、このフィールドは電話機の v4 アドレスを表します。</p> <p>PSTN コールの場合、このフィールドは、H.323 ゲートウェイの v4 アドレスを表します。</p> <p>クラスタ間コールの場合、このフィールドは、リモート電話機の v4 アドレスを示します。</p> <p>デフォルト : 0メディアが確立されない場合またはアドレスが v4 ではない場合、このフィールドは 0 になります。</p>
origMediaTransportAddress_Port	0、正の整数	<p>このフィールドは、 [OrigMediaTransportAddress_IP] フィールドに関連付けられている IP ポート番号を示します。</p> <p>デフォルト : 0メディアが確立されない場合、このフィールドは 0 のままになります。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
origMediaCap_payloadCapability	0、正の整数	このフィールドは、発信元がメディアの送信に使用するコーデック タイプを示します。  現在 Cisco Unified Communications Manager では、0、1～16、18～20、25、32、33、81～86 のペイロード機能の値を使用しています。有効な値のリストについては、コーデックに関連するトピックを参照してください。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0のままになります。
origMediaCap_maxFramesPerPacket	0、正の整数	このフィールドは、発信側から送信されるパケットあたりのデータのミリ秒数を示します。このフィールドには一般に G.729 または G.711 コーデック用の 10、20、または 30 が設定されますが、他の非ゼロの値も保管される場合があります。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0のままになります。
origMediaCap_g723BitRate	0	このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager の現在のリリースでは使用されていません。  デフォルト：このフィールドは0のままになります。
origVideoCap_Codec	0、 100 = H.261、 101 = H.263、 103 = H.264	このフィールドは、発信元がビデオの送信に使用するコーデック タイプを示します (H.261、H.263、または H.264)。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0のままになります。
origVideoCap_Bandwidth	0、正の整数	このフィールドは、kbps の単位で測定された帯域幅を示します。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0のままになります。

フィールド名	値の範囲	説明
origVideoCap_Resolution	0、 1 = SQCIF、 2 = QCIF、 3 = CIF、 4 = CIF4、 5 = CIF16  6 = H263 カスタム解像度 7 = W360P 8 = VGA 9 = W448P 10 = HD720P 11 = HD1080P 12 = CIF2	このフィールドは、送信解像度を表します。 H.264 コーデックまたは SIP デバイスの場合、このフィールドは、デバイスがこのコールに対して送信できる最大送信解像度を表します。 デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0のままになります。
origVideoTransportAddress_IP	0、整数	このフィールドは、コールの発信元デバイスの v4 IP アドレスを示します。 デフォルト：0メディアが確立されない場合またはアドレスが v4 ではない場合、このフィールドは0のままになります。
origVideoTransportAddress_Port	0、正の整数	このフィールドは、 [origVideoTransportAddress_IP] フィールドに関連付けられているビデオ RTP ポートを示します。 デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0のままになります。

フィールド名	値の範囲	説明
origRSVPAudioStat	0 ~ 5	<p>このフィールドは、発信元から終端に至るまでのRSVPオーディオ予約のステータスを示します。</p> <p>0：予約なし</p> <p>1：コールセットアップ時または機能呼び出し時のRSVP Reservation Failure 状態。</p> <p>2：コールセットアップ時または機能呼び出し時のRSVP Reservation Success 状態。</p> <p>3：コールセットアップ時または機能呼び出し時のRSVP Reservation No Response (RSVP Agent) 状態。</p> <p>4 - RSVP Mid Call Failure Preempted 状態 (コールセットアップの後でプリエンプション処理)。</p> <p>5：RSVP Mid Call Failure Lost Bandwidth 状態 (MLPPプリエンプション以外のすべてのコール中エラーを含む)。</p> <p>デフォルト：0</p>
origRSVPVideoStat	0 ~ 5	<p>このフィールドは、発信元から終端に至るまでのRSVPビデオ予約のステータスを示します。</p> <p>0：予約なし</p> <p>1：コールセットアップ時または機能呼び出し時のRSVP Reservation Failure 状態。</p> <p>2：コールセットアップ時または機能呼び出し時のRSVP Reservation Success 状態。</p> <p>3：コールセットアップ時または機能呼び出し時のRSVP Reservation No Response (RSVP Agent) 状態。</p> <p>4 - RSVP Mid Call Failure Preempted 状態 (コールセットアップの後でプリエンプション処理)。</p> <p>5：RSVP Mid Call Failure Lost Bandwidth 状態 (MLPPプリエンプション以外のすべてのコール中エラーを含む)。</p> <p>デフォルト：0</p>

フィールド名	値の範囲	説明
destLegCallIdentifier	0、正の整数	このフィールドは、コールの終了レグを示します。この値は、クラスタ内で一意になります。コールのレグが複数のサブコールおよび（結果として）複数の CDR にわたって変化しない場合（1つのコール転送中であるのと同様）、この値は一定に維持されます。 デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。
destNodeId	0、正の整数	このフィールドは、コールの終端側がそのコール時に登録されている場所（クラスタ内のノード）を示します。 デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。
destSpan	0、正の整数	ゲートウェイが宛先のコールの場合、このフィールドは、コールの宛先である T1、PRI、または BRI トランクの B チャネル番号を示します。ただし、FXS または FXO トランクが宛先の場合は0の値になります。 H.323 ゲートウェイの場合、スパン番号は不明のままになり、このフィールドには宛先のコールレグ ID が格納されます。 ゲートウェイで終端しないコールの場合、この値には0が指定されます。 デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。

フィールド名	値の範囲	説明
destIpAddr	0、整数	<p>このフィールドは、コールシグナリングの終端デバイスの v4 IP アドレスを示します。</p> <p>Cisco Unified IP Phone の場合、このフィールドは電話機の v4 アドレスを表します。</p> <p>PSTN コールの場合、このフィールドは、H.323 ゲートウェイの v4 アドレスを表します。</p> <p>クラスタ間コールの場合、このフィールドは、リモート Cisco Unified Communications Manager の v4 アドレスを表します。</p> <p>デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。このデバイスにv4アドレスが存在しない場合、このフィールドは0になります。</p>
originalCalledPartyNumber	テキスト文字列	<p>このフィールドは、コール転送が行われる以前の、元のコールの提供先番号を示します。トランスレーションルールが設定されている場合、この番号には変換適用後の着信側番号が反映されます。</p> <p>混合アドレスが着信側に使用されている場合、このフィールドは混合アドレスの電話番号部分を表します。</p> <p>このフィールドには、48 文字以下の数字文字列が使用され、電話番号または SIP URL が表現されます。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。宛先に到達できない場合、または、着信側の番号がディレクトリ URI の場合、このフィールドは空のままです。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
finalCalledPartyNumber	テキスト文字列	<p>このフィールドは、コールが応答されるか、リングアウトされるまで、コールの最終的な提供先の電話番号を示します。転送が行われない場合、この番号は [originalCalledPartyNumber] と同じ番号を示します。</p> <p>コールが最終的にディレクトリ URI に提供されると、フィールドは空のままになります。</p> <p>混合アドレスを使用する場合、このフィールドは混合アドレスの電話番号部分を表します。</p> <p>会議ブリッジへのコールの場合、このフィールドには、会議ブリッジの実際の ID が格納されます。これは、英数字の文字列になります (b0019901001 など)。</p> <p>このフィールドは、数値または SIP URL のいずれかの英数字文字列です。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。宛先に到達できない場合、このフィールドは空のままになります。</p>
finalCalledPartyUnicodeLoginUserID	Unicode : UTF_8	<p>最終着信側のフィールドは、ログインユーザ ID を示します。このフィールドの形式には、UTF_8 が指定されます。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。ユーザ ID が存在しない場合、このフィールドは空のままになります。</p>
destCause_location	0 ~ 15	<p>ISDN シグナリングリンク上で受信されるクリア原因の場合、ISDN リリースメッセージでこのロケーションフィールドが示されます。</p> <p>Q.850 の有効な値のリストについては、コール終了原因コードに関連するトピックを参照してください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager によって内部的に生成されるクリア原因の場合、この値は 0 になります。</p> <p>デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは 0 のままになります。</p>



フィールド名	値の範囲	説明
destCause_value	0 ~ 129	<p>宛先側がクリアしたコールの場合、このフィールドにクリアの理由が反映されます。Q.850の有効な値のリストについては、コール終了原因コードに関連するトピックを参照してください。</p> <p>発信側がクリアするコールの場合、このフィールドは0のままになります。</p> <p>Q.850で規定されている標準値のほか、機能（転送/会議）によってコールが分割されるときはCDRが終了し、このフィールドに393216が設定されます。これは、このフィールドの独自の値を表します。</p> <p>デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。</p>
destPrecedenceLevel	0 ~ 4	<p>MLPPの場合、各コールログには優先レベルが設定されます。このフィールドは、宛先ログの優先レベルを表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 優先レベル 0 = フラッシュ オーバーライド</li> <li>• 優先レベル 1 = フラッシュ</li> <li>• 優先レベル 2 = 即時</li> <li>• 優先レベル 3 = 優先</li> <li>• 優先レベル 4 = ルーチン</li> </ul> <p>デフォルト：4</p>
destMediaTransportAddress_IP	0、整数	<p>このフィールドは、コール用メディアの終端デバイスのv4 IPアドレスを示します。</p> <p>Cisco Unified IP Phoneの場合、このフィールドは電話機のv4アドレスを表します。</p> <p>PSTNコールの場合、このフィールドは、H.323ゲートウェイのv4アドレスを示します。</p> <p>クラスタ間コールの場合、このフィールドは、リモート電話機のv4アドレスを示します。</p> <p>デフォルト：0宛先に到達できない場合または宛先のIPアドレスがv4ではない場合、このフィールドは0のままになります。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
destMediaTransportAddress_Port	0、正の整数	このフィールドは、 [DestMediaTransportAddress_IP] フィールドに関連付けられている IP ポート番号を示します。 デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。
destMediaCap_payloadCapability	0、正の整数	このフィールドは、着信側がメディアの送信に使用するコーデック タイプを示します。 現在 Cisco Unified Communications Manager では、0、1～16、18～20、25、32、33、81～86 のペイロード機能の値を使用しています。 有効な値のリストについては、コーデックに関連するトピックを参照してください。 デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。
destMediaCap_maxFramesPerPacket	0、正の整数	このフィールドは、コールの着信側から送信されるパケットあたりのデータのミリ秒数を示します。このフィールドには一般に G.729 または G.711 コーデック用の 10、20、または 30 が設定されますが、他の非ゼロの値も保管される場合があります。 メディアが確立されなければ、このフィールドに 0 が指定される可能性があります。 デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。
destMediaCap_g723BitRate	0	このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager の現在のリリースでは使用されていません。 デフォルト：このフィールドは0のままになります。
destVideoCap_Codec	0、 100 = H.261、 101 = H.263、 103 = H.264	このフィールドは、着信側がビデオの送信に使用するコーデック タイプを示します (H.261、H.263、または H.264)。 デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。

フィールド名	値の範囲	説明
destVideoCap_Bandwidth	0、正の整数	このフィールドは帯域幅を示し、kbps の単位で測定されます。 デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。
destVideoCap_Resolution	0、 1 = SQCIF、 2 = QCIF、 3 = CIF、 4 = CIF4、 5 = CIF16 6 = H263 カスタム解像度 7 = W360P 8 = VGA 9 = W448P 10 = HD720P 11 = HD1080P 12 = CIF2	このフィールドは、送信解像度を表します。 H.264 コーデックまたは SIP デバイスの場合、このフィールドは、デバイスがこのコールに対して送信できる最大送信解像度を表します。 デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0のままになります。
destVideoTransportAddress_IP	0、整数	このフィールドは、コールの宛先デバイスの v4 IP アドレスを示します。 デフォルト：0宛先に到達できない場合または宛先の IP アドレスが v4 ではない場合、このフィールドは0のままになります。
destVideoTransportAddress_Port	0、正の整数	このフィールドは、 [destVideoTransportAddress_IP] フィールドに関連付けられているビデオ RTP ポートを示します。 デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。

フィールド名	値の範囲	説明
destRSVPAudioStat	0 ~ 5	<p>このフィールドは、終端から発信元に至るまでのRSVP オーディオ予約のステータスを示します。</p> <p>0 : 予約なし</p> <p>1 : コールセットアップ時または機能呼び出し時の RSVP Reservation Failure 状態。</p> <p>2 : コールセットアップ時または機能呼び出し時の RSVP Reservation Success 状態。</p> <p>3 : コールセットアップ時または機能呼び出し時の RSVP Reservation No Response (RSVP Agent) 状態。</p> <p>4 - RSVP Mid Call Failure Preempted 状態 (コールセットアップの後でプリエンブション処理)。</p> <p>5 : RSVP Mid Call Failure Lost Bandwidth 状態 (MLPPプリエンブション以外のすべてのコール中エラーを含む)。</p> <p>デフォルト : 0</p>
destRSVPVideoStat	0 ~ 5	<p>このフィールドは、終端から発信元に至るまでのRSVP ビデオ予約のステータスを示します。</p> <p>0 : 予約なし</p> <p>1 : コールセットアップ時または機能呼び出し時の RSVP Reservation Failure 状態。</p> <p>2 : コールセットアップ時または機能呼び出し時の RSVP Reservation Success 状態。</p> <p>3 : コールセットアップ時または機能呼び出し時の RSVP Reservation No Response (RSVP Agent) 状態。</p> <p>4 - RSVP Mid Call Failure Preempted 状態 (コールセットアップの後でプリエンブション処理)。</p> <p>5 : RSVP Mid Call Failure Lost Bandwidth 状態 (MLPPプリエンブション以外のすべてのコール中エラーを含む)。</p> <p>デフォルト : 0</p>

フィールド名	値の範囲	説明
dateTimeConnect	0、整数	<p>このフィールドは、コール接続時の日付と時刻を示します。時刻はUTCとして保存されます。コールに応答がない場合、この値は0になります。</p> <p>デフォルト：0コールが接続しない場合、このフィールドは0のままになります。</p>
dateTimeDisconnect	整数	<p>このフィールドは、コールクリア時の日付と時刻を示します。コールが接続されなかった場合でも、このフィールドは設定されます。時刻はUTCとして保存されます。</p> <p>デフォルト：このフィールドは常に設定されています。</p>
lastRedirectDn	テキスト文字列	<p>このフィールドは、25文字以下の数字文字列を示します。この数字文字列には、電話番号またはSIP URLが含まれます。</p> <p>転送されたコールの場合、このフィールドは、コールが最終的な宛先に到達する最後のホップの1つ前の電話番号を示します。ホップが1回しか起こらない場合、この番号は [originalCalledPartyNumber] と一致します。</p> <p>混合アドレスがコールアドレッシングに使用されている場合、このフィールドには混合アドレスの電話番号部分だけが含まれます。</p> <p>転送されないコールの場合、このフィールドは、 [originalCalledPartyNumber] と [FinalCalledPartyNumber] に一致します。</p> <p>会議ブリッジへのコールの場合、このフィールドには、会議ブリッジの実際のIDが格納されます。これは、英数字の文字列になります (b0019901001 など)。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。コールがダイレクトされないか、最後のホップの1つ前がディレクトリURIである場合、このフィールドは空のままになります。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
pkid	テキスト文字列	<p>このフィールドは、データベースが各行を一意に識別するために内部で使用するテキスト文字列を示します。このテキスト文字列は、コール自体には意味がありません。</p> <p>デフォルト：このフィールドには一意の ID が常に設定されます。</p>
originalCalledPartyNumberPartition	テキスト文字列	<p>Cisco Unified Communications Manager では同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をパーティションを別々にすることでサポートしているため、このフィールドでは、<b>[originalCalledPartyNumber]</b> フィールドに関連付けられているパーティション名を一意に示します。</p> <p>H.323 ゲートウェイ経由で発信するコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを指すルート パターンに関連付けられているパーティション名を一意に示します。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。元の着信側にパーティションが設定されていない場合、このフィールドは空のままになります。</p>
callingPartyNumberPartition	テキスト文字列	<p>Cisco Unified Communications Manager では同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をパーティションを別々にすることでサポートしているため、このフィールドでは、<b>[CallingPartyNumber]</b> フィールドに関連付けられているパーティション名を一意に示します。</p> <p>H.323 ゲートウェイ経由で着信するコールの場合、このフィールドは空白のままになります。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。元の着信側にパーティションが設定されていない場合、このフィールドは空のままになります。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
finalCalledPartyNumberPartition	テキスト文字列	<p>Cisco Unified Communications Manager では同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をパーティションを別々にすることでサポートしているため、このフィールドでは、<b>[originalCalledPartyNumber]</b> フィールドに関連付けられているパーティション名を一意に示します。</p> <p>H.323 ゲートウェイ経由で発信するコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを指すルートパターンに関連付けられているパーティション名を一意に示します。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。最終着信側にパーティションが設定されていない場合、このフィールドは空のままになります。</p>
lastRedirectDnPartition	テキスト文字列	<p>Cisco Unified Communications Manager では同じ内線番号を持つ複数の Cisco Unified IP Phone をパーティションを別々にすることでサポートしているため、このフィールドでは、<b>[originalCalledPartyNumber]</b> フィールドに関連付けられているパーティション名を一意に示します。</p> <p>H.323 ゲートウェイ経由で発信するコールの場合、このフィールドは、そのゲートウェイを指すルートパターンに関連付けられているパーティション名を示します。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。最後のリダイレクト元にパーティションが設定されていない場合またはコールがリダイレクトされなかった場合、このフィールドは空のままになります。</p>
duration	0、正の整数	<p>このフィールドは、接続時刻と切断時刻の差を示します。このフィールドには、コールの接続状態が維持されている時間が秒単位で指定されます。コールが接続しない場合、またはコールの接続時間が1秒未満の場合、このフィールドは0のままになります。</p> <p>デフォルト：0</p>

フィールド名	値の範囲	説明
origDeviceName	テキスト文字列	このフィールドは、発信元デバイスの名前を識別するテキスト文字列を示します。 デフォルト：このフィールドは常に設定されています。
destDeviceName	テキスト文字列	このフィールドは、宛先デバイスの名前を識別するテキスト文字列を示します。 デフォルト：空の文字列「」。元のデバイスに名前が設定されていない場合、このフィールドは空のままになります。
origCallTerminationOnBehalfOf	0、正の整数	このフィールドは、発信元が停止した原因を識別するコードを示します。 たとえば、コールの発信元によって電話が切られると、OnBehalfOf コードは、デバイスを表す「12」になります。転送が原因でコールが停止すると、OnBehalfOf コードは、転送を表す「10」になります。 コードのリストについては、CDR フィールドの説明に関連するトピックを参照してください。このリリースでは、新しいOnBehalfOf コードが追加されています。 デフォルト：0
destCallTerminationOnBehalfOf	0、正の整数	このフィールドは、宛先が停止した原因を識別するコードを示します。 たとえば、コールの宛先によって電話が切られると、OnBehalfOf コードは、デバイスを表す「12」になります。転送が原因でコールが停止すると、OnBehalfOf コードは、転送を表す「10」になります。 コードのリストについては、CDR フィールドの説明に関連するトピックを参照してください。このリリースでは、新しいOnBehalfOf コードが追加されています。 デフォルト：0



フィールド名	値の範囲	説明
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0、正の整数	<p>このフィールドは、元の着信側がリダイレクトされた理由を識別するコードを示します。</p> <p>たとえば、元の着信側が会議のためにリダイレクトされた場合、OnBehalfOf コードは「4」を示します。</p> <p>コードのリストについては、CDR フィールドの説明に関連するトピックを参照してください。このリリースでは、新しいOnBehalfOfコードが追加されています。</p> <p>デフォルト：0</p>
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0、整数	<p>このフィールドは、最終リダイレクト者がリダイレクトされた理由を識別するコードを示します。</p> <p>たとえば、最終リダイレクト者が会議のためにリダイレクトされた場合、OnBehalfOf コードは「4」を示します。</p> <p>コードのリストについては、CDR フィールドの説明に関連するトピックを参照してください。このリリースでは、新しいOnBehalfOfコードが追加されています。</p> <p>デフォルト：0</p>
origCalledPartyRedirectReason	0、整数	<p>このフィールドは、元の着信側がリダイレクトされた理由を示します。</p> <p>完全なコードの一覧については、リダイレクト原因コードに関連するトピックを参照してください。</p> <p>デフォルト：0</p>
lastRedirectRedirectReason	0、整数	<p>このフィールドは、リダイレクションの最後のリダイレクト理由を示します。</p> <p>完全なコードの一覧については、リダイレクト原因コードに関連するトピックを参照してください。</p> <p>デフォルト：0</p>

フィールド名	値の範囲	説明
destConversationID	0、整数	このフィールドは、会議コールの参加者を識別するために使用される固有識別子を示します。 会議チェーン シナリオの場合、 [origConversationID] フィールドと [destConversationID] フィールドにより、連結されている会議が識別されます。 デフォルト：0
globalCallId_ClusterId	テキスト文字列	このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager のクラスタを識別する一意の ID を示します。 フィールドは、インストール時に生成され、Cisco Unified Communications Manager では使用されません。 [globalCallId_ClusterId] + [globalCallId_CMId] + [globalCallId_CallId] により、この一意のキーは構成されます。 デフォルト：このフィールドは常に設定されています。
joinOnBehalfOf	0、整数	このフィールドは、結合の理由を識別するコードを示します。 たとえば、転送のために結合が行われると、OnBehalfOf コードは「10」になります。 コードのリストについては、CDR フィールドの説明に関連するトピックを参照してください。 デフォルト：0
コメント	テキスト文字列	各機能は、このフィールドを利用してテキストを CDR に追加できます。このテキストにより、コールに関する詳細情報が記述されます。 たとえば、次のフィールドは、迷惑コールであることを示すフラグです。 タグ：CallFlag 値：MALICIOUS デフォルト：空の文字列「」。
authCodeDescription	テキスト文字列	このフィールドは、FAC の説明を示します。 デフォルト：空の文字列「」またはヌル。

フィールド名	値の範囲	説明
authorizationLevel	0、整数	このフィールドは、FACのレベルを示します。 デフォルト：0
clientMatterCode	テキスト文字列	システムがコールを拡張する前に、ユーザは、アカウントコードや課金コードをコールに割り当てるために使用されるクライアント識別コードを入力します。このフィールドは、そのクライアント識別コードを示します。 デフォルト：空の文字列「”」またはヌル。
origDTMFMethod	0、正の整数	このフィールドは、発信元が使用するDTMF方式を示します。 0：DTMFの指定なし：任意の一致するDTMFを使用します。 1：OOB：SIPTrunkの背後にあるエンドポイントがOOBをサポートしていれば、それを使用します。 2：2833：SIPTrunkの背後にあるエンドポイントがRFC2833をサポートしていれば、それを使用します。 3：OOBと2833：SIPTrunkの背後にあるエンドポイントがKPMLとRFC2833の両方をサポートしていれば、それらの両方を使用します。 4：不明 デフォルト：0（初期設定なし）
destDTMFMethod	0、正の整数	このフィールドは、宛先が使用するDTMF方式を示します。 0：DTMFの指定なし：任意の一致するDTMFを使用します。1：OOB：SIPTrunkの背後にあるエンドポイントがOOBをサポートしていれば、それを使用します。2：2833：SIPTrunkの背後にあるエンドポイントがRFC2833をサポートしていれば、それを使用します。3：OOBと2833：SIPTrunkの背後にあるエンドポイントがKPMLとRFC2833の両方をサポートしていれば、それらの両方を使用します。4：不明。 デフォルト：0（初期設定なし）

フィールド名	値の範囲	説明
callSecuredStatus	0、正の整数	<p>このフィールドは、コール中に到達した最高のセキュリティステータスを示します。たとえば、コールが最初はセキュリティ保護されておらず、後で保護された状態に変わると、コールの別の部分のステータス値は異なる場合でも、CDRの[セキュリティ保護 (Secured)]“”は1になります。</p> <p>0：セキュリティ保護されていない  1：認証されている (暗号化なし)  2：セキュリティ保護されている (暗号化あり)  デフォルト：0 (セキュリティ保護されていない)</p>
origConversationID	整数	<p>このフィールドは、コールの発信元レグに関連付けられている会議IDを示します。ほとんどの場合、このフィールドは0になります。</p> <p>会議チェーンシナリオの場合、[origConversationID] フィールドと [destConversationID] フィールドにより、連結されている会議が識別されます。</p> <p>デフォルト：0</p>
origMediaCap_Bandwidth	0、正の整数	<p>このフィールドは、コールの発信元で使用されるメディア帯域幅を示します。</p> <p>デフォルト：0</p>
destMediaCap_Bandwidth	0、正の整数	<p>このフィールドは、コールの宛先で使用されるメディア帯域幅を示します。</p> <p>デフォルト：0</p>
authorizationCodeValue	テキスト文字列	<p>このフィールドは、コールに関連付けられている強制承認コード (FAC) を示します。</p> <p>デフォルト：空の文字列 “” またはヌル。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
outpulsedCallingPartyNumber	テキスト文字列	<p>このフィールドは、50 文字以下の英数字文字列で構成されます。</p> <p>発信側番号は、デバイスからアウトパルスされます。このフィールドは、デバイスにおいて正規化またはローカリゼーションが行われる場合にのみ設定されます。</p> <p>デフォルト：空の文字列「”」またはヌル。</p>
outpulsedCalledPartyNumber	テキスト文字列	<p>このフィールドは、50 文字以下の英数字文字列で構成されます。</p> <p>着信側番号は、デバイスからアウトパルスされます。このフィールドは、デバイスにおいて正規化またはローカリゼーションが行われる場合にのみ設定されます。</p> <p>デフォルト：空の文字列「”」またはヌル。</p>
origIpv4v6Addr	テキスト文字列	<p>このフィールドは、64 文字以下の英数字文字列で構成されます。</p> <p>このフィールドは、コールシグナリングの発信側デバイスの IP アドレスを示します。このフィールドは、コールに使用される IP アドレスのタイプに応じて IPv4 形式と IPv6 形式のいずれかになります。</p> <p>Cisco Unified IP Phone の場合、このフィールドは Cisco Unified IP Phone のアドレスです。PSTN コールの場合、このフィールドはゲートウェイのアドレスです。クラスタ間コールの場合、このフィールドはリモート Cisco Unified Communications Manager のアドレスです。</p> <p>IP アドレスは、ドット付き 10 進表記またはコロン区切り 16 進表記のいずれかになります。</p> <p>デフォルト：デバイスによって報告された、またはメディアネゴシエーション後のコールに使用された、発信元デバイスの IP アドレス。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
destIpv4v6Addr	テキスト文字列	<p>このフィールドは、64 文字以下の英数字文字列で構成されます。</p> <p>このフィールドは、コール シグナリングの終端デバイスの IP アドレスを示します。このフィールドは、コールに使用される IP アドレスのタイプに応じて IPv4 形式と IPv6 形式のいずれかになります。</p> <p>Cisco Unified IP Phone の場合、このフィールドは Cisco Unified IP Phone のアドレスです。PSTN コールの場合、このフィールドはゲートウェイのアドレスです。クラスタ間コールの場合、このフィールドはリモート Cisco Unified Communications Manager のアドレスです。</p> <p>IP アドレスは、ドット付き 10 進表記またはコロン区切り 16 進表記のいずれかになります。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」またはヌル。 宛先に到達しない場合、このフィールドは空のままになります。</p>
origVideoCap_Codec_Channel2	0、 100 = H.261、 101 = H.263、 103 = H.264、	<p>このフィールドは、発信元が 2 番目のビデオチャンネルのビデオを送信するのに使用するコーデックタイプ (H.261、H.263、または H.264) を示します。</p> <p>デフォルト：0 メディアが確立されない場合、このフィールドは 0 を示します。また、このコールに対して H.239 および BFCP がサポートされていない場合にも、このフィールドは 0 を示します。</p>
origVideoCap_Bandwidth_Channel2	0、正の整数	<p>このフィールドは、2 番目のビデオチャンネルに対して kbps の単位で測定された帯域幅を示します。</p> <p>デフォルト：0 メディアが確立されない場合、このフィールドは 0 を示します。また、このコールに対して H.239 および BFCP がサポートされていない場合にも、このフィールドは 0 を示します。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
origVideoCap_Resolution_Channel2	0、 1 = SQCIF、 2 = QCIF、 3 = CIF、 4 = CIF4、 5 = CIF16 6 = H263 カスタム解像度 7 = W360P 8 = VGA 9 = W448P 10 = HD720P 11 = HD1080P 12 = CIF2	このフィールドは、2番目のビデオチャネルの送信解像度を示します。H.264 コーデックまたは SIP デバイスの場合、このフィールドは、デバイスがこのコールに対して送信できる最大送信解像度を表します。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0のままになります。また、このコールに対して H.239 および BFCP がサポートされていない場合にも、このフィールドは0を示します。
origVideoTransportAddress_IP_Channel2	0、整数	このフィールドは、2番目のビデオチャネル用コールの発信元デバイスの v4 IP アドレスを示します。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0を示します。また、このコールに対して H.239 および BFCP がサポートされていない場合にも、このフィールドは0を示します。
origVideoTransportAddress_Port_Channel2	0、正の整数	このフィールドは、2番目のビデオチャネル用に [origH239VideoTransportAddress_IP] フィールドに関連付けられているビデオ RTP ポートを示します。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0を示します。また、このコールに対して H.239 および BFCP がサポートされていない場合にも、このフィールドは0を示します。

フィールド名	値の範囲	説明
origVideoChannel_Role_Channel2	0 = 表示 ロール、 1 = ライブ ロール、 正の整数	このフィールドは、発信元デバイスのH.239ビデオチャンネルロールを示します。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0を示します。また、H.239がサポートされていない場合も、このフィールドは0を示します。
destVideoCap_Codec_Channel2	0、 100 = H.261、 101 = H.263、 103 = H.264	このフィールドは、着信側が2番目のビデオチャンネルのビデオを送信するのに使用するコーデックタイプ（H.261、H.263、またはH.264）を示します。  デフォルト：0宛先に到達できない場合、このフィールドは0のままになります。また、このコールに対してH.239およびBFCPがサポートされていない場合にも、このフィールドは0を示します。
destVideoCap_Bandwidth_Channel2	0、正の整数	このフィールドは、2番目のビデオチャンネルに対して kbps の単位で測定された帯域幅を示します。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0を示します。また、このコールに対してH.239およびBFCPがサポートされていない場合にも、このフィールドは0を示します。



フィールド名	値の範囲	説明
destVideoCap_Resolution_Channel2	0、 1 = SQCIF、 2 = QCIF、 3 = CIF、 4 = CIF4、 5 = CIF16 6 = H263 カスタム解像度 7 = W360P 8 = VGA 9 = W448P 10 = HD720P 11 = HD1080P 12 = CIF2	このフィールドは、2番目のビデオチャネルの送信解像度を示します。H.264 コーデックまたは SIP デバイスの場合、このフィールドは、デバイスがこのコールに対して送信できる最大送信解像度を表します。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは0のままになります。また、このコールに対して H.239 および BFCP がサポートされていない場合にも、このフィールドは 0 を示します。
destVideoTransportAddress_IP_Channel2	0、整数	このフィールドは、コールの宛先デバイスの v4 IP アドレスを示します。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは 0 を示します。また、このコールに対して H.239 および BFCP がサポートされていない場合にも、このフィールドは 0 を示します。
destVideoTransportAddress_Port_Channel2	0、正の整数	このフィールドは、 [destH239VideoTransportAddress_IP] フィールドに関連付けられているビデオ RTP ポートを示します。  デフォルト：0メディアが確立されない場合、このフィールドは 0 を示します。また、このコールに対して H.239 および BFCP がサポートされていない場合にも、このフィールドは 0 を示します。

フィールド名	値の範囲	説明
destVideoChannel_Role_Channel2	0 = 表示 ロール、 1 = ライブ ロール、 正の整数	このフィールドは、コールを受信するデバイスの H.239 ビデオ チャネル ロールを示します。  デフォルト : 0メディアが確立されない場合、このフィールドは 0 を示します。また、H.239 がサポートされていない場合も、このフィールドは 0 を示します。
incomingProtocolID	0 = 不明、 1 = SIP、 2 = H323、 3 = CTI/JTAPI、 4 = Q931、 整数	このフィールドは、コールパス内で Cisco Unified CM とアップストリーム音声製品との間で使用されるプロトコル (SIP、H.323、CTI/JTAPI、または Q.931) を示します。
incomingProtocolCallRef	Varchar(32)	このフィールドは、プロトコル用のグローバルに一意的なコール参照 ID を示します。値はアップストリーム音声製品から受信します。値は英数字で、32 文字を超えた部分は切り捨てられます。
outgoingProtocolID	0 = 不明、 1 = SIP、 2 = H323、 3 = CTI/JTAPI、 4 = Q931、 整数	このフィールドは、コールパス内で Cisco Unified CM とダウンストリーム音声製品との間で使用されるプロトコル (SIP、H.323、CTI/JTAPI、または Q.931) を示します。
outgoingProtocolCallRef	Varchar(32)	このフィールドは、プロトコル用のグローバルに一意的なコール参照 ID を示します。この値は、次のダウンストリーム音声製品に渡されます。値は英数字で、32 文字を超えた部分は切り捨てられます。

フィールド名	値の範囲	説明
currentRoutingReason	正の整数	このフィールドは、外部コール制御機能で使用されるものであり、現在のコールについてコールが代行受信された原因を示します。理由のリストについては、外部コール制御のルーティング原因値に関連するトピックを参照してください。 デフォルト値は0です。
origRoutingReason	正の整数	このフィールドは、外部コール制御機能で使用されるものであり、初めてコールが代行受信された原因を示します。理由のリストについては、外部コール制御のルーティング原因値に関連するトピックを参照してください。 デフォルト値は0です。
lastRedirectingRoutingReason	正の整数	このフィールドは、外部コール制御機能で使用されるものであり、最後にコールが代行受信された原因を示します。理由のリストについては、外部コール制御のルーティング原因値に関連するトピックを参照してください。 デフォルト：空の文字列。
huntPilotPartition	テキスト文字列	このフィールドは、ハントパイロット DN のパーティションを示します。 デフォルト：空の文字列。
huntPilotDN	テキスト文字列	このフィールドは、コールをルーティングするハントパイロット DN を示します。 デフォルト：空の文字列。

フィールド名	値の範囲	説明
calledPartyPatternUsage	正の整数	<p>このフィールドは、着信側のパターンを示します。</p> <p>デフォルト値は5 (PATTERN_ROUTE) です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [huntPilotDN] が設定されている場合は、[huntPilotDN] フィールドの値をハントパイロットとして使用します。</li> <li>• [huntPilotDN] を使用できない場合は、CDR テーブル内でパターンの使い方 (7 = PATTERN_HUNT_PILOT) を確認してコールタイプを特定します。このコールがハントリスト コールの場合は、[finalCalledPartyNumber] を [huntPilotDN] として使用します。</li> </ul>
incomingICID	テキスト文字列	<p>最大 50 文字の英数字を入力します。</p> <p>このフィールドには、コールの着信コールレグの P-Charging ベクターから IMS ID (ICID) が入力されます。</p> <p>このフィールドは、P-Charging ベクターが有効な IMS または SIP トランクがない場合は空です。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。</p>
incomingOrigIOI	テキスト文字列	<p>最大 50 文字の英数字を入力します。</p> <p>このフィールドには、コールの着信コールレグの P-Charging ベクターから、発信元のオペレータ間 ID (IOI) が入力されます。</p> <p>このフィールドは、P-Charging ベクターが有効な IMS または SIP トランクがない場合は空です。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
incomingTermIOI	テキスト文字列	<p>最大 50 文字の英数字を入力します。</p> <p>このフィールドには、コールの着信コールレグの P-Charging ベクターから、宛先のオペレータ間 ID (IOI) が入力されます。</p> <p>このフィールドは、P-Charging ベクターが有効な IMS または SIP トランクがない場合は空です。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。</p>
outgoingICID	テキスト文字列	<p>最大 50 文字の英数字を入力します。</p> <p>このフィールドには、コールの送信コールレグの P-Charging ベクターから IMS ID (ICID) が入力されます。</p> <p>このフィールドは、P-Charging ベクターが有効な IMS または SIP トランクがない場合は空です。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。</p>
outgoingOrigIOI	テキスト文字列	<p>最大 50 文字の英数字を入力します。</p> <p>このフィールドには、コールの送信コールレグの P-Charging ベクターから、発信元のオペレータ間 ID (IOI) が入力されます。</p> <p>このフィールドは、P-Charging ベクターが有効な IMS または SIP トランクがない場合は空です。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。</p>
outgoingTermIOI	テキスト文字列	<p>最大 50 文字の英数字を入力します。</p> <p>このフィールドには、コールの送信コールレグの P-Charging ベクターから、宛先のオペレータ間 ID (IOI) が入力されます。</p> <p>このフィールドは、P-Charging ベクターが有効な IMS または SIP トランクがない場合は空です。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
outpulsedCalledPartyNumber	テキスト文字列	最大 50 文字の英数字を入力します。 デバイスからアウトパルスされた元の着信側番号です。詳細については、 <a href="#">リダイレクト番号の変換, (143 ページ)</a> の項を参照してください。 デフォルト：空の文字列「」。
outpulsedLastRedirectingNumber	テキスト文字列	最大 50 文字の英数字を入力します。 デバイスからアウトパルスされた最終リダイレクト番号です。詳細については、 <a href="#">リダイレクト番号の変換, (143 ページ)</a> の項を参照してください。 デフォルト：空の文字列「」。
wasCallQueued	正の整数	このフィールドは、コールがキューに入ったかどうかを指定します。値 0 は、コールがキューに入っていないことを、1 はコールがキューに入ったことを意味します。
totalWaitTimeInQueue	正の整数	このフィールドは、発信側がキューに保持されている時間を示します。値は秒で指定されます。コールがキューに入らない場合、値は 0 になります。
callingPartyNumber_uri	テキスト文字列	このフィールドは、発信側がコールアドレッシングにディレクトリ URI を使用している場合に、発信側を識別する最大 254 文字の英数字文字列を表します。 発信側が ID ヘッダーで混合アドレスを使用する場合、このフィールドには混合アドレスのディレクトリ URI の部分が含まれます。 デフォルト：空の文字列「」。発信側がディレクトリ URI を使用しない場合、このフィールドは空のままになります。

フィールド名	値の範囲	説明
originalCalledPartyNumber_uri	テキスト文字列	<p>このフィールドは、コールがディレクトリ URI 宛ての場合、あらゆるコール転送の前に、元のコールの宛先となるディレクトリ URI を表す最大 254 文字の英数字文字列を表します。</p> <p>混合アドレスが着信側に使用されている場合、このフィールドは混合アドレスのディレクトリ URI の部分を表します。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。宛先に到達できない場合、または、着信側の番号が電話番号の場合、このフィールドは空のままです。</p>
finalCalledPartyNumber_uri	テキスト文字列	<p>このフィールドは、最終アドレスがディレクトリ URI の場合に、コールが最終的に提示されるディレクトリ URI アドレスを表す、最大 254 文字の英数字文字列を表します。転送が行われない場合、このフィールドは [originalCalledPartyNumber] と同じディレクトリ URI を番号を表します。</p> <p>混合アドレスが着信側の番号に使用されている場合、このフィールドは混合アドレスのディレクトリ URI の部分を表します。</p> <p>会議ブリッジへのコールの場合、このフィールドには、会議ブリッジの実際の ID が格納されます。これは、英数字の文字列になります (b0019901001 など)。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。宛先に到達できない場合、または着信側のアドレスに電話番号が使用されている場合、このフィールドは空のままです。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
lastRedirectDn_uri	テキスト文字列	<p>このフィールドは、254文字以下の英数字文字列で指定します。</p> <p>アドレス処理にディレクトリ URI を使用している転送コールの場合、このフィールドはコールが最終的な宛先に到達する最後のホップの1つ前のディレクトリ URI を示します。ホップが1回しか起こらない場合、この番号は [originalCalledPartyNumber_uri] と一致します。</p> <p>混合アドレスを使用する場合、このフィールドには混合アドレスのディレクトリ URI 部分だけが含まれます。</p> <p>転送されないコールの場合、このフィールドは、 [originalCalledPartyNumber_uri] と [finalCalledPartyNumber_uri] に一致します。</p> <p>会議ブリッジへのコールの場合、このフィールドには、会議ブリッジの実際の ID が格納されます。これは、英数字の文字列になります (b0019901001 など)。</p> <p>デフォルト：空の文字列「」。コールがリダイレクトされないか、アドレスが電話番号の場合は、このフィールドは空のままになります。</p>
mobileCallingPartyNumber	テキスト文字列	<p>元の発信側デバイスがモバイル デバイスの場合、このフィールドは携帯電話番号を指定します。</p> <p>元の発信デバイスがモバイル デバイスでない場合、このフィールドは空のままになります。</p> <p>デフォルト：空の文字列</p>
finalMobileCalledPartyNumber	テキスト文字列	<p>最終着信デバイスがモバイル デバイスの場合、このフィールドは、モバイル着信側を指定します。</p> <p>最終着信デバイスがモバイル デバイスでない場合、このフィールドは空のままになります。</p> <p>デフォルト：空の文字列</p>



フィールド名	値の範囲	説明
origMobileDeviceName	テキスト文字列	<p>モバイル デバイスからのコールの場合、このフィールドは発信側のデバイス名を指定します。</p> <p>モバイル コールがリモート接続先プロファイルを使用する場合、デバイス名はモバイル番号とリモート接続先プロファイル名になります。例：mobileNumber:RDP-name。</p> <p>モバイルデバイスがモバイル ID を使用する場合、デバイス名はモバイル ID 名になります。</p> <p>元のデバイスがモバイルデバイスでない場合、このフィールドは空のままになります。</p> <p>デフォルト：空の文字列</p>
destMobileDeviceName	テキスト文字列	<p>宛先がモバイル デバイスのコールの場合、このフィールドは、宛先のモバイル デバイスの名前を指定します。</p> <p>モバイル デバイスがリモート接続先プロファイルを使用する場合、デバイス名は携帯電話番号とリモート接続先プロファイル名になります。例：mobileNumber:RDP-name。</p> <p>モバイルデバイスがモバイル ID を使用する場合、デバイス名はモバイル ID 名になります。</p> <p>接続先デバイスがモバイル デバイスでない場合、このフィールドは空のままになります。</p> <p>デフォルト：空の文字列</p>
origMobileCallDuration	正の整数	<p>発信側がモバイルデバイスの場合、このフィールドは発信元デバイスのモバイル ネットワークでのコール接続時間を示します。</p> <p>発信側がモバイルデバイスでない場合、このフィールドは空のままになります。</p> <p>デフォルト：0</p>
destMobileCallDuration	正の整数	<p>着信先デバイスがモバイル デバイスの場合、このフィールドは着信先デバイスのモバイル ネットワークでのコール接続時間を示します。</p> <p>接続先デバイスがモバイル デバイスでない場合、このフィールドは空のままになります。</p> <p>デフォルト：0</p>

フィールド名	値の範囲	説明
mobileCallType	正の整数	このフィールドは、このモバイル コールで起動したモビリティ機能を指定します。 デフォルト：0
originalCalledPartyPattern	テキスト文字列	最大 50 文字の数字列（特殊文字を含む）。これは、設定されたトランスレーションルールが適用される前に元のコールが配置されるパターンです。 デフォルト：空の文字列「」。
finalCalledPartyPattern	テキスト文字列	最大 50 文字の数字列（特殊文字を含む）。コールが応答されるまたは呼び出し音が終了するまでコールが提示される最終着信側のパターンです。転送が発生しなかった場合、このパターンは <b>originalCalledPartyPattern</b> と同じです。このフィールドは、設定されたトランスレーションルールが適用される前のパターンを示します。 番号がトランスレーションのないダイレクトマッチの場合、この値は <b>[finalCalledPartyNumber]</b> と同じになります。 デフォルト：空の文字列「」。
lastRedirectingPartyPattern	テキスト文字列	最大 50 文字の数字列（特殊文字を含む）。コールが現在の着信側にリダイレクトされる現在の最後の通話者のパターン。リダイレクトがない場合、このフィールドは <b>[originalCalledPartyPattern]</b> と同じ値になります。 デフォルト：空の文字列「」。
huntPilotPattern	テキスト文字列	最大 50 文字の数字列（特殊文字を含む）。データベースで設定された <b>huntPilot</b> パターン。このフィールドは、直接配置されるか <b>HuntPilot</b> へのリダイレクトの結果として配置されるコールに <b>HuntPilot</b> メンバーが応答する場合にのみ入力されます。 デフォルト：空の文字列「」。応答する <b>HuntPilot</b> メンバーがない場合、このフィールドは空になります。

## 関連トピック

- [コール終了原因コード, \(204 ページ\)](#)
- [CDR の例, \(21 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコード フィールドの説明, \(223 ページ\)](#)
- [コーデック タイプ, \(201 ページ\)](#)
- [符号付き 10 進数値を IP アドレスに変換, \(16 ページ\)](#)
- [CDR に関連するマニュアル, \(6 ページ\)](#)
- [グローバル通話 ID, \(12 ページ\)](#)
- [リダイレクト理由コード, \(211 ページ\)](#)
- [外部コール制御のルーティング原因値, \(199 ページ\)](#)

## 外部コール制御のルーティング原因値

Cisco Unified Communications Manager では、外部コール制御機能をサポートしています。この機能では、別建てルーティング サーバが、Cisco Unified Routing Rules Interface を使用して、Cisco Unified Communications Manager の代わりにコールルーティングを決定します。外部コール制御の設定に際して、Cisco Unified Communications Manager は、発信側および着信側の情報が入ったルート要求を補助ルートサーバに発行します。補助ルートサーバは、要求を受信し、適切なビジネスロジックを適用した後、Cisco Unified Communications Manager に対し、コールのルーティングとコールに適用すべきその他の取り扱い方法を指示するルート応答を返します。

別建てルーティング サーバは、コールの許可/転送/拒否、発呼側および着信側の情報の変更、発呼側に対する音声案内、別建てのボイスメール サーバと IVR サーバが発呼側/着信側の情報を適切に解釈できるようにするためのコール履歴のリセット、コールが転送または拒否された理由を示す理由コードの記録を Cisco Unified Communications Manager に指示できます。

次の表に、[currentRoutingReason]、[origRoutingReason]、または [lastRedirectingRoutingReason] フィールドに示される可能性がある原因を示します。

表 10: 外部コール制御のルーティング原因値

フィールド値	理由	説明
0	PDPDecision_NONE	この値は、ルーティング サーバが Cisco Unified Communications Manager に対してルーティング指令を返さなかったことを示します。
1	PDPDecision_Allow_Fulfilled	この値は、Cisco Unified Communications Manager がコールを許可したことを示します。
2	PDPDecision_Allow_Unfulfilled	この値は、Cisco Unified Communications Manager がコールを許可しなかったことを示します。

フィールド値	理由	説明
3	PDPDecision_Divert_Fulfilled	この値は、Cisco Unified Communications Manager がコールを転送したことを示します。
4	PDPDecision_Divert_Unfulfilled	この値は、Cisco Unified Communications Manager がコールを転送できなかったことを示します。
5	PDPDecision_Forward_Fulfilled	この値は、Cisco Unified Communications Manager がコールを転送したことを示します。
6	PDPDecision_Forward_Unfulfilled	この値は、Cisco Unified Communications Manager がコールを転送できなかったことを示します。
7	PDPDecision_Reject_Fulfilled	この値は、Cisco Unified Communications Manager がコールを拒否したことを示します。
8	PDPDecision_Reject_Unfulfilled	この値は、Cisco Unified Communications Manager がコールを拒否できなかったことを示します。

#### 関連トピック

[CDR の例, \(21 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードフィールドの説明, \(223 ページ\)](#)

[リダイレクト理由コード, \(211 ページ\)](#)



## 第 6 章

# シスコのコール詳細レコードのコード

この章では、[コール詳細レコード (Call Detail Record) ]フィールドで使用するコーデック タイプとコードについて説明します。

- [コーデック タイプ, 201 ページ](#)
- [コール終了原因コード, 204 ページ](#)
- [リダイレクト理由コード, 211 ページ](#)
- [OnBehalfof コード, 214 ページ](#)

## コーデック タイプ

次の表に、コーデックのフィールドに表示される可能性のある圧縮タイプとペイロードタイプを一覧します。

表 11: コーデック タイプ

値	説明
1	NonStandard
2	G711Alaw 64k
3	G711Alaw 56k
4	G711mu-law 64k
5	G711mu-law 56k
6	G722 64k
7	G722 56k

値	説明
8	G722 48k
9	G7231
10	G728
11	G729
12	G729AnnexA
13	Is11172AudioCap
18	Is13818AudioCap
15	G.729AnnexB
16	G.729 Annex AwAnnexB
18	GSM Full Rate
19	GSM Half Rate
20	GSM Enhanced Full Rate
25	ワイドバンド 256K
32	データ 64k
33	データ 56k
40	G7221 32K
41	G7221 24K
54	AAC
43	MP4ALATM_NA
44	MP4ALATM_64
45	MP4ALATM_56
46	MP4ALATM_128
47	MP4ALATM_48
48	MP4ALATM_32

値	説明
49	MP4ALATM_24
80-	GSM
81	ActiveVoice
82	G726 32K
83	G726 24K
84	G726 16K
86	iLBC
89	iSAC
90	OPUS
100	H261
101	H263
102	Vieo
103	H264
104	H264_SVC
105	T120
106	H224
107	T38Fax
108	TOTE
109	H265
110	H264_UC
111	XV150_MR_711U
112	NSE_VBD_711U
113	XV150_MR_729A
114	NSE_VBD_729A

値	説明
115	H264_FEC
120	Clear_Chan
222	Universal_Xcoder
257	RFC2833_DynPayload
258	PassThrough
259	Dynamic_Payload_PassThru
260	DTMF_OOB
261	Inband_DTMF_RFC2833
299	NoAudio
300	v150_LC_ModemRelay
301	v150_LC_SPRT
302	v150_LC_SSE

#### 関連トピック

[CDR の例, \(21 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[CDR に関連するマニュアル, \(6 ページ\)](#)

## コール終了原因コード

次の表に、CDR の [原因 (Cause) ] フィールドに表示される可能性があるコール終了原因コードを示します。



(注) 原因コードはコール制御において正の整数で定義されています。これは、32 ビットの符号なし (ロング型) の正の整数であり、値の範囲は 0 から +4,294,967,295 までです。



表 12: コール終了原因コード

コード	説明
0	エラーなし
1	未割り当て番号
2	指定された中継ネットワークへのルートがない (国際使用)
3	宛先へのルートがない
4	特殊情報トーンの送信
5	トランク プレフィックスのかけ間違い (国際使用)
6	チャンネルが受け入れ不可能
7	コールが確立されたチャンネル内で与えられ、配信されている
8	プリエンプション
9	プリエンプション回路が再利用に予約されている
16	正常なコールクリア
17	ユーザが通話中
18	応答ユーザなし
19	ユーザからの応答なし (ユーザにはアラートが送られる)
20	加入者不在
21	コールが拒否された
22	番号が変更された
26	非選択ユーザのクリア
27	宛先の故障
36	無効な番号形式 (アドレスが不完全)
29	ファシリティが拒否された
30	ステータス問い合わせへの応答

コード	説明
31	正常、詳細不明
34	利用できる回路/チャンネルがない
38	ネットワークの故障
39	永久フレーム モード接続がアウト オブ サービス
40	永久フレーム モード接続が動作している
41	一時エラー発生
54	スイッチング機器の輻輳
43	アクセス情報が破棄された
44	要求された回路/チャンネルが利用できない
46	先のコールがブロックされた
47	リソースの利用不可、未指定
49	QoS が利用できない
50	要求されたファシリティがサブスクライブされていない
53	サービス運用違反
54	着信コール除外
55	非公開ユーザ グループ (CUG) 内で着信コール除外
57	ベアラ機能が認められていない
58	ベアラ機能が現在使用できない
62	指定された発信アクセス情報と加入者クラスが矛盾している
63	サービスまたはオプションが利用不可、未指定
65	ベアラ機能が実装されていない
66	チャンネル タイプが実装されていない
69	要求されたファシリティが実装されていない

コード	説明
70	制限されたデジタル情報ベアラ機能しか利用できない (国際使用)
79	サービスまたはオプションが実装されていない、未指定
81	無効なコール参照値
82	識別されたチャンネルが存在しない
83	サスペンドされたコールがあるが、このコール ID がない
84	コール ID が使用中
85	サスペンドされたコールなし
86	要求されたコール ID を持つコールがクリアされている
87	ユーザが CUG (非公開ユーザグループ) のメンバでない
88	宛先に互換性がない
90	宛先番号がなく、DC がサブスクライブされていない
91	無効な中継ネットワーク (国際使用)
95	無効なメッセージ、未指定
96	必須情報要素が見つからない
97	メッセージタイプが存在しないか、または実装されていない
98	メッセージにコール状態との互換性がないか、またはメッセージタイプが存在しないか実装されていない
99	情報要素またはパラメータが存在しないか実装されていない
100	無効な情報要素コンテンツ
101	メッセージにコール状態との互換性がない
102	タイマーが切れてコールが終了した、エラーから回復するために回復ルーチンが実行された
103	パラメータが存在しないか実装されていない: 渡された (国際使用)
110	認識されないパラメータを持つメッセージが破棄された

コード	説明
111	プロトコルエラー、未指定
122	優先レベルの超過
123	デバイスのプリエンプション不可
125	帯域幅不足（シスコ固有）
126	コールスプリット（シスコ固有）
127	インターワーキング、未指定
129	優先コールの帯域幅不足
131	コール制御ディスカバリの PSTN フェールオーバー（シスコ固有）
132	IME QOS フォールバック（シスコ固有）
133	PSTN フォールバックがコールエラーを検索（シスコ固有）
134	PSTN フォールバックが DTMF タイムアウトを待機（シスコ固有）
135	IME の失敗：接続タイムアウト（シスコ固有）
136	IME の失敗：登録されていない（シスコ固有）
137	IME の失敗：ソケットエラー（シスコ固有）
138	IME の失敗：ドメインのブラックリスト化（シスコ固有）
139	IME の失敗：プレフィックスのブラックリスト化（シスコ固有）
140	IME の失敗：チケットの期限切れ（シスコ固有）
141	IME の失敗：リモートとルートの不一致（シスコ固有）
142	IME の失敗：リモートが未登録（シスコ固有）
143	IME の失敗：リモート IME が無効（シスコ固有）
144	IME の失敗：リモートの無効な IME トランク URI（シスコ固有）
145	IME の失敗：リモート URI が E164 でない（シスコ固有）
146	IME の失敗：リモート着信側番号が利用できない（シスコ固有）

コード	説明
147	IME の失敗：無効なチケット（シスコ固有）
148	IME の失敗：不明（シスコ固有）

表 13：シスコ固有のコール終了原因コード

10進数のコード値	16進数のコード値	説明
262144	0x40000	会議がいっぱい（旧 124）
393216	0x60000	コール スプリット（旧 126）このコードは、転送操作がスプリットオフされて停止したために、転送操作中にコールが終了した（転送された最終的なコールの一部ではない）場合に適用されます。これは、どのコールが機能操作の一部として終了したかに役立つ可能性があります。
458752	0x70000	会議からの任意の通話者のドロップ/会議からの最後の通話者のドロップ（旧 128）
16777257	0x1000029	CCM_SIP_400_BAD_REQUEST
33554453	0x2000015	CCM_SIP_401_UNAUTHORIZED
50331669	0x3000015	CCM_SIP_402_PAYMENT_REQUIRED
67108885	0x4000015	CCM_SIP_403_FORBIDDEN
83886081	0x5000001	CCM_SIP_404_NOT_FOUND
100663359	0x600003F	CCM_SIP_405_METHOD_NOT_ALLOWED
117440591	0x700004F	CCM_SIP_406_NOT_ACCEPTABLE
134217749	0x8000015	CCM_SIP_407_PROXY_AUTHENTICATION_REQUIRED
150995046	0x9000066	CCM_SIP_408_REQUEST_TIMEOUT
184549398	0xB000016	CCM_SIP_410_GONE
201326719	0xC00007F	CCM_SIP_411_LENGTH_REQUIRED
234881151	0xE00007F	CCM_SIP_413_REQUEST_ENTITY_TOO_LONG
251658367	0xF00007F	CCM_SIP_414_REQUEST_URI_TOO_LONG

10進数のコード値	16進数のコード値	説明
268435535	0x1000004F	CCM_SIP_415_UNSUPPORTED_MEDIA_TYPE
285212799	0x1100007F	CCM_SIP_416_UNSUPPORTED_URI_SCHEME
83886207	0x1500007F	CCM_SIP_420_BAD_EXTENSION
369098879	0x1600007F	CCM_SIP_421_EXTENSION_REQUIRED
402653311	0x1800007F	CCM_SIP_423_INTERVAL_TOO_BRIEF
419430421	0x19000015	CCM_SIP_424_BAD_LOCATION_INFO
503316501	0x1E000015	CCM_SIP_429_PROVIDE_REFERER_IDENTITY
1073741842	0x40000012	CCM_SIP_480_TEMPORARILY_UNAVAILABLE
1090519081	0x41000029	CCM_SIP_481_CALL_LEG_DOES_NOT_EXIST
1107296281	0x42000019	CCM_SIP_482_LOOP_DETECTED = 0x42000000 + EXCHANGE_ROUTING_ERROR
1124073497	0x43000019	CCM_SIP_483_TOO_MANY_HOOPS
1140850716	0x4400001C	CCM_SIP_484_ADDRESS_INCOMPLETE
1157627905	0x45000001	CCM_SIP_485_AMBIGUOUS
1174405137	0x46000011	CCM_SIP_486_BUSY_HERE
1191182367	0x4700001F	CCM_SIP_487_REQUEST_TERMINATED
1207959583	0x4800001F	CCM_SIP_488_NOT_ACCEPTABLE_HERE
1258291217	0x4B000011	CCM_SIP_491_REQUEST_PENDING
1291845649	0x4D000011	CCM_SIP_493_UNDECIPHERABLE
1409286185	0x54000029	CCM_SIP_500_SERVER_INTERNAL_ERROR
1442840614	0x56000026	CCM_SIP_502_BAD_GATEWAY
1459617833	0x57000029	CCM_SIP_503_SERVICE_UNAVAILABLE
2801795135	0xA700003F	CCM_SIP_503_SERVICE_UNAVAILABLE_SER_OPTION_NOAV
1476395110	0x58000066	CCM_SIP__504_SERVER_TIME_OUT

10進数のコード値	16進数のコード値	説明
1493172351	0x5900007F	CCM_SIP_505_SIP_VERSION_NOT_SUPPORTED
1509949567	0x5A00007F	CCM_SIP_513_MESSAGE_TOO_LARGE
2701131793	0xA1000011	CCM_SIP_600_BUSY_EVERYWHERE
2717909013	0xA2000015	CCM_SIP_603_DECLINE
2734686209	0xA3000001	CCM_SIP_604_DOES_NOT_EXIST_ANYWHERE
2751463455	0xA400001F	CCM_SIP_606_NOT_ACCEPTABLE

## リダイレクト理由コード

次の表に、レコードに表示される可能性があるリダイレクト理由コードを示します。

0.931 標準的なリダイレクト理由コード	
値	説明
0	不明
1	話中転送
2	無応答時転送
4	コール転送
5	コールピックアップ
7	コールパーク
8	コールパークピックアップ
9	CPEの故障
10	コール転送
11	コールパーク復帰
15	コール転送 (すべて)
標準的でないリダイレクト理由コード	

Q.931 標準的なリダイレクト理由コード	
値	説明
18	コール偏差
34	ブラインド転送
50	コール即時転送
66	コール転送代替パーティ
82	コール転送 (障害発生時)
98	会議
114	割込み
129	Aar
130	参照
146	置換
162	リダイレクション (3xx)
177	SIP : 通話中グリーティングの転送
178	未登録時の不在転送
207	フォロー ミー (SIP : 全グリーティングの転送)
209	サービス停止 (SIP : 通話中グリーティングの転送)
239	時刻 (SIP : 全グリーティングの転送)
242	サイレント (SIP : 無応答グリーティングの転送)
257	利用不可 (SIP : 通話中グリーティングの転送)
274	退席中 (SIP : 無応答グリーティングの転送)
303	モビリティ ハンドイン
319	モビリティ ハンドアウト
335	モビリティ フォロー ミー



0.931 標準的なリダイレクト理由コード	
値	説明
351	モビリティ リダイアル
354	録音
370	モニタリング
399	モビリティ IVR
401	モビリティ DVOR
402	モビリティ EFA
403	モビリティ セッション ハンドオフ
415	モビリティ 携帯電話ピックアップ
418	クリック ツー会議
434	未取得時の転送
450	未取得時の転送をパーカーに返送
464	コール制御ディスカバリ (コールが PSTN フェールオーバー番号にリダイレクトされることを示します)
480	Intercompany Media Engine (IME)
496	IME 接続タイムアウト
512	登録されていない IME
528	IME ソケットエラー
544	ブラックリスト化された IME ドメイン
560	ブラックリスト化された IME プレフィックス
576	IME 期限切れチケット
592	IME リモート不一致ルート
608	IME リモートが未登録
624	IME リモート : IME 無効

Q.931 標準的なリダイレクト理由コード	
値	説明
640	IME リモート：無効な IME トランク URI
656	IME リモート：URI 非 E164
672	使用できない IME リモート着信側番号
688	IME 無効チケット
704	IME 不明
720	IME PSTN フォールバック
738	プレゼンス対応ルーティング
752	エージェントのグリーティング
783	NuRD
786	ネイティブ コール キューイング (コールのエンキュー)
802	ネイティブ コール キューイング (コールのデキュー)
818	ネイティブ コール キューイング (エージェントがログインしていない場合に 2 番目の宛先にリダイレクト)
834	ネイティブ コール キューイング (キューがいっぱいの場合に 2 番目の宛先にリダイレクト)
850	ネイティブ コール キューイング (キューの最大待ち時間に達した場合に 2 番目の宛先にリダイレクト)

## OnBehalfof コード

次の表に、CDR レコードに表示される可能性がある OnBehalfof コードを示します。

表 14: OnBehalfof コード

値	説明
0	不明

値	説明
1	CctiLine
2	ユニキャスト共有リソース プロバイダ
3	コールパーク
4	会議
5	コール転送
6	ミーティング会議
7	ミーティング会議代行受信
8	メッセージ受信
9	マルチキャスト共有リソース プロバイダー
10	転送
11	SSAPI Manager
12	Device
13	コール制御
18	即時転送
15	割込み
16	ピックアップ
17	参照
18	置換
19	リダイレクト
20	コールバック
21	パス交換
22	FacCmc Manager
23	迷惑コール

値	説明
24	モビリティ
25	Aar
26	ダイレクト コール パーク
27	録音
36	モニタリング
29	CCDRequestingService
30	Intercompany Media Engine
31	FallBack Manager
32	プレゼンス対応ルーティング
33	AgentGreeting
34	NativeCallQueuing
35	MobileCallType



## 第 III 部

# コール管理レコード

- [コール管理レコード, 219 ページ](#)
- [シスコのコール管理レコードフィールドの説明, 223 ページ](#)
- [シスコのコール管理レコードの K-Factor データ, 237 ページ](#)
- [シスコのコール管理レコードの例, 241 ページ](#)





## 第 7 章

# コール管理レコード

この章では、Cisco Unified Communications Manager システムによって作成されるコール管理レコード (CMR) の形式と理論、および CMR ファイルのアクセス方法について説明します。

- [コール管理レコード, 219 ページ](#)
- [CMR 処理, 219 ページ](#)
- [CMR の設定, 221 ページ](#)
- [CPU 使用率, 221 ページ](#)

## コール管理レコード

Cisco Unified Communications Manager システムによってコール管理レコード (CMR) が生成されます。この情報は、課金記録の生成やネットワーク分析などの後処理作業に使用できます。

システムをインストールすると、CMR はデフォルトで無効のままになります。CMR は、システムの動作中にいつでも有効または無効にできます。この変更を有効にするために、Cisco Unified Communications Manager を再起動する必要はありません。システムは、数秒以内にすべての変更に対応します。CMR または診断データは、CDR データとは別に有効にされます。

### 関連トピック

- [シスコのコール管理レコード フィールドの説明, \(223 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードの K-Factor データ, \(237 ページ\)](#)
- [CDR に関連するマニュアル, \(6 ページ\)](#)
- [シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)

## CMR 処理

CMR レコードには、コールの音声とビデオのストリームの品質に関する情報が格納されます。

Cisco Unified Communications Manager がコールを発信または受信すると、そのコールの終了時に CDR レコードが生成されます。CDR はフラット ファイル (テキストファイル) に書き込まれます。Cisco Unified Communications Manager では、コール制御処理は、CDR レコードを生成します。あるコールに重大な変化 (コールの終了、転送、リダイレクト、分割、結合など) が発生すると、レコードが書き込まれます。

CMR レコードが有効である場合、書き込まれるレコードの数は、コールのタイプとコール シナリオによって異なります。診断が有効になっている場合、デバイスによりコールごとに CMR レコードが生成されます。コールに関与する IP Phone ごとに、またはメディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) ゲートウェイごとに、1 つの CMR レコードが書き込まれます。システムによりこれらのレコードは EnvProcessCdr に送信され、フラットファイルに書き込まれます。

Cisco Unified Communications Manager は CMR レコードを生成しますが、レコードに対する後処理は実行しません。これらのレコードはカンマ区切り形式のフラットファイルに書き込まれ、定期的に CDR リポジトリに渡されます。CMR ファイルは、フラットファイル内の特定のファイル名形式を表します。

### ファイル名形式

次に、ファイル名の完全な形式の例を示します。

**tag\_clusterId\_nodeId\_datetime\_seqNumber**

- tag : ファイルのタイプ (CDR または CMR) を指定します。
- clusterId : Cisco Unified Communications Manager データベースが存在するクラスタまたはサーバを指定します。
- nodeId : ノードを指定します。
- datetime : UTC 時間を `yyyymmddhhmm` 形式で指定します。
- seqnumber : シーケンス番号を指定します。

ファイル名の例は次のとおりです。

• `cmr_Cluster1_02_200404061011_6125`

### フラット ファイルの形式

CMR フラット ファイルの形式は次のとおりです。

- 1 行目 : フィールド名のリスト (カンマ区切り)
- 2 行目 : フィールドタイプのリスト (カンマ区切り)
- 3 行目 : データ (カンマ区切り)
- 4 行目 : データ (カンマ区切り)

次に、フラット ファイルの例を示します。

```
Line1-"cmrRecordType","globalCallID_callManagerId","globalCallID_callId","origLegCallIdentifier",...
Line2-INTEGGER,INTEGGER,INTEGGER,INTEGGER,...
Line3-1,1,388289,17586046,...
Line4-1,1,388293,17586054,...
```



## CMR の設定

これらのパラメータは、Cisco Unified CM Administration の [サービス パラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで設定できます。[サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウにアクセスするには、Cisco Unified CM Administration を開き、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。[詳細設定 (Advanced)] ボタンを選択して、サービスパラメータのすべてのリストを表示します。[コール診断有効 (Call Diagnostics Enabled)] パラメータを選択します。

このパラメータにより、システムが CMR (コール診断レコードとも呼ばれます) を生成するかどうかが決まります。有効な値は、Disabled (CMR を生成しない)、Enabled Only When CDR Enabled Flag is True (CDR Enabled Flag サービスパラメータが True に設定されている場合のみ CMR を生成する)、または Enabled Regardless of CDR Enabled Flag (CDR Enabled Flag サービスパラメータの設定値に関係なく CMR を生成する) です。これは必須フィールドです。デフォルトでは、無効になっています。

## CPU 使用率

シスコは、基本的なテストを行うことにより、CDR または CMR (あるいは両方) がイネーブルになっている場合の CPU 使用率を測定しました。CPU 使用度テストでは、パブリッシュを対象とする測定ではなく、サブスクリバを対象とする測定を行いました。CDR Loader の設定や外部の課金サーバの [CDR 管理 (CDR Management)] の設定により、実際の結果が異なることがあります。次の表に、これらのテストの結果を示します。



(注) これらのテストは、Cisco Unified Communications Manager リリース 8.0(1) で実行されています。

表 15: CDR および CMR の CPU 使用率

CDR および CMR イネーブル/ ディセーブル	Cisco Unified CM の CPU 使 用度の平均増 加率 (%)	合計 CPU 使用 率の平均増加率 (%)	Cisco Unified CM の CPU の 増加率 (%)	合計 CPU の増加 率 (%)
CDR ディセーブル、CMR ディ セーブル	6.17	11.15	-	-
CDR イネーブル、CMR ディ セーブル	6.99	12.10	13.18	8.57
CDR ディセーブル、CMR イ ネーブル	6.38	11.24	3.43	0.86

CDR および CMR イネーブル/ ディセーブル	Cisco Unified CM の CPU 使 用度の平均増 加率 (%)	合計 CPU 使用 率の平均増加率 (%)	Cisco Unified CM の CPU の 増加率 (%)	合計 CPU の増加 率 (%)
CDR イネーブル、CMR イネー ブル	7.71	13.04	24.92	17.02



## 第 8 章

# シスコのコール管理レコード フィールドの説明

この章では、コール管理レコード (CMR) のフィールドについて説明します。

- [CMR フィールドの説明, 223 ページ](#)

## CMR フィールドの説明

次の表に、CMR のフィールド、値の範囲、およびフィールドの説明を CMR に現れる順序で示します。

表 16: **CMR** フィールドの説明

フィールド名	値の範囲	説明
cdrRecordType	0、1、または 2	<p>このフィールドでは、この特定のレコードのタイプを指定します。適用される有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 0: 開始コール詳細レコード (未使用)</li><li>• 1: 終了コール詳細レコード</li><li>• 2: CMR レコード</li></ul> <p>デフォルト値: CMR の場合、このフィールドでは常に 2 を指定します。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
globalCallID_callManagerId	正の整数	<p>このフィールドは Cisco Unified Communications Manager の一意の ID を表します。</p> <p>このフィールドは、グローバル コール ID の半分を構成します。グローバル コール ID は、次のフィールドから構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• globalCallId_callId</li> <li>• globalCallID_callManagerID</li> </ul> <p>同じ1つの標準コールに関連付けられるすべてのレコードは、同じグローバル コール ID が設定されます。</p> <p>デフォルト：このフィールドは常に設定されています。</p>
globalCallId_callId	正の整数	<p>このフィールドは、各コールに割り当てられる一意のコール ID の値を表します。システムは、この ID を各コールサーバ上で別々に割り当てます。各値は、コール開始時に連番で選択されます。成功または不成功に関係なく、各コールには値が割り当てられます。</p> <p>このフィールドは、グローバル コール ID の半分を構成します。グローバル コール ID は、次の2つのフィールドから構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• globalCallId_callId</li> <li>• globalCallID_callManagerID</li> </ul> <p>同じ1つの標準コールに関連付けられるすべてのレコードは、同じグローバル コール ID が設定されます。</p> <p>デフォルト：このフィールドは常に設定されています。</p>
nodeId	正の整数	<p>このフィールドでは、このレコードが生成されるサーバ（つまり、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のノード）を指定します。</p> <p>デフォルト：このフィールドは常に設定されています。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
directoryNumber	整数	このフィールドでは、これらの診断が収集されるデバイスの電話番号を指定します。 デフォルト：このフィールドは常に設定されています。
callIdentifier	正の整数	このフィールドでは、このレコードが関連するコールレグを指定します。 デフォルト：このフィールドは常に設定されています。
dateTimeStamp	整数	このフィールドは、デバイスがオンフックになるおおよその時刻を表します。Cisco Unified Communications Manager は、電話機が診断情報の要求に応答する時刻を記録します。 デフォルト：このフィールドは常に設定されています。
numberPacketsSent	整数	このフィールドは、この接続での伝送を開始してからデバイスが送信したルーティングテーブルプロトコル (RTP) データパケットの合計数を示します。接続が「受信専用」モードに設定されている場合、この値はゼロのままになります。 デフォルト：0
numberOctetsSent	整数	このフィールドでは、この接続で伝送を開始してからデバイスが RTP データパケットで送信したペイロードオクテット（つまり、ヘッダーやパディングを含まない）の合計数を指定します。接続が「受信専用」モードに設定されている場合、この値はゼロのままになります。 デフォルト：0

フィールド名	値の範囲	説明
numberPacketsReceived	整数	このフィールドは、この接続で受信を開始してからデバイスが受信した RTP データ パケットの合計数を表します。マルチキャスト コールの場合、この数には、異なるソースから受信されたパケットが含まれます。接続が「“送信専用”」モードに設定されている場合、この値はゼロのままになります。  デフォルト : 0
numberOctetsReceived	整数	このフィールドでは、この接続で受信を開始してからデバイスが RTP データ パケットで受信したペイロード オクテット（つまり、ヘッダーやパディングを含まない）の合計数を指定します。マルチキャスト コールの場合、この数には、異なるソースから受信されたパケットが含まれます。接続が「“送信専用”」モードに設定されている場合、この値はゼロのままになります。  デフォルト : 0
numberPacketsLost	整数	このフィールドでは、受信開始以降に失われた RTP データ パケットの合計数を指定します。この数は、期待されたパケットの数から実際に受信されたパケットの数を引いた数を示します。ここで、受信されたパケットの数には、遅延パケットまたは重複パケットの数も含まれます。重複パケットがある場合には、遅れて到着したパケットは損失として計上されないため、失われたパケットの数が負になる場合があります。期待されたパケットの数は、受信された拡張最終シーケンス番号（以下に定義）から、受信された開始シーケンス番号を引いた数を示します。接続が「“送信専用”」モードに設定されている場合、この値はゼロのままになります。詳細については、RFC 1889 を参照してください。  デフォルト : 0

フィールド名	値の範囲	説明
ジッタ (jitter)	整数	<p>このフィールドは、RTP データ パケットの到着間の時間の統計的な変動の推定値を表します。これはミリ秒単位で測定され、符号なし整数として表されます。到着間ジッタ J は、パケットのペアの送信側と比較された受信側のパケット帯域幅の差 D の平均偏差（平滑化された絶対値）を指定します。RFC 1889 には、詳細な計算アルゴリズムが記載されています。接続が「送信専用」モードに設定されている場合、この値はゼロのままになります。</p> <p>デフォルト：0</p>
遅延 (latency)	整数	<p>このフィールドは、ネットワーク遅延の推定値をミリ秒で表します。この値は、これらのメッセージの受信時に測定された RTP Control Protocol (RTCP) メッセージの NTP タイムスタンプとレシーバの NTP タイムスタンプとの差の平均値を表します。Cisco Unified Communications Manager は、すべての推定値を合計し、これを受信した RTCP メッセージの数で除して平均を算出します。詳細については、RFC 1889 を参照してください。</p> <p>デフォルト：0</p> <p>(注) CMR レコードには、すべての電話ロードについて遅延が示されるわけではありません。たとえば、SIP 9.2.1 および 9.2.2 の場合、遅延はこれらのロードで実装されていないため表示されません。</p>
pkid	テキスト文字列	<p>このフィールドは、データベースが各行を一意に識別するために内部で使用するテキスト文字列を示します。このテキスト文字列は、コール自体には意味がありません。</p> <p>デフォルト：システムにより、このフィールドには常に一意の ID が入力されます。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
directoryNumberPartition	テキスト 文字列	このフィールドでは、ディレクトリ番号パーティションを指定します。  デフォルト：空の文字列「」。パーティションが存在しない場合、このフィールドは空のままになることがあります。
globalCallId_ClusterId	テキスト 文字列	このフィールドは、単一の Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unified Communications Manager のクラスタを識別する一意の ID を表します。  このフィールドはインストール時にシステムによって生成されますが、Cisco Unified Communications Manager ではこれ (globalCallId_ClusterId + globalCallId_callManagerId + globalCallId_callId) を使用しません。  デフォルト：このフィールドは常に設定されています。
deviceName	テキスト 文字列	このフィールドは、デバイスの名前を表します。  デフォルト：空の文字列「」。デバイス名が存在しない場合、このフィールドは空のままになることがあります。



フィールド名	値の範囲	説明
varVQMetrics	テキスト 文字列	<p>このフィールドには、桁数が可変の音声品質メトリックが含まれます。このフィールドは、セミコロンで区切られた音声品質メトリックの文字列で構成されます。</p> <p>文字列の形式は次のとおりです。</p> <p><code>fieldName=value;fieldName=value.precision</code></p> <p>音声品質のデータの例を次に示しますが、名前は異なる場合があります。</p> <p><code>"MLQK=4.5000;MLQKav=4.5000;MLQKmn=4.5000;MLQKmx=4.5000;MLQKvr=0.95;CCR=0.0000;ICR=0.0000;ICRmx=0.0000;CS=0;SCS=0"</code></p> <p>(注) K-Factor データの完全なリストについては、Cisco Unified Communications Manager の CMR に保存される K-Factor データに関するトピックを参照してください。</p>
duration	整数	この値は秒数で表現される音声セッションの時間です。これは、SIP 電話に対してのみ報告されます。
videoContentType	テキスト 文字列	ビデオストリームのタイプを指定します。「メイン (main)」、「スピーカー (speaker)」または「スライド (slides)」のいずれかになります。音声のみのコールでは、ビデオメトリックは指定されません。
videoDuration	整数	この値は秒数で表現される最初のビデオセッションの時間です。
numberVideoPacketsSent	整数	この接続での伝送を開始してからデバイスが送信した RTP データ パケットの総数です。
numberVideoOctetsSent	整数	この接続での伝送を開始してからデバイスが RTP データ パケットで送信したペイロード オクテット (つまり、ヘッダーやパディングを含まない) の合計数です。
numberVideoPacketsReceived	整数	この接続での受信を開始してからデバイスが受信した RTP データ パケットの総数です。

フィールド名	値の範囲	説明
numberVideoOctetsReceived	整数	この接続での受信を開始してからデバイスが RTP データ パケットで受信したペイロード オクテット（つまり、ヘッダーやパディングを含まない）の合計数です。
numberVideoPacketsLost	整数	この接続での受信を開始してから失われた RTP データ パケットの総数。
videoAverageJitter	整数	この接続での RTP データ パケットの到着間の時間の統計的な変動の推定値を表します。これはミリ秒単位で測定され、符号なし整数として表されます。詳細については、RFC 3550 を参照してください。
videoRoundTripTime	整数	この接続の2つのエンドポイントの間の平均ラウンドトリップ時間の尺度です。ミリ秒単位で表されます。詳細については、RFC 3550 および RFC 3611 を参照してください
videoOneWayDelay	テキスト 文字列	この接続のエンドポイント間の平均一方向遅延（OWD）の尺度です。エンドポイントの時刻が同期されていて（同じ NTP ソース）で、ミリ秒単位で測定されている場合にのみ使用できます。それ以外の場合は、「NA」になります。

フィールド名	値の範囲	説明
videoTransmissionMetrics	テキスト 文字列	<p>このフィールドは、この接続での RTP 伝送に関連するシスコ定義のメトリックの変数です。これらのメトリックは、セミコロンで区切られます。この文字列の形式は次のとおりです。</p> <pre>CiscoTxVM="TxCodec=xxx; TxBw=xxx;TxBwMax=xxx; TxReso=xxx;TxFrameRate=xxx"</pre> <p>TxCodec は、送信されたビデオストリームに使用されるビデオコーデックのタイプを指定します。</p> <p>TxBw は、送信されたビデオストリームに使用される実際の帯域幅を指定します。</p> <p>TxBwMax は、送信されたビデオストリーム用にネゴシエートされた最大帯域幅を指定します。</p> <p>TxReso は、送信されたビデオストリームの解像度を指定します（例：640×480）。</p> <p>TxFrameRate は、送信されたビデオストリームのフレーム/秒で測定された平均フレームレートを指定します。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
videoReceptionMetrics	テキスト 文字列	<p>このフィールドは、この接続の RTP 受信に関連するシスコ定義のメトリックの変数です。これらのメトリックは、セミコロンで区切られます。この文字列の形式は次のとおりです。</p> <pre>CiscoRxVM="CS=xxx; SCS=xxx;DSCP=xxx; DSCPunad=xxx; RxFramesLost=xxx;RxCodec=xxx; RxBw=xxx;RxBwMax=xxx; RxReso=xxx;RxFrameRate=xxx"</pre> <p>CS は、受信ビデオストリームのフレーム損失発生秒数のメトリックを指定します。</p> <p>SCS は、受信ビデオストリームの深刻なフレーム損失発生秒数を指定します。</p> <p>DSCP は、エンドポイントでマークされた受信ビデオストリームの DSCP 値を確認するのに便利です。</p> <p>DSCPunad は、エンドポイントでマークされた受信ビデオストリームの DSCP 値を確認するのに便利です。</p> <p>RxCodec は、受信ビデオストリームに使用するビデオコーデックのタイプを指定します。</p> <p>RxBw は、受信ビデオストリームに使用する実際の帯域幅を指定します。</p> <p>RxBwMax は、受信ビデオストリーム用にネゴシエートされた最大帯域幅を指定します。</p> <p>RxReso は、受信ビデオストリームの解像度を特定します（例：640×480）。</p> <p>RxFrameRate は受信ビデオストリームのフレーム/秒で測定された平均フレーム レートを指定します。</p>
videoContentType_channel2	テキスト 文字列	<p>2 番目のビデオストリームのタイプを指定します（存在する場合）。2 番目のビデオストリームが存在しない場合、2 番目のビデオストリームの他のメトリックは指定されません。</p>
videoDuration_channel2	整数	<p>秒数で表現される 2 番目のビデオストリームの時間です。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
numberVideoPacketsSent_channel2	整数	この接続での伝送を開始してからデバイスが送信した RTP データ パケットの総数です。
numberVideoOctetsSent_channel2	整数	この接続での伝送を開始してからデバイスが RTP データ パケットで送信したペイロード オクテット (つまり、ヘッダーやパディングを含まない) の合計数です。
numberVideoPacketsReceived_channel2	整数	この接続での受信を開始してからデバイスが受信した RTP データ パケットの総数です。
numberVideoOctetsReceived_channel2	整数	この接続での受信を開始してからデバイスが RTP データ パケットで受信したペイロード オクテット (つまり、ヘッダーやパディングを含まない) の合計数です。
numberVideoPacketsLost_channel2	整数	この接続での受信を開始してから失われた RTP データ パケットの総数。
videoAverageJitter_channel2	整数	この接続での RTP データ パケットの到着間の時間の統計的な変動の推定値を表します。これはミリ秒単位で測定され、符号なし整数として表されます。詳細については、RFC 3550 を参照してください。
videoRoundTripTime_channel2	整数	この接続の2つのエンドポイントの間の平均ラウンドトリップ時間の尺度です。ミリ秒単位で表されます。詳細については、RFC3550 およびRFC 3611 を参照してください。
videoOneWayDelay_channel2	整数	この接続のエンドポイント間の平均一方向遅延 (OWD) の尺度です。エンドポイントの時刻が同期されていて (同じ NTP ソース) で、ミリ秒単位で測定されている場合にのみ使用できます。それ以外の場合は、「NA」になります。

フィールド名	値の範囲	説明
videoReceptionMetrics_channel2	テキスト 文字列	<p>このフィールドは、この接続での RTP 伝送に関連するシスコ定義のメトリックの変数です。これらのメトリックは、セミコロンで区切られます。この文字列の形式は次のとおりです。</p> <pre>CiscoTxVM="TxCodec=xxx; TxBw=xxx;TxBwMax=xxx; TxReso=xxx;TxFrameRate=xxx"</pre> <p>TxCodec は、送信されたビデオストリームに使用されるビデオコーデックのタイプを指定します。</p> <p>TxBw は、送信されたビデオストリームに使用される実際の帯域幅を指定します。</p> <p>TxBwMax は、送信されたビデオストリーム用にネゴシエートされた最大帯域幅を指定します。</p> <p>TxReso は、送信されたビデオストリームの解像度を指定します（例：640×480）。</p> <p>TxFrameRate は、送信されたビデオストリームのフレーム/秒で測定された平均フレームレートを指定します。</p>

フィールド名	値の範囲	説明
videoTransmissionMetrics_channel2	テキスト 文字列	<p>このフィールドは、この接続の RTP 受信に関連するシスコ定義のメトリックの変数です。これらのメトリックは、セミコロンで区切られます。この文字列の形式は次のとおりです。</p> <pre>CiscoRxVM="CS=xxx; SCS=xxx;DSCP=xxx; DSCPunad=xxx; RxFramesLost=xxx;RxCodec=xxx; RxBw=xxx;RxBwMax=xxx; RxReso=xxx;RxFrameRate=xxx"</pre> <p>CS は、受信ビデオストリームのフレーム損失発生秒数のメトリックを指定します。</p> <p>SCS は、受信ビデオストリームの深刻なフレーム損失発生秒数を指定します。</p> <p>DSCP は、エンドポイントでマークされた受信ビデオストリームの DSCP 値を確認するのに便利です。</p> <p>DSCPunad は、エンドポイントでマークされた受信ビデオストリームの DSCP 値を確認するのに便利です。</p> <p>RxCodec は、受信ビデオストリームに使用するビデオコーデックのタイプを指定します。</p> <p>RxBw は、受信ビデオストリームに使用する実際の帯域幅を指定します。</p> <p>RxBwMax は、受信ビデオストリーム用にネゴシエートされた最大帯域幅を指定します。</p> <p>RxReso は、受信ビデオストリームの解像度を特定します (例: 640×480)。</p> <p>RxFrameRate は受信ビデオストリームのフレーム/秒で測定された平均フレーム レートを指定します。</p>

#### 関連トピック

[コール管理レコード, \(219 ページ\)](#)

[シスコのコール詳細レコードフィールドの説明, \(159 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの K-Factor データ, \(237 ページ\)](#)

[CDR に関連するマニュアル, \(6 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)







## 第 9 章

# シスコのコール管理レコードのK-Factorデータ

この章では、シスコのコール管理レコード（CMR）にある K-Factor データについて説明します。

- [K-Factor データ](#), 237 ページ

## K-Factor データ

K-Factor とは ITU 標準 P.VTQ で定義されているエンドポイントの平均オピニオン評点（MOS）の推定アルゴリズムを意味します。これは、特定の障害パターンに対する Perceptual Evaluation of Speech Quality（PESQ）数の平均値を推定するのに使用される、一般的な推定量を示します。

MOS は、適切に設計されたリスニング試験の結果に関連しています。すべての MOS 試験では、ITU 規格 P.862.1 で定義されたとおりに 5 段階の PESQ スケールを使用します。ITU 規格 P.862.1 では、狭帯域電話網および音声コーデックのエンドツーエンドの音声品質アセスメントのための客観的方法として PESQ が説明されています。

MOS 推定値は、フレーム損失密度に反比例する数値を示します。受信側で損失または廃棄されるフレームが多くなるにつれて、明瞭さが低下します。これらのフレームの損失または廃棄を秘匿と考えます。秘匿統計情報は、障害の発生したネットワークでのパケット（フレーム）損失およびその音声品質への影響を測定します。

K-Factor は、ドロップアウトや震音などの実際のパケット損失が原因となって引き起こされる歪みによる、平均ユーザ不快感の重み付け推定値となります。エコーなどの遅延に関係する障害の影響は、推定しません。これにより、会話品質（MOS-CQO）ではなくリスニング品質（MOS-LQO）の推定値、および 1（音声品質が悪い）から 5（音声品質が非常に良い）までの範囲の平均ユーザ不快感の測定値が提供されます。

K-Factor は、多数のスピーチデータベースのスピーチサンプルを使用してトレーニングまたは調整されます。このとき、P.862.1 の値に関連付けられた各トレーニングセンテンスやネットワークの状態の間隔は 8 秒間です。より正確なスコアのために、アクティブな音声の 8 秒ごとにシステムが K-Factor 推定値を生成します。

K-Factor およびその他の MOS の推定値は、二次的なもの、または結果として得られた統計情報と見なしてください。これらは、問題が重要になった後でのみネットワーク オペレータにフレーム損失を警告するものであるためです。重要な統計情報はパケットカウント、秘匿比率、秘匿秒数カウンタです。これらはネットワーク障害が耳に聞こえるレベルになる前や、MOS で目に見えるようになる前にネットワーク オペレータに警告を發します。

次の表に、Cisco Unified Communications Manager の CMR に保存されている K-Factor の日付を示します。

表 17: Cisco Unified Communications Manager の CMR に保存されている K-Factor データ

フィールド名	電話機のディスプレイの名前	D&I のユーザ インターフェイスのテキストと説明
CCR	累積フレーム損失率 (Cumulative Conceal Ratio)	[累積フレーム損失率 (Cumulative Conceal Ratio)] は、コール開始後に測定された発話時間について秘匿時間の累積率を示します。
ICR	直近フレーム損失率 (Interval Conceal Ratio)	[直近フレーム損失率 (Interval Conceal Ratio)] は、アクティブな音声の最後の 3 秒の発話時間について、秘匿時間の割合である間隔ベースの平均秘匿率を示します。
ICRmx	最大フレーム損失率 (Max Conceal Ratio)	[直近最大フレーム損失率 (Interval Conceal Ratio Max)] は、コール中に測定される最大秘匿比率を示します。
CS	フレーム損失発生秒数 (Conceal Secs)	[フレーム損失発生秒数 (Conceal Secs)] は、コールの間に秘匿が測定された時間を示します。
SCS	深刻なフレーム損失発生秒数 (Severely Conceal Secs)	[深刻なフレーム損失発生秒数 (Severely Conceal Secs)] は、大量に秘匿が測定された時間を示します。測定される秘匿が、通常 50 ミリ秒または約 5% を超える場合、音声は非常に聞き取りにくくなる可能性があります。
MLQK	MOS LQK	[MOS リスニング品質 K-Factor (MOS Listening Quality K-factor)] は、受信信号パス上の音声の最後の 8 秒の MOS スコアの推定値を提供します。
MLQKmn	最小 MOS LQK (Min MOS LQK)	[最小 MOS リスニング品質 K-Factor (MOS Listening Quality K-factor Min)] は、コールの開始から測定された最小スコアを示し、最も品質の悪い音声を 8 秒間隔で示します。

フィールド名	電話機のディスプレイの名前	D&I のユーザ インターフェイスのテキストと説明
MLQKmx	最大 MOS LQK (Max MOS LQK)	[最大 MOS リスニング品質 K-Factor (MOS Listening Quality K-factor Max)] は、コールの開始から測定された最大スコアを示し、最も品質の良い音声を 8 秒間隔で示します。
MLQKav	平均 MOS LQK (Avg MOS LQK)	[平均 MOS リスニング品質 K-Factor (MOS Listening Quality K-factor Avg8)] は、コールの開始から測定されたスコアの実行中の平均値を示します。

次の表に CMR 内の K-Factor (varQMetrics) をサポートするデバイスを示します。

K-Factor サポートの凡例は次のとおりです。

- X : SCCP と SIP の両方を実行している電話機によるサポート
- S : SCCP 機能のみ
- SI : SIP 機能のみ
- G : Cisco 5510 DSP でのみ使用可能

表 18 : CMR で K-Factor (varVQMetrics) をサポートするデバイス

Device	CMR での K-Factor (varVQMetrics) サポート
Cisco Unified IP Phone 7906	X
Cisco Unified IP Phone 7911	X
Cisco Unified IP Phone 7921	X
Cisco Unified IP Phone 7931	X
Cisco Unified IP Phone 7940	S
Cisco Unified IP Phone 7941	X
Cisco Unified IP Phone 7942-G	X
Cisco Unified IP Phone 7942-G/GE	X
Cisco Unified IP Phone 7945	X
Cisco Unified IP Phone 7960	S

Device	CMR での K-Factor (varVQMetrics) サポート
Cisco Unified IP Phone 7961	X
Cisco Unified IP Phone 7962-G	X
Cisco Unified IP Phone 7962-G/GE	X
Cisco Unified IP Phone 7965	X
Cisco Unified IP Phone 7970	X
Cisco Unified IP Phone 7971	X
Cisco Unified IP Phone 7972-G/GE	X
Cisco Unified IP Phone 7975	X
3x MGCP ゲートウェイ	G
5x MGCP ゲートウェイ	G

#### 関連トピック

[コール管理レコード, \(219 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードフィールドの説明, \(223 ページ\)](#)

[CDR に関連するマニュアル, \(6 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの例, \(241 ページ\)](#)



# 第 10 章

## シスコのコール管理レコードの例

この章では、コール管理レコード (CMR) の例を説明します。

- [CMR の例, 241 ページ](#)

### CMR の例

通常のコール (IP 電話から IP 電話へ) 中に作成される CMR の例を次に示します。通常のコールでは、コールごとに CDR が 1 つと CMR が 2 つ (各エンドポイントに 1 つずつ)、計 3 つのレコードが記録されます。

この例では、電話番号 1010 と 1014 の間のコールを表しています。通常のコール中に生成される CDR のサンプルについては、関連項目を参照してください。

#### 例1 : SCCP から SCCP への電話

2 台の Cisco IP Phone の間でコールが成功すると、コールの終了時に各エンドポイントに 1 つずつ、合計 2 つの CMR が生成されます。次の例では、両エンドポイントが、新しいビデオメトリックをサポートしない SCCP 電話です。どちらもデフォルトのままです。



(注) CMR の [時間 (duration)] フィールドは、SIP 電話でのみ入力されます。

#### CMR 1

フィールド名	値
cdrRecordType	2
globalCallID_callManagerId	1
globalCallID_callId	96004
nodeId	1

フィールド名	値
directoryNum	1010
callIdentifier	28141535
dateTimeStamp	1202412060
numberPacketsSent	358
numberOctetsSent	61576
numberPacketsReceived	351
numberOctetsReceived	60372
numberPacketsLost	1
ジッタ (jitter)	0
遅延 (latency)	0
pkid	e95df5b1-2914-4a03-befb-0f58bf16392d
directoryNumPartition	
globalCallIdClusterID	StandAloneCluster
deviceName	SEP003094C39BE7
varVQMetrics	MLQK=0.0000;MLQKav=0.0000; MLQKmn=0.0000;MLQKmx=0.0000;MLQKvr=0.95; CCR=0.0000;ICR=0.0000;ICRmx=0.0000;CS=0; SCS=0
duration	
videoContentType	
videoDuration	
numberVideoPacketsSent	
numberVideoOctetsSent	
numberVideoPacketsReceived	
numberVideoOctetsReceived	
numberVideoPacketsLost	

フィールド名	値
videoAverageJitter	
videoRoundTripTime	
videoOneWayDelay	
videoReceptionMetrics	
videoTransmissionMetrics	
videoContentType_channel2	
videoDuration_channel2	
numberVideoPacketsSent_channel2	
numberVideoOctetsSent_channel2	
numberVideoPacketsReceived_channel2	
numberVideoOctetsReceived_channel2	
numberVideoPacketsLost_channel2	
videoAverageJitter_channel2	
videoRoundTripTime_channel2	
videoOneWayDelay_channel2	
videoReceptionMetrics_channel2	
videoTransmissionMetrics_channel2	

**CMR 2**

フィールド名	値
cdrRecordType	2
globalCallID_callManagerId	1
globalCallID_callId	96004
nodeId	1
directoryNum	1004

フィールド名	値
callIdentifier	28141536
dateTimeStamp	1202412060
numberPacketsSent	352
numberOctetsSent	60544
numberPacketsReceived	356
numberOctetsReceived	61232
numberPacketsLost	1
ジッタ (jitter)	0
遅延 (latency)	0
pkid	545ff25a-5475-4882-af09-c7b714802703
directoryNumPartition	
globalCallIdClusterID	StandAloneCluster
deviceName	SEP0007EBBA6376
varVQMetrics	MLQK=0.0000;MLQKav=0.0000; MLQKmn=0.0000; MLQKmx=0.0000;MLQKvr=0.95; CCR=0.0000; ICR=0.0000;ICRmx=0.0000;CS=0; SCS=0
duration	
videoContentType	
videoDuration	
numberVideoPacketsSent	
numberVideoOctetsSent	
numberVideoPacketsReceived	
numberVideoOctetsReceived	
numberVideoPacketsLost	
videoAverageJitter	



フィールド名	値
videoRoundTripTime	
videoOneWayDelay	
videoReceptionMetrics	
videoTransmissionMetrics	
videoContentType_channel2	
videoDuration_channel2	
numberVideoPacketsSent_channel2	
numberVideoOctetsSent_channel2	
numberVideoPacketsReceived_channel2	
numberVideoOctetsReceived_channel2	
numberVideoPacketsLost_channel2	
videoAverageJitter_channel2	
videoRoundTripTime_channel2	
videoOneWayDelay_channel2	
videoReceptionMetrics_channel2	
videoTransmissionMetrics_channel2	

## 例 2 : メイン ビデオ メトリックをサポートする SIP to SIP 電話

次の CMR フラット ファイルは、ビデオ メトリックをサポートする SIP to SIP 電話の例です。

フィールド名	値
cdrRecordType	2
globalCallID_callManagerId	1
globalCallID_callId	17001
nodeId	1
directoryNum	139098

フィールド名	値
callIdentifier	32216238
dateTimeStamp	1379591701
numberPacketsSent	170
numberOctetsSent	10370
numberPacketsReceived	169
numberOctetsReceived	12337
numberPacketsLost	0
ジッタ (jitter)	2
遅延 (latency)	0
pkid	ea0cddd0-7ddd-4a4e-a697-ca405e39292c
directoryNumPartition	
globalCallId_ClusterID	StandAloneCluster
deviceName	SEPD0C7891411C3
varVQMetrics	MLQK=0.0000;MLQKav=0.0000;MLQKmn=0.0000; MLQKmx=0.0000;MLQKvr=;CCR=0.0000;ICR=0.0000; ICRmx=0.0000;CS=0;SCS=0
duration	3
videoContentType	メイン (main)
videoDuration	3
numberVideoPacketsSent	140
numberVideoOctetsSent	126355
numberVideoPacketsReceived	141
numberVideoOctetsReceived	128214
numberVideoPacketsLost	0
videoAverageJitter	7

フィールド名	値
videoRoundTripTime	0
videoOneWayDelay	0
videoReceptionMetrics	RxCodec=H264;RxBw=377;RxReso=640x360; RxFrameRate=31;RxFramesLost=0
videoTransmissionMetrics	TxCodec=H264;TxBw=368;TxReso=640x360; TxFrameRate=30
videoContentType_channel2	
videoDuration_channel2	
numberVideoPacketsSent_channel2	
numberVideoOctetsSent_channel2	
numberVideoPacketsReceived_channel2	
numberVideoOctetsReceived_channel2	
numberVideoPacketsLost_channel2	
videoAverageJitter_channel2	
videoRoundTripTime_channel2	
videoOneWayDelay_channel2	
videoReceptionMetrics_channel2	
videoTransmissionMetrics_channel2	

### 関連トピック

[コール管理レコード, \(219 ページ\)](#)

[CDR の例, \(21 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコードの K-Factor データ, \(237 ページ\)](#)

[シスコのコール管理レコード フィールドの説明, \(223 ページ\)](#)

[CDR に関連するマニュアル, \(6 ページ\)](#)

[通常のコール \(Cisco Unified IP Phone から Cisco Unified IP Phone へ\), \(129 ページ\)](#)





## 索引

### A

- AAC コール [23](#)
- AAC コールの CDR の例 [23](#)
- authCodeDescription [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- authorizationCodeValue [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- authorizationLevel [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)

### C

- C 割込み [59](#)
  - CDR の例 [59](#)
- callIdentifier [223](#)
  - CMR フィールド名 [223](#)
- callingPartyNumber [149, 159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
  - URL [149](#)
- callingPartyNumberPartition [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- callingPartyUnicodeLoginUserID [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- callSecuredStatus [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- CAR [3, 9, 11, 21, 159, 201](#)
  - CDR/CMR レコードの設定 [3, 9, 11, 21, 159, 201](#)
- CDR Log Calls With Zero Duration Flag サービス パラメータ [26](#)
- CDR onDemand サービス [6](#)
- CDR Repository Manager [5](#)
- CDR エージェント [4](#)
- CDR データのバックアップ [6](#)
- CDR の例 [109, 149](#)
  - 論理パーティション [109](#)
- CDR リポジトリ [9, 219](#)
- CDR 管理 [3](#)

- CDR 処理 [219](#)
- CDRM 機能 [3](#)
- cdrRecordType [159, 223](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
  - CMR フィールド名 [223](#)
- Cisco Unified CM のアップグレード [6](#)
- Cisco Unified IP Phone [237](#)
  - K-Factor のサポート [237](#)
- clientMatterCode [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- CMC [60](#)
  - CDR の例 [60](#)
- CMR [221](#)
  - 設定 [221](#)
- CMR の設定 [221](#)
- CMR フィールドの説明 (診断) [223](#)
  - 表 [223](#)
- CMR レコード [223, 241](#)
- CPU 使用率 [221](#)

### D

- dateTimeConnect [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- dateTimeDisconnect [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- dateTimeOrigination [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- dateTimeStamp [223](#)
  - CMR フィールド名 [223](#)
- destCallTerminationOnBehalfOf [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- destCause\_location [159](#)
- destCause\_value [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)
- destConversationID [159](#)
  - CDR フィールド名 [159](#)

destDeviceName [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destDTMFMethod [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destIpAddr [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destLegCallIdentifier [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destMediaCap\_Bandwidth [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destMediaCap\_g723BitRate [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destMediaCap\_maxFramesPerPacket [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destMediaCap\_payloadCapability [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destMediaTransportAddress\_IP [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destMediaTransportAddress\_Port [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destNodeId [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destPrecedenceLevel [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destRSVPAudioStat [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destRSVPideoStat [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destSpan [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destVideoCap\_Bandwidth [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destVideoCap\_Codec [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destVideoCap\_Resolution [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destVideoTransportAddress\_IP [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 destVideoTransportAddress\_Port [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 deviceName [223](#)  
     CMR フィールド名 [223](#)  
 directoryNumber [223](#)  
     CMR フィールド名 [223](#)  
 directoryNumberPartition [223](#)  
     CMR フィールド名 [223](#)  
 DTMF [71](#)  
     CDR の例 [71](#)  
 DTMF 方式 [71](#)

duration [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)

## F

FAC [77](#)  
     CDR の例 [77](#)  
 finalCalledPartyNumber [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 finalCalledPartyNumberPartition [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 finalCalledPartyUnicodeLoginUserID [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)

## G

globalCallId\_callId [223](#)  
     CMR フィールド名 [223](#)  
 globalCallID\_callId [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 globalCallID\_callManagerId [223](#)  
     CMR フィールド名 [223](#)  
 globalCallID\_callManagerID [159](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
 globalCallId\_ClusterId [159, 223](#)  
     CDR フィールド名 [159](#)  
     CMR フィールド名 [223](#)

## H

H.239 [86](#)  
     CDR の例 [86](#)

## I

idivert [95](#)  
 iDivert [95](#)  
     CDR の例 [95](#)  
 iLBC コール [88](#)  
     CDR の例 [88](#)  
 IP アドレス [16](#)  
 IPv6 コール [101](#)

**J**

joinOnBehalfOf 159  
     CDR フィールド名 159

**K**

K-Factor データ 237

**L**

lastRedirectDn 159  
     CDR フィールド名 159  
 lastRedirectDnPartition 159  
     CDR フィールド名 159  
 lastRedirectRedirectOnBehalfOf 159  
     CDR フィールド名 159  
 lastRedirectRedirectReason 159  
     CDR フィールド名 159

**N**

nodeId 223  
     CMR フィールド名 223  
 numberOctetsReceived 223  
     CMR フィールド名 223  
 numberOctetsSent 223  
     CMR フィールド名 223  
 numberPacketsLost 223  
     CMR フィールド名 223  
 numberPacketsReceived 223  
     CMR フィールド名 223  
 numberPacketsSent 223  
     CMR フィールド名 223

**O**

OnBehalfOf コード 214  
     表 214  
 origCalledPartyRedirectOnBehalfOf 159  
     CDR フィールド名 159  
 origCalledPartyRedirectReason 159  
     CDR フィールド名 159  
 origCallTerminationOnBehalfOf 159  
     CDR フィールド名 159  
 origCause\_location 159  
     CDR フィールド名 159

origCause\_value 159  
     CDR フィールド名 159  
 origConversationID 159  
     CDR フィールド名 159  
 origDeviceName 159  
     CDR フィールド名 159  
 origDTMFMethod 159  
     CDR フィールド名 159  
 originalCalledPartyNumber 159  
     CDR フィールド名 159  
 originalCalledPartyNumberPartition 159  
     CDR フィールド名 159  
 origIpAddr 159  
     CDR フィールド名 159  
 origLegCallIdentifier 159  
     CDR フィールド名 159  
 origMediaCap\_Bandwidth 159  
     CDR フィールド名 159  
 origMediaCap\_g723BitRate 159  
     CDR フィールド名 159  
 origMediaCap\_maxFramesPerPacket 159  
     CDR フィールド名 159  
 origMediaCap\_payloadCapability 159  
     CDR フィールド名 159  
 origMediaTransportAddress\_IP 159  
     CDR フィールド名 159  
 origMediaTransportAddress\_Port 159  
     CDR フィールド名 159  
 origNodeId 159  
     CDR フィールド名 159  
 origPrecedenceLevel 159  
     CDR フィールド名 159  
 origRSVPAudioStat 159  
     CDR フィールド名 159  
 origRSVPVideoStat 159  
     CDR フィールド名 159  
 origSpan 159  
     CDR フィールド名 159  
 origVideoCap\_Bandwidth 159  
     CDR フィールド名 159  
 origVideoCap\_Codec 159  
     CDR フィールド名 159  
 origVideoCap\_Resolution 159  
     CDR フィールド名 159  
 origVideoTransportAddress\_IP 159  
     CDR フィールド名 159  
 origVideoTransportAddress\_Port 159  
     CDR フィールド名 159  
 outpulsedCalledPartyNumber 159  
     CDR フィールド名 159

outpulsedCallingPartyNumber [159](#)  
 CDR フィールド名 [159](#)

## P

pkid [159, 223](#)  
 CDR フィールド名 [159](#)  
 CMR フィールド名 [223](#)

## R

Refer コール [143](#)  
 Replace コール [144](#)  
   CDR の例 [144](#)  
 RSVP [146](#)  
   CDR の例 [146](#)

## U

URL を含む SIP コール [149](#)

## V

varVQMetrics [223](#)  
 CMR フィールド名 [223](#)

## あ

アドホック会議リンク [27](#)

## い

インターコム コール [99](#)  
   CDR の例 [99](#)  
 インターネット低ビット レート コーデック [88](#)

## え

エージェントのグリーティング コール [40](#)  
 エンドツーエンド コール トレースの例 [73](#)  
 エンドツーエンド コール トレース [73](#)

## お

オン ネット コール [150](#)  
   CDR の例 [150](#)

## く

クライアント識別コード [60](#)  
   CDR の例 [60](#)  
 グローバル通話 ID [12](#)

## こ

コーデック タイプ [201](#)  
   表 [201](#)  
 コーデックのタイプ [201](#)  
   表 [201](#)  
 コール [109](#)  
   論理パーティション [109](#)  
 コール パーク [46](#)  
 コール パーク ピックアップ [47](#)  
   CDR の例 [47](#)  
 コール パーク 復帰 [48](#)  
   CDR の例 [48](#)  
 コール ピックアップ [49](#)  
 コール モニタリング [45](#)  
   CDR の例 [45](#)  
 コールのセキュリティ保護ステータス [54](#)  
   CDR の例 [54](#)  
 コールのセキュリティ保護ステータスのシナリオ [54](#)  
 コール管理レコード [219, 223, 237, 241](#)  
   K-Factor データ [237](#)  
 コール終了原因コード [204](#)  
   シスコ固有、表 [204](#)  
   表 [204](#)  
 コール診断有効サービス パラメータ [221](#)  
 コール制御処理 [9, 219](#)  
 コール録音 [52](#)  
   CDR の例 [52](#)  
 コメント [159](#)  
   CDR フィールド名 [159](#)



## さ

- サービス パラメータ [26, 221](#)
  - コール診断有効 [221](#)
  - 接続時間がゼロのコールを CDR に記録するフラグ [26](#)

## し

- シスコ固有のコール終了原因コード [204](#)
  - 表 [204](#)
- ジッタ [223](#)
  - CMR フィールド名 [223](#)
- ショートコール [148](#)
  - CDR の例 [148](#)

## せ

- セキュアなミーティング会議 [147](#)
  - CDR の例 [147](#)

## た

- タイムスタンプ [15](#)

## て

- デバイス [237](#)
  - K-Factor のサポート [237](#)

## は

- パーソナルアシスタント コール [132](#)
- パーソナルアシスタントダイレクトコール [132](#)
  - CDR の例 [132](#)
- パーソナルアシスタント会議 [139](#)
  - CDR の例 [139](#)
- パーソナルアシスタント代行受信者のメディアポートへのアクセスおよびコールの転送 [133](#)
  - CDR の例 [133](#)
- パーソナルアシスタント代行受信者の複数の宛先へのアクセス [135](#)
  - CDR の例 [135](#)
- パーソナルメディア代行受信者の宛先への直接アクセス [134](#)

- パーティションおよび番号 [13](#)

## ひ

- ピックアップ [50](#)
  - CDR の例 [50](#)
- ビデオコール [154](#)
  - CDR の例 [154](#)
- ビデオ会議コール [155](#)
  - CDR の例 [155](#)

## ふ

- ファイル名形式 [9, 219](#)
- フラットファイルの形式 [9, 219](#)

## ほ

- ボイスメッセージングシステムへの即時転送 [95](#)

## ま

- マニュアル [vii, viii, ix](#)
  - 関連 [viii](#)
  - 対象読者 [viii](#)
  - 表記法 [ix](#)
  - 目的 [vii](#)

## み

- ミーティング会議 [112](#)
  - CDR の例 [112](#)

## も

- モビリティ [113](#)
  - CDR の例 [113](#)
- モビリティ IVR [113](#)
  - CDR の例 [113](#)
- モビリティ シナリオ [113](#)
- モビリティ ハンドアウト [113](#)
  - CDR の例 [113](#)

モビリティ ハンドイン **113**

CDR の例 **113**

モビリティ フォロー ミー **113**

CDR の例 **113**

モビリティ 携帯電話ピックアップ **113**

CDR の例 **113**

## り

リダイレクション (3xx) **141**

CDR の例 **141**

リダイレクション (3xx) コール **141**

リダイレクトコール **79**

リダイレクト理由コード **211**

表 **211**

リンクされた会議からのコントローラの削除 **34**

CDR の例 **34**

リンクされた会議からの参加者 (コントローラ) の削除 **34**

リンクされた会議からの参加者の削除 **32**

CDR の例 **32**

リンクされた会議の削除 **37**

CDR の例 **37**

## る

ルーティング原因値 **199**

外部コール制御の **199**

## れ

レガシー コール ピックアップ **106**

CDR の例 **106**

## ろ

ローカル ルート グループ **107**

CDR の例 **107**